

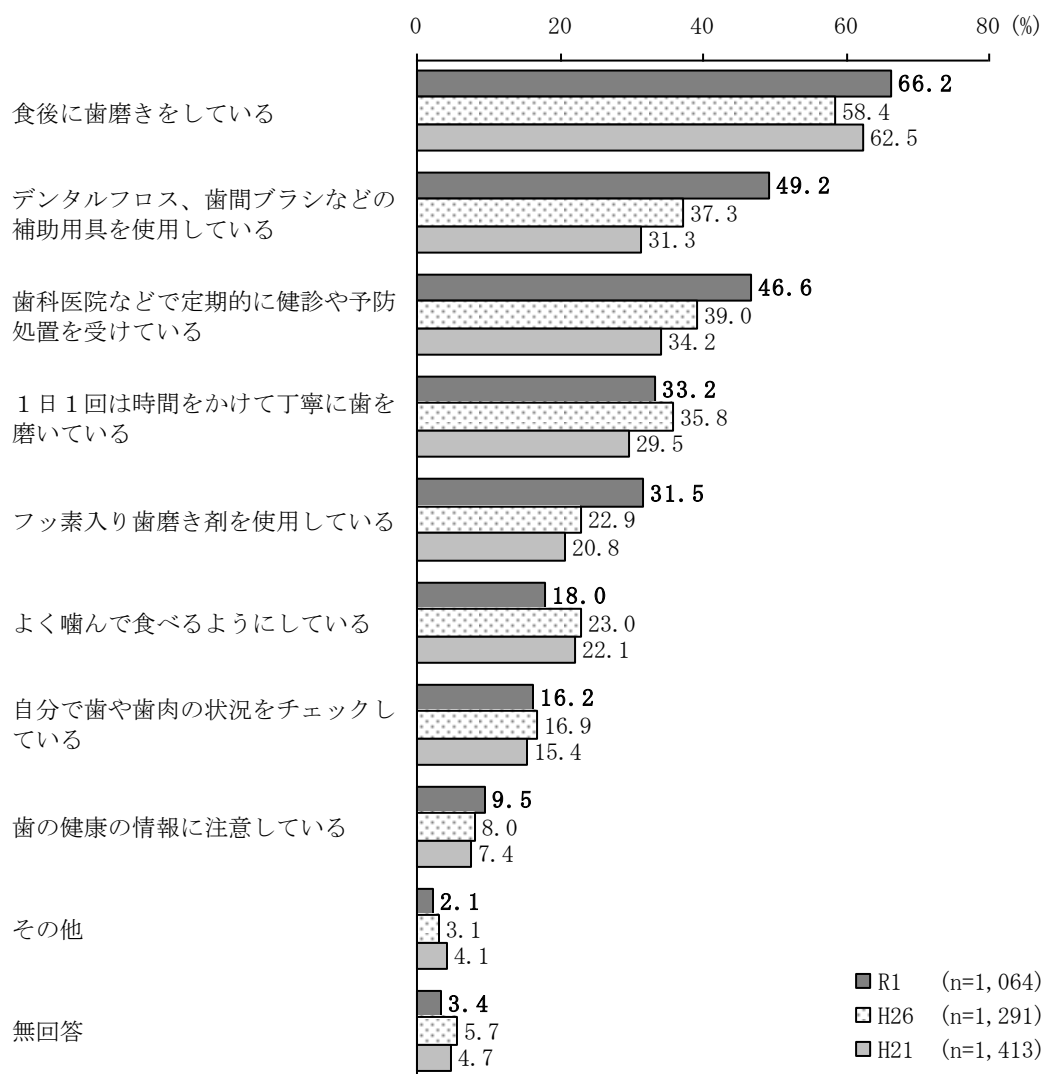
5. 健康管理状況について

(1) 歯の健康維持

—半数近くの人が、デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助用具を使用している—

問29 あなたが歯・口腔の健康維持のために実践していることは、次のうちどれですか。(当てはまるものすべてに○)

図 5-1 歯の健康維持



歯・口腔の健康維持のために実践していることを聞いたところ、「食後に歯磨きをしている」(66.2%)が最も高く、次いで「デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助用具を使用している」(49.2%)、「歯科医院などで定期的に健診や予防処置を受けている」(46.6%)、「1日1回は時間をかけて丁寧に歯を磨いている」(33.2%)、「フッ素入り歯磨き剤を使用している」(31.5%)の順となった(図5-1)。

性別・年代別にみると、「食後に歯磨きをしている」「デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助器具を使用している」は、女性のほうが男性より比率が高くなっている（図5-2）。

図5-2 歯の健康維持（性別・年代別）

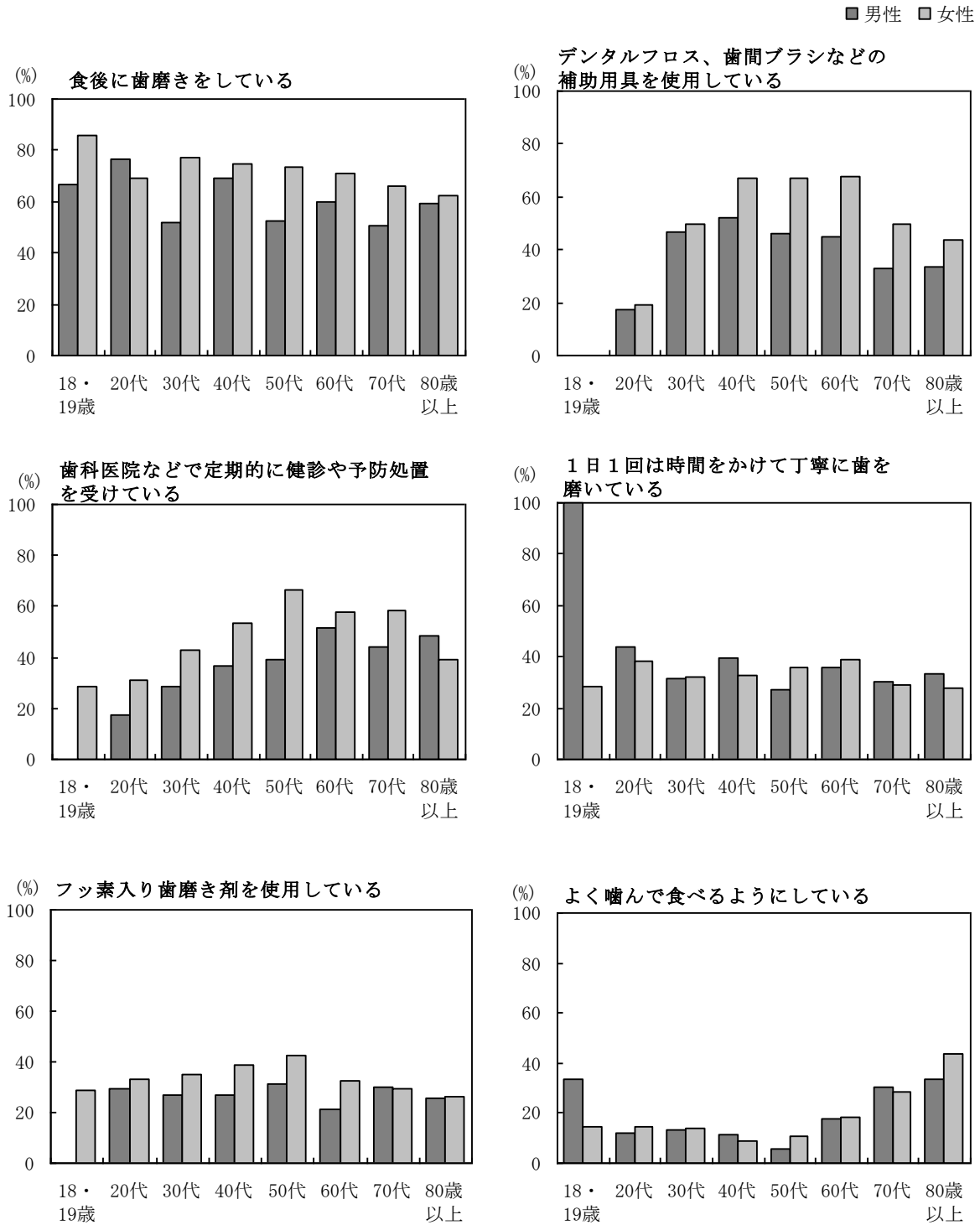
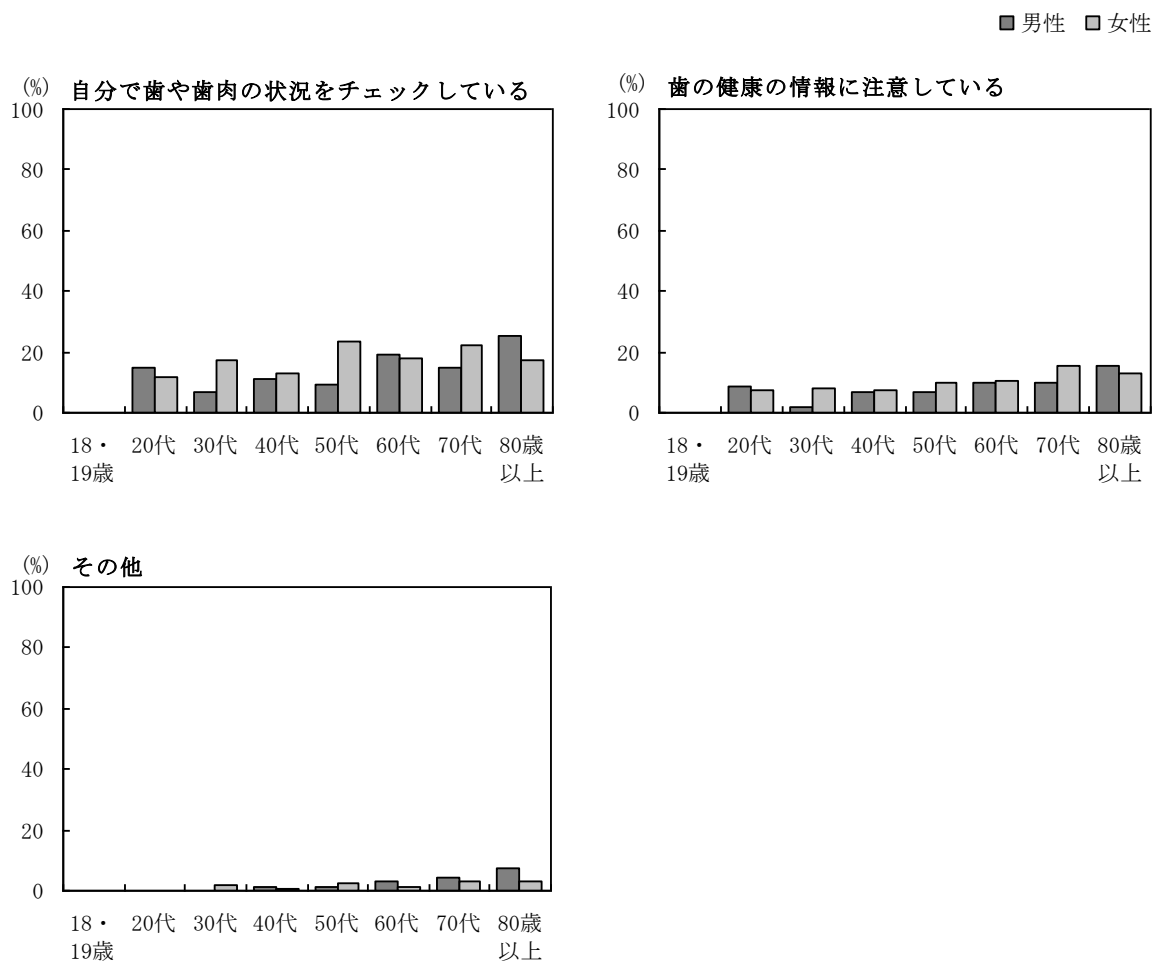
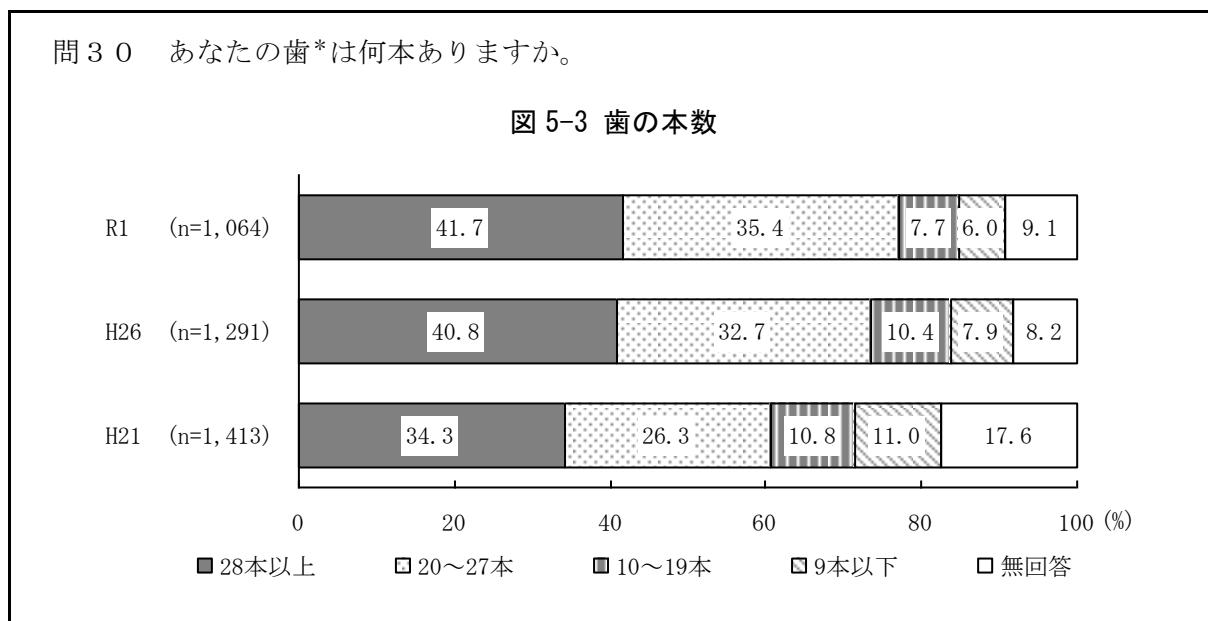


図 5-2 歯の健康維持（性別・年代別）つづき



(2) 歯の本数

— 80歳以上で20本以上自分の歯を有する人は、4割を超えている —



* 「あなたの歯」には、親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。さし歯は含みます。親知らずを除くと全部で28本ですが、28本より多かったり少なかったりすることもあります。

歯の本数を聞いたところ、「28本以上」(41.7%)が最も高く、次いで「20~27本」(35.4%)、「10~19本」(7.7%)、「9本以下」(6.0%)の順であった(図5-3)。

性別で見ると、男性では「28本以上」の比率が女性に比べて高くなっている(図5-4)。

年代別にみると、50代から「28本以上」と回答した比率が低くなり始めており、「10~19本」や「9本以下」の比率が高くなっていく傾向がみられる(図5-5)。

図 5-4 歯の本数（性別）

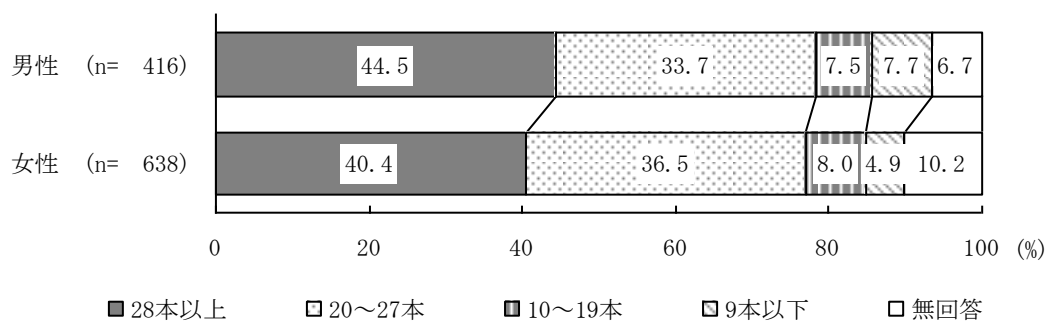
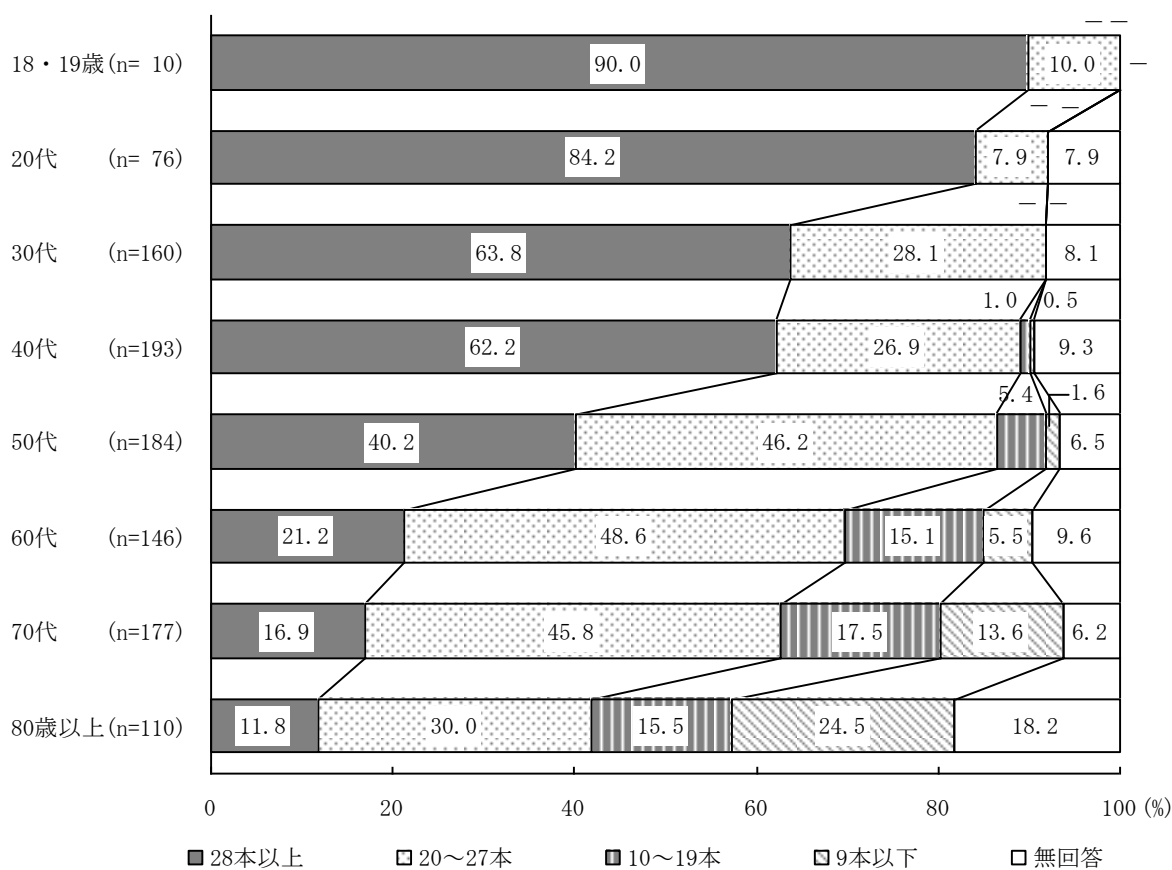
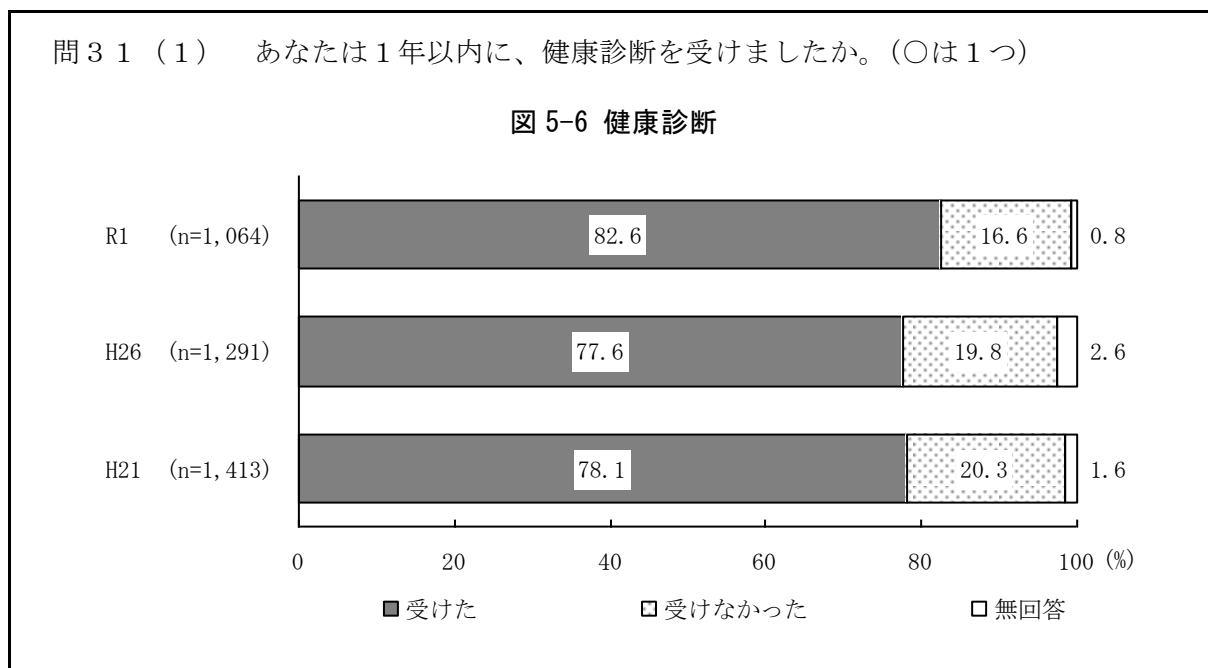


図 5-5 歯の本数（年代別）



(3) 健康診断

－ 8割以上の人が、健康診断を受けている－



1年以内に健康診断を受けたか聞いたところ、「受けた」と回答した比率は82.6%であった(図5-6)。

年代別にみると、30代では「受けた」の比率が、他の年代と比べて低くなっている(図5-7)。

加入健康保険別にみると、健康保険組合、共済組合に加入している人では9割以上が「受けた」と回答している(図5-8)。

図 5-7 健康診断（年代別）

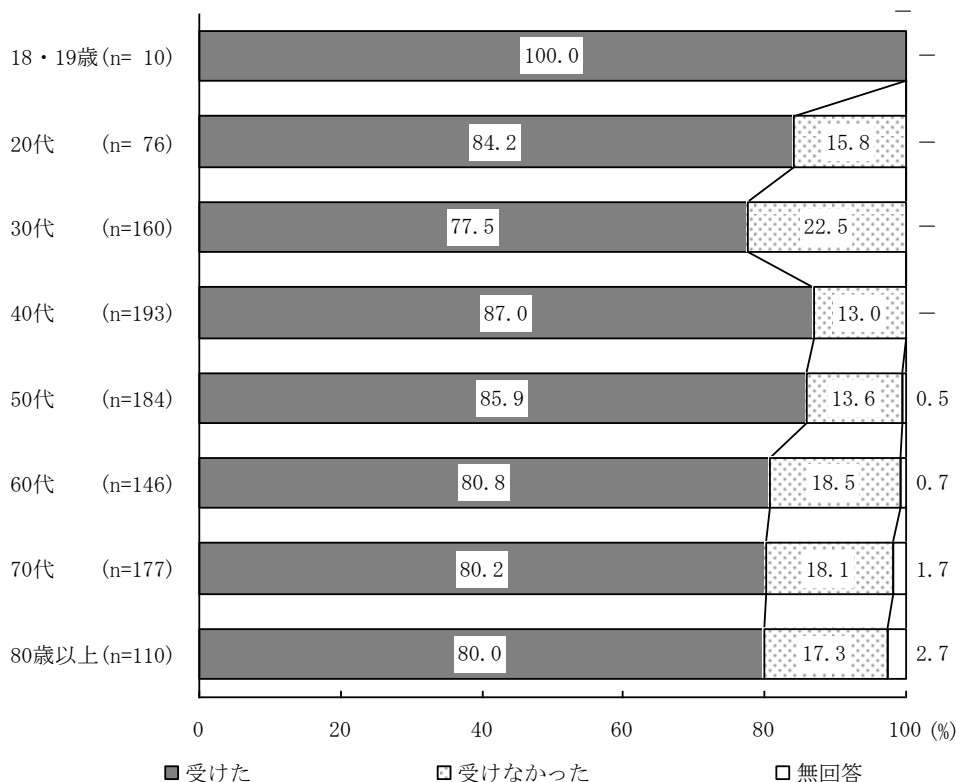
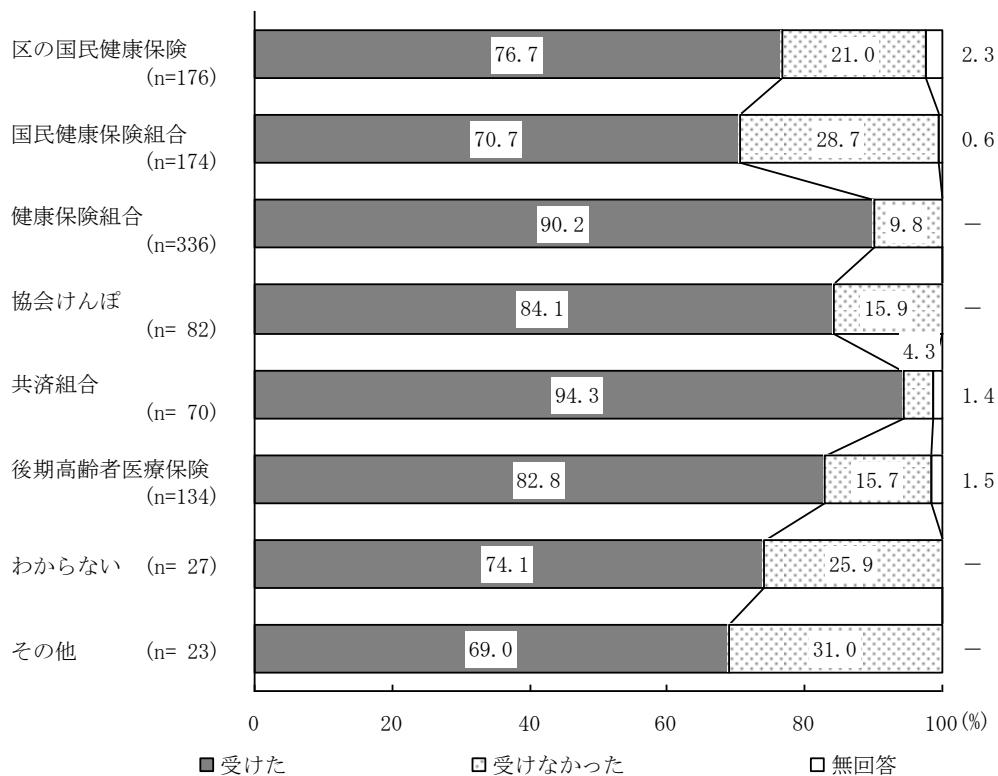
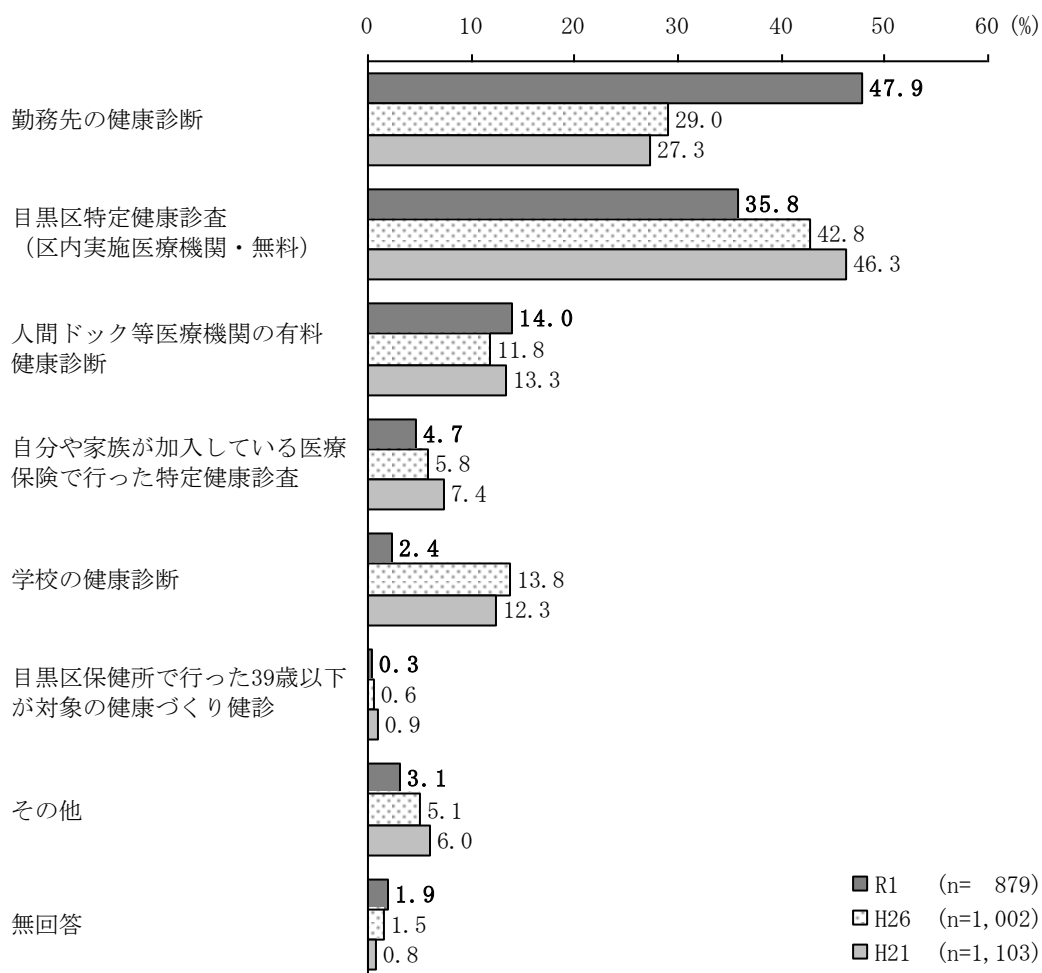


図 5-8 健康診断（加入健康保険別）



問31(2) 問31(1)で「1」と答えた方にお尋ねします。
 どのような健康診断を受けましたか。(当てはまるものすべてに○)

図5-9 健康診断の形態

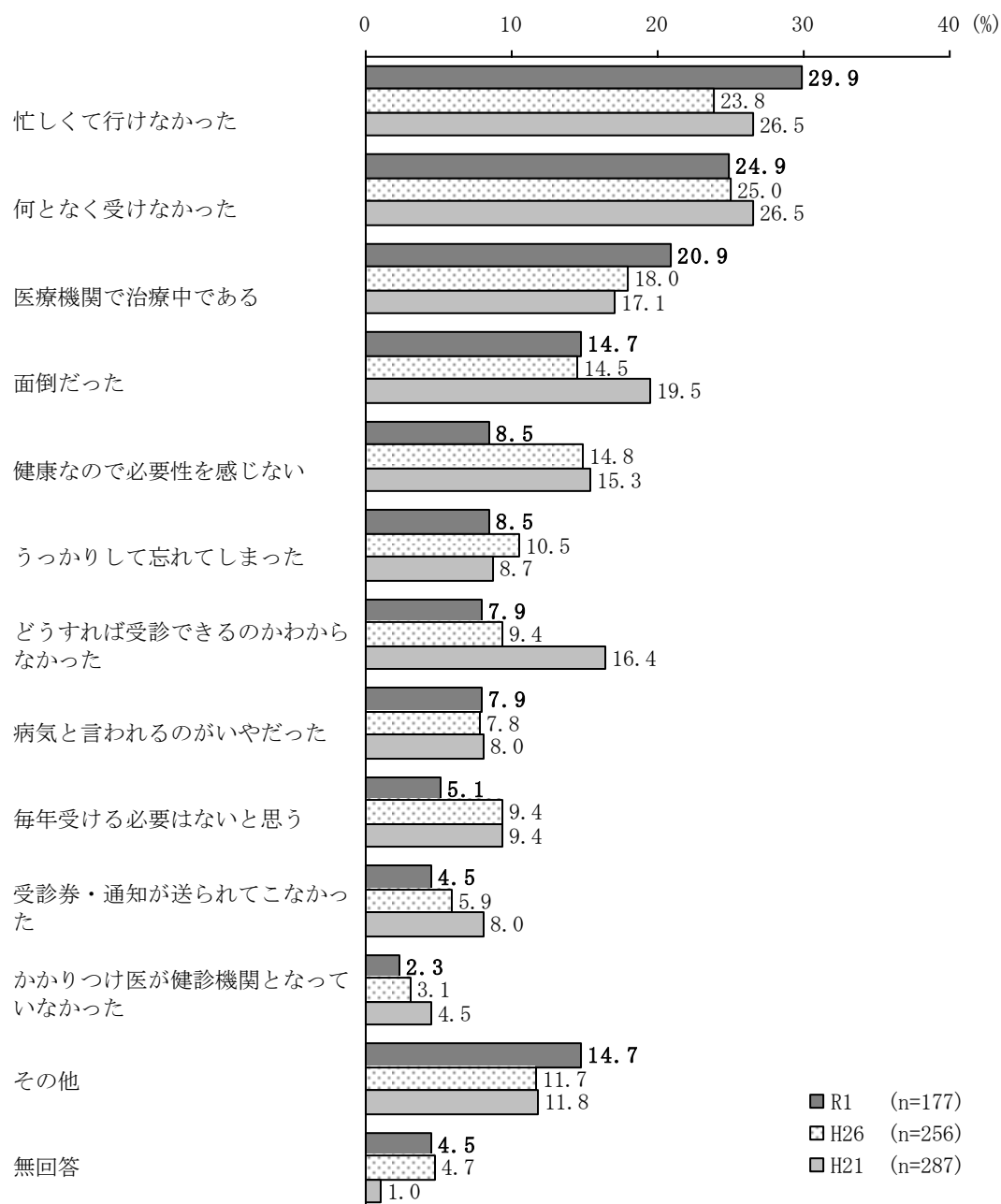


問31(1)で「受けた」と回答した人に、どのような健康診断を受けたか聞いたところ、「勤務先の健康診断」(47.9%)が最も高く、次いで「目黒区特定健康診査(区内実施医療機関・無料)」(35.8%)であった(図5-9)。

問31(3) 問31(1)で「2」と答えた方にお尋ねします。

健康診断を受けなかった理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

図5-10 未受診理由



問31(1)で「受けなかった」と回答した人に、健康診断を受けなかった理由を聞いたところ、「忙しくて行けなかった」(29.9%)、「何となく受けなかった」(24.9%)の回答が多く、次いで「医療機関で治療中である」(20.9%)、「面倒だった」(14.7%)の順であった(図5-10)。

5. 健康管理状況について

性別で見ると、男性は「何となく受けなかった」の比率が最も高く、女性は「忙しくて行けなかった」の比率が最も高くなっている（図 5-11）。

年代別にみると、30代と40代では「忙しくて行けなかった」の比率が4割以上で高くなっている（図 5-12）。

性別・年代別にみると、男性の30代と40代、女性の20代から50代では、「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている（図 5-13、図 5-14）。

加入健康保険別にみると、基数が少ないものを除くと、国民健康保険組合、健康保険組合に加入している人では、「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている（図 5-15）。

図 5-11 未受診理由（性別）

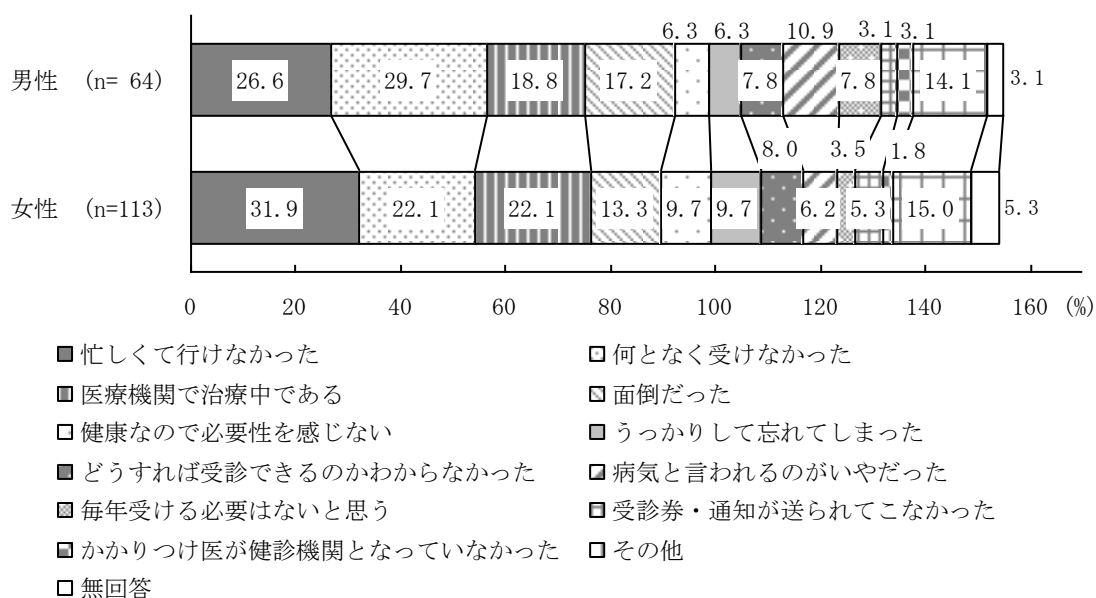


図 5-12 未受診理由（年代別）

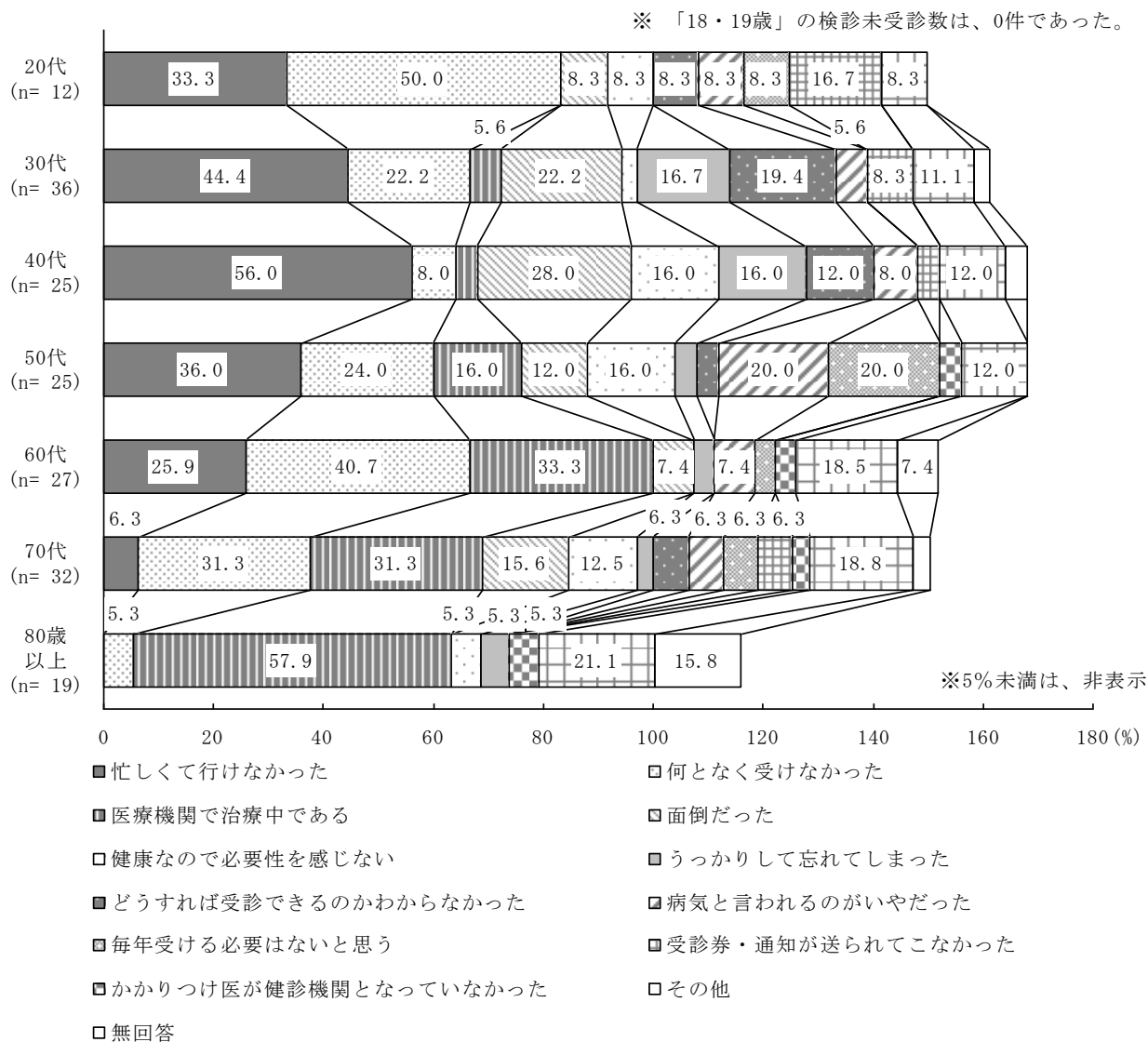


図 5-13 未受診理由（男性・年代別）

※ 「18・19歳」の検診未受診数は、0件であった。

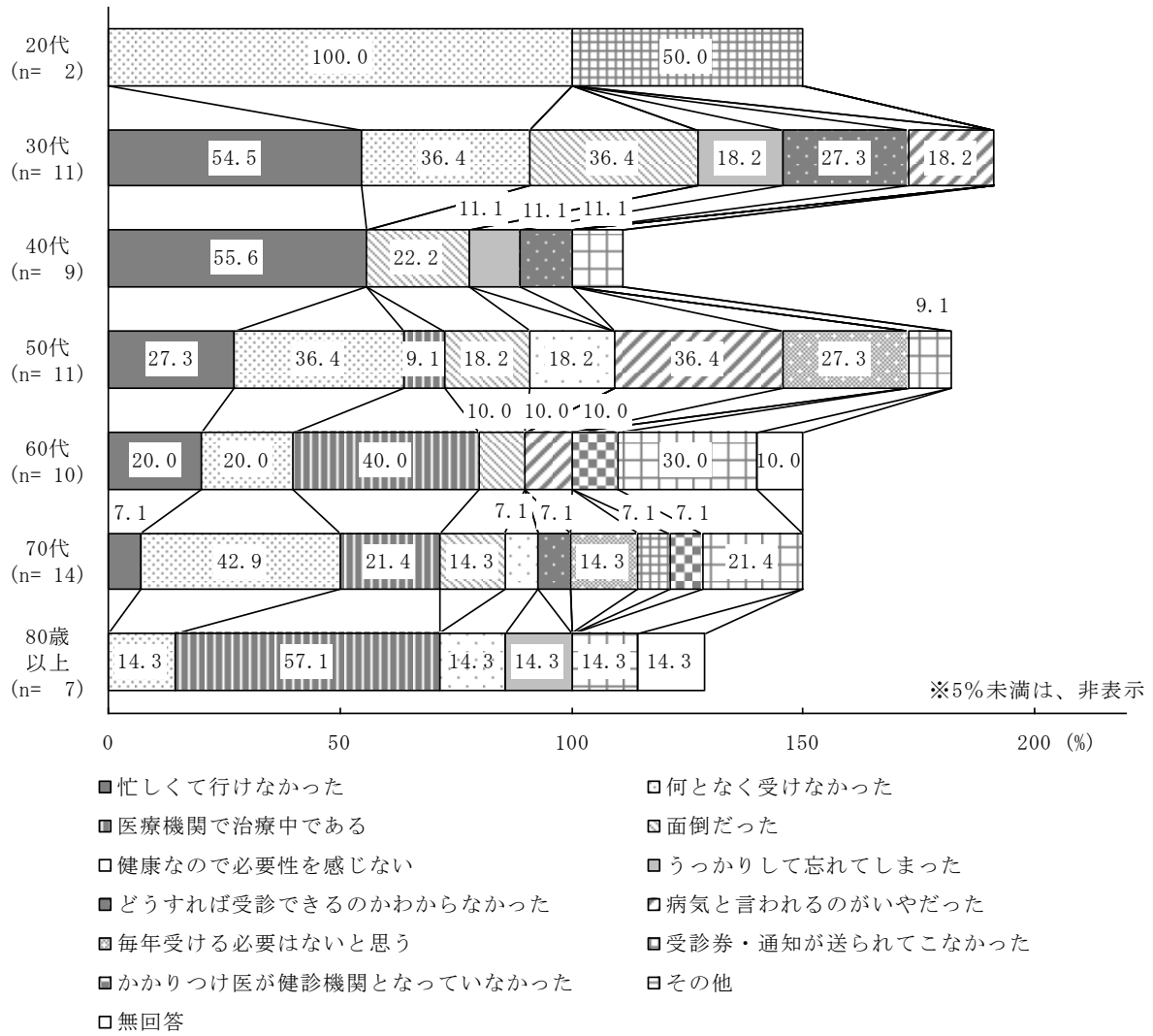


図 5-14 未受診理由（女性・年代別）

※ 「18・19歳」の検診未受診数は、0件であった。

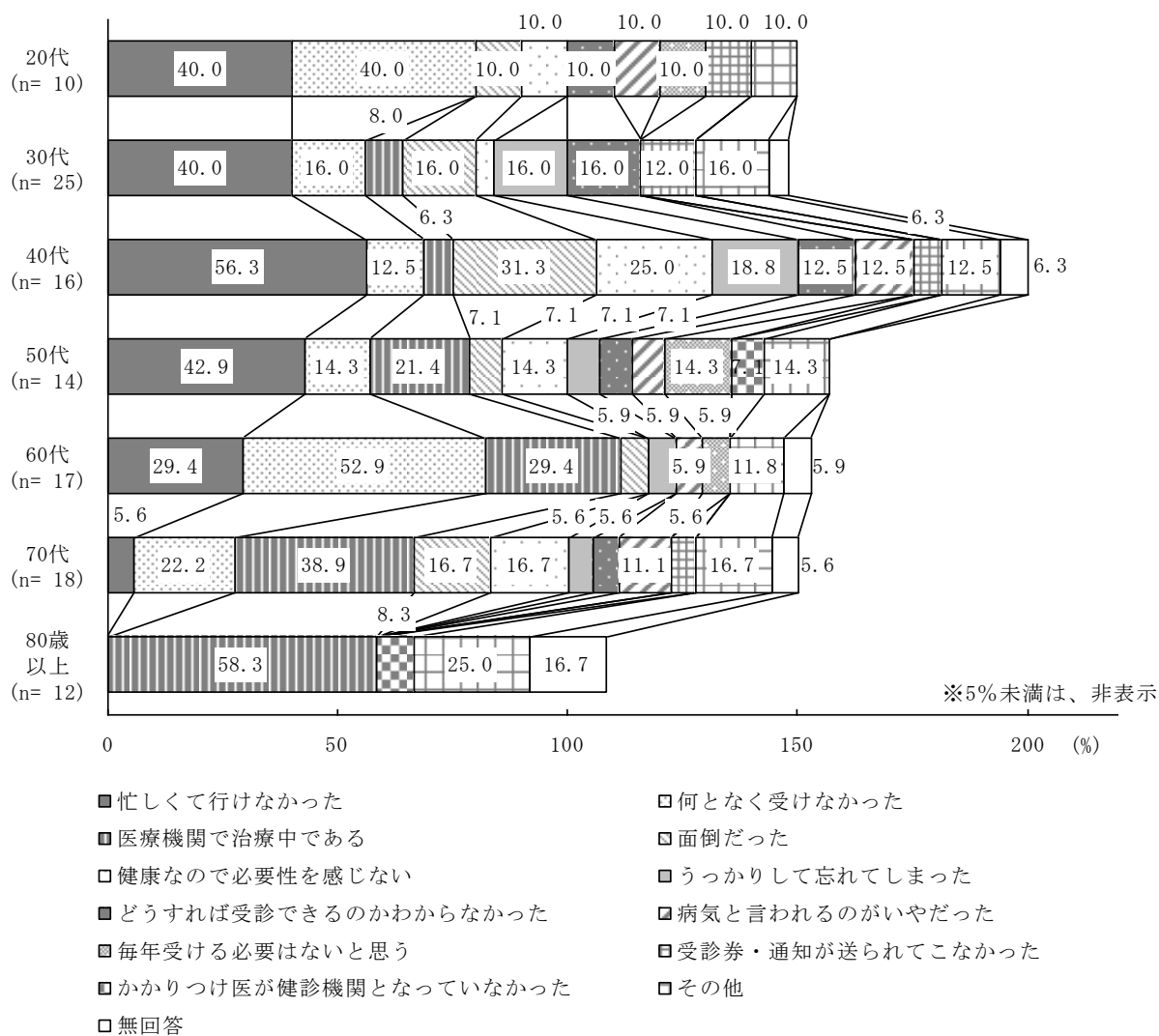
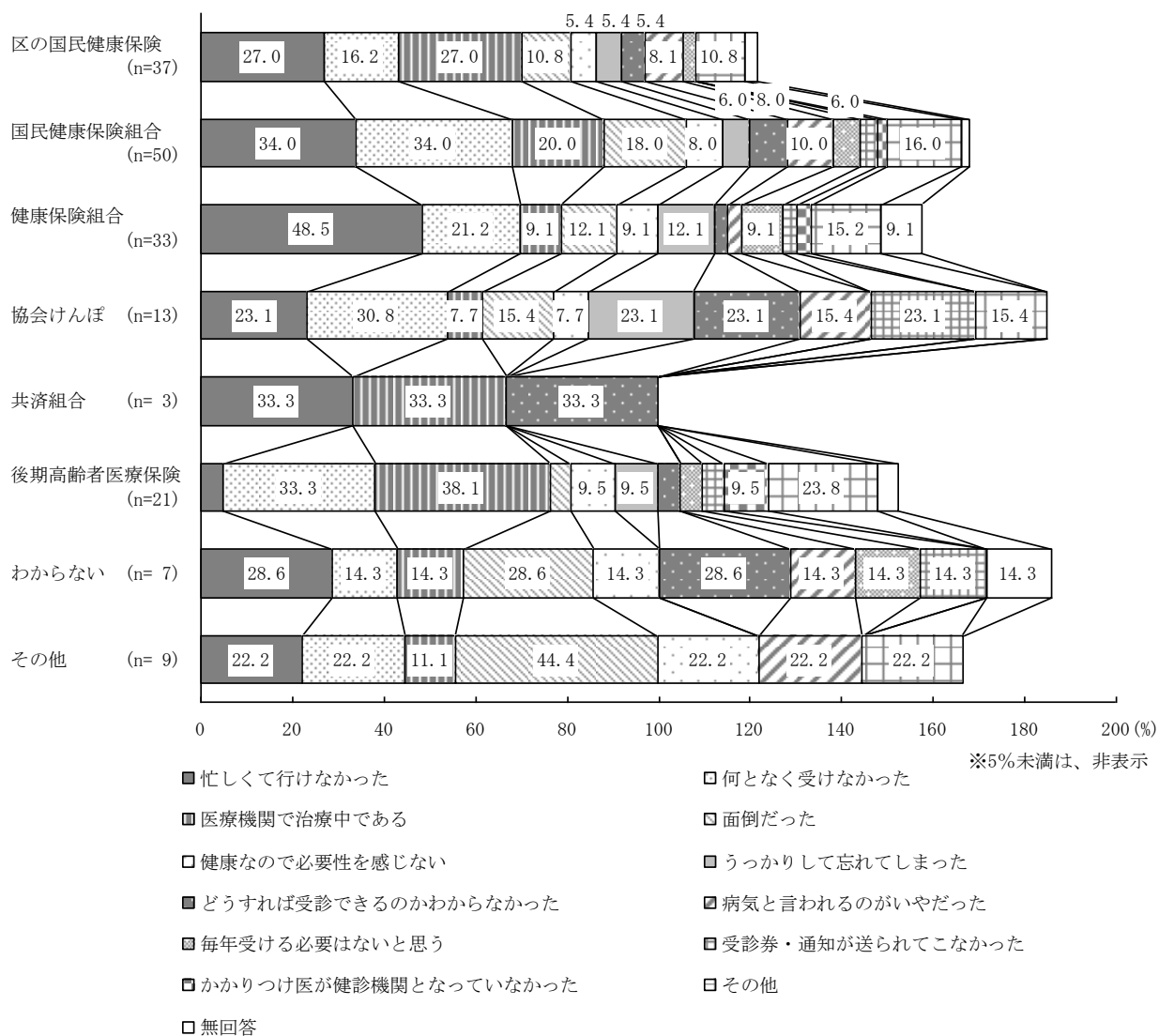
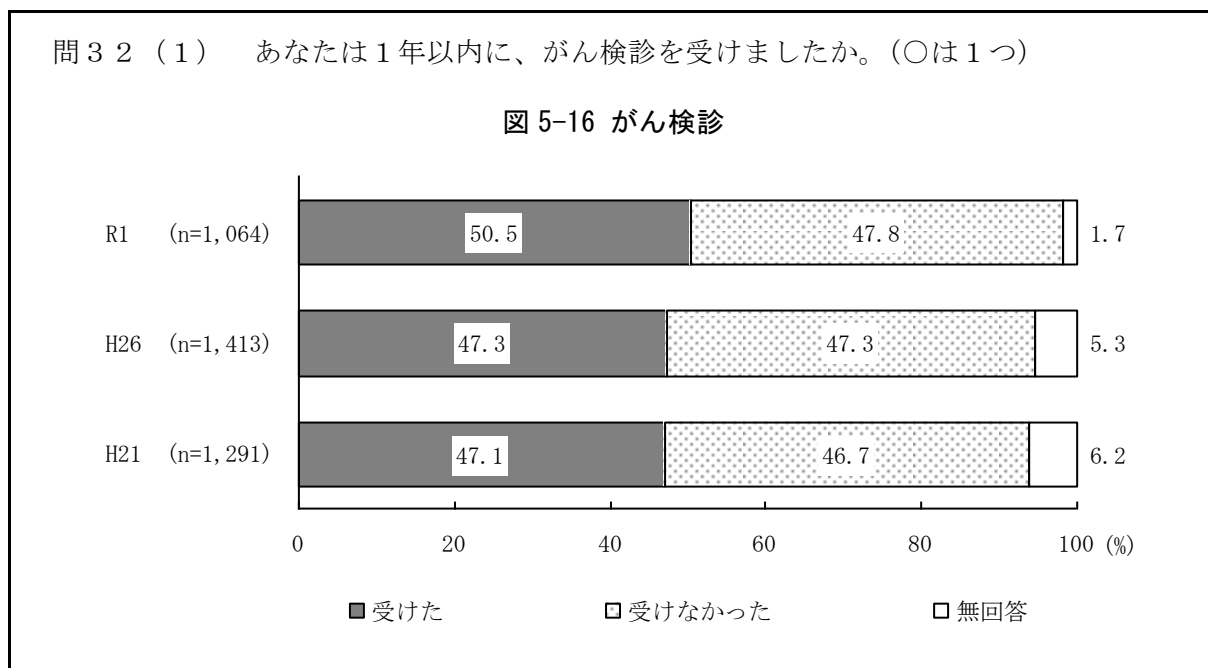


図 5-15 未受診理由（加入健康保険別）



(4) がん検診

－ 5割の人が、がん検診を受けている－



1年以内にごがん検診を受けたか聞いたところ、「受けた」が50.5%、「受けなかった」が47.8%であった(図5-16)。

年代別にみると、40代では「受けた」人が6割以上となっている(図5-17)。

加入健康保険別にみると、区国民健康保険に加入している人では、「受けた」の比率が6割近くとなっている(図5-18)。

図 5-17 がん検診（年代別）

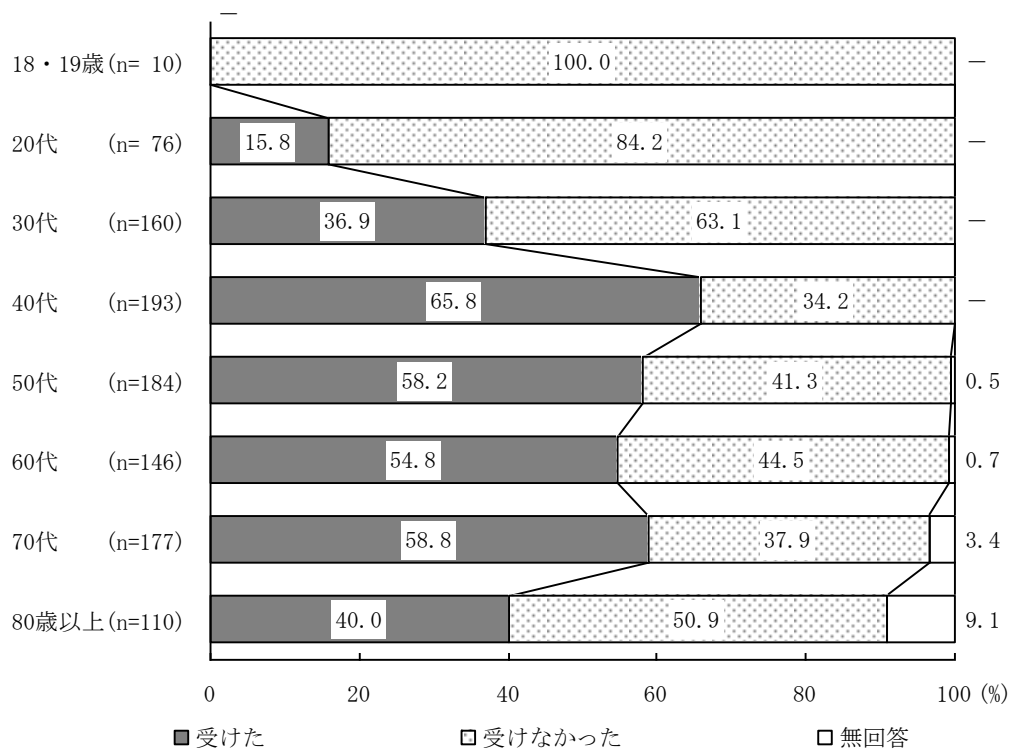
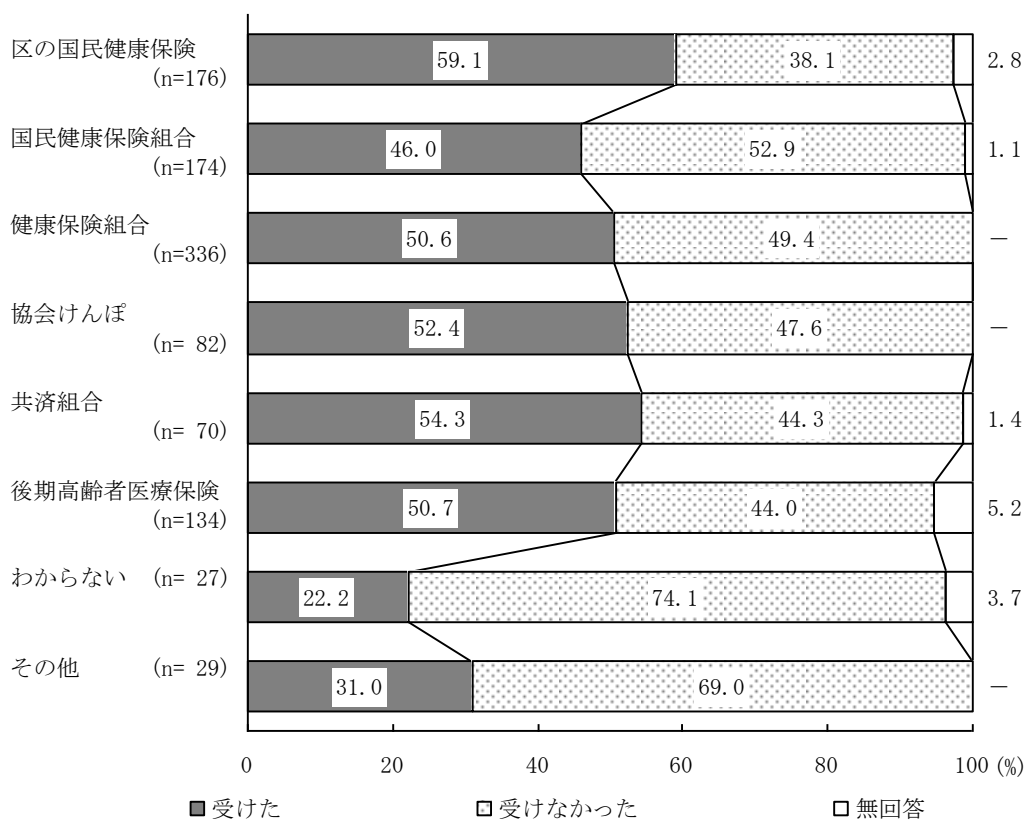
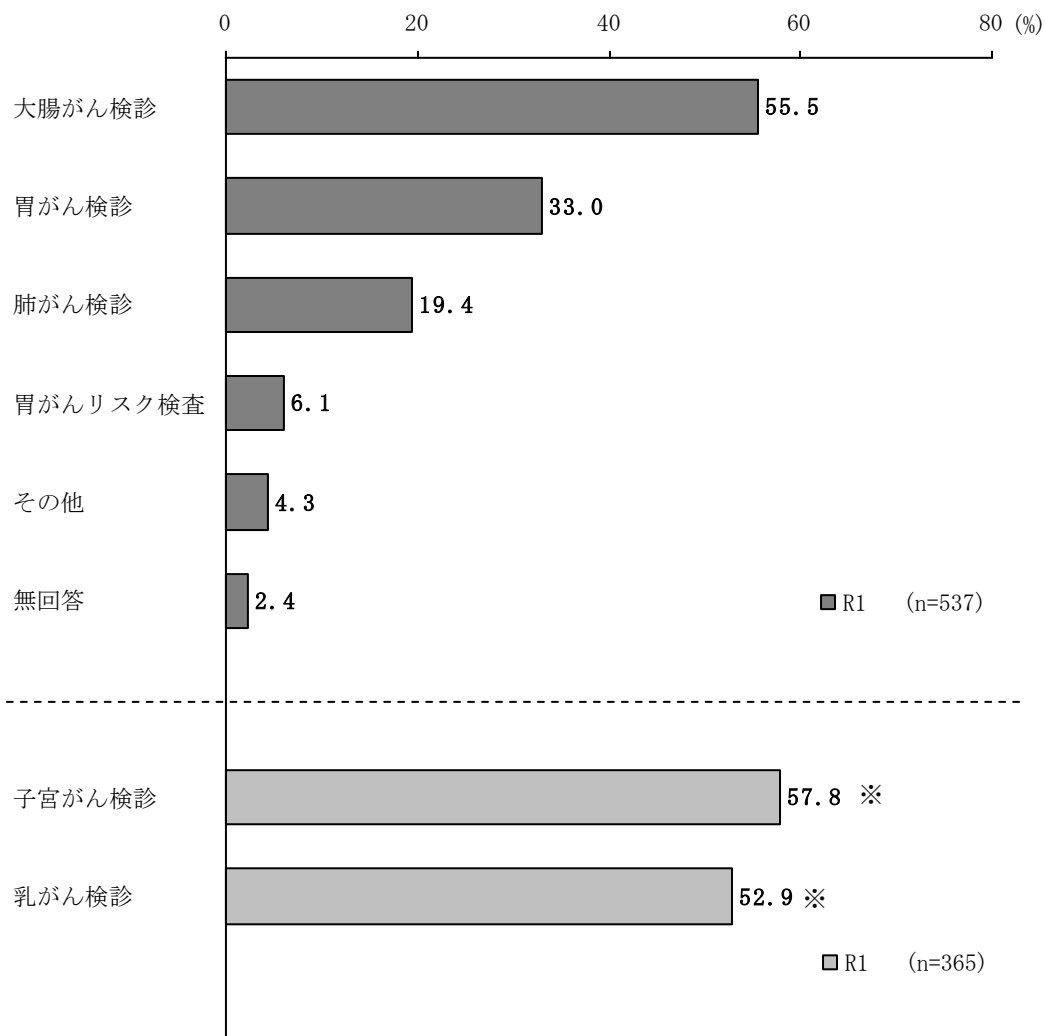


図 5-18 がん検診（加入健康保険別）



問32(2) 問32(1)で「1」と答えた方にお尋ねします。どのようながん検診を受けましたか。(当てはまるものすべてに○)

図5-19 がん検診の種類

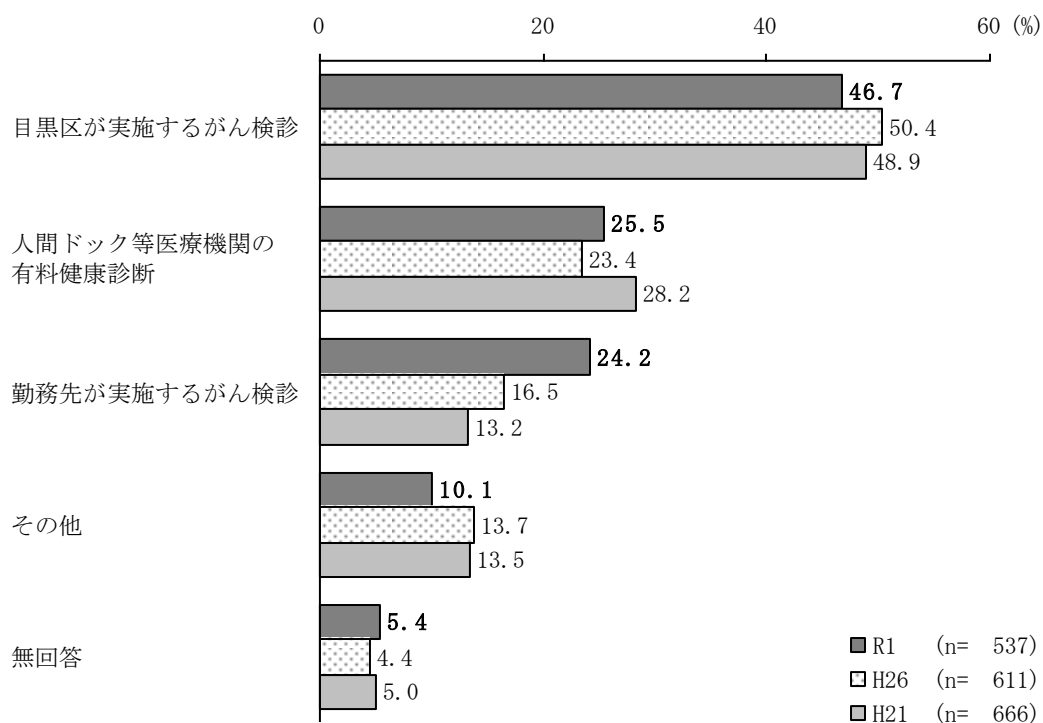


※ 「子宮がん検診」、「乳がん検診」については、問32(1)で「受けた」と回答した女性の値を基数とした。

問32(1)で「受けた」と回答した人に受診したがん検診の種類を聞いたところ、「大腸がん検診」(55.5%)、「胃がん検診」(33.0%)、「肺がん検診」(19.4%)となっている。また、女性を対象とした検診については、「子宮がん検診」(57.8%)、「乳がん検診」(52.9%)となっている(図5-19)。

問32(3) 問32(1)で「1」と答えた方にお尋ねします。
 それはどこで受けましたか。(当てはまるものすべてに○)

図 5-20 がん検診の受診場所

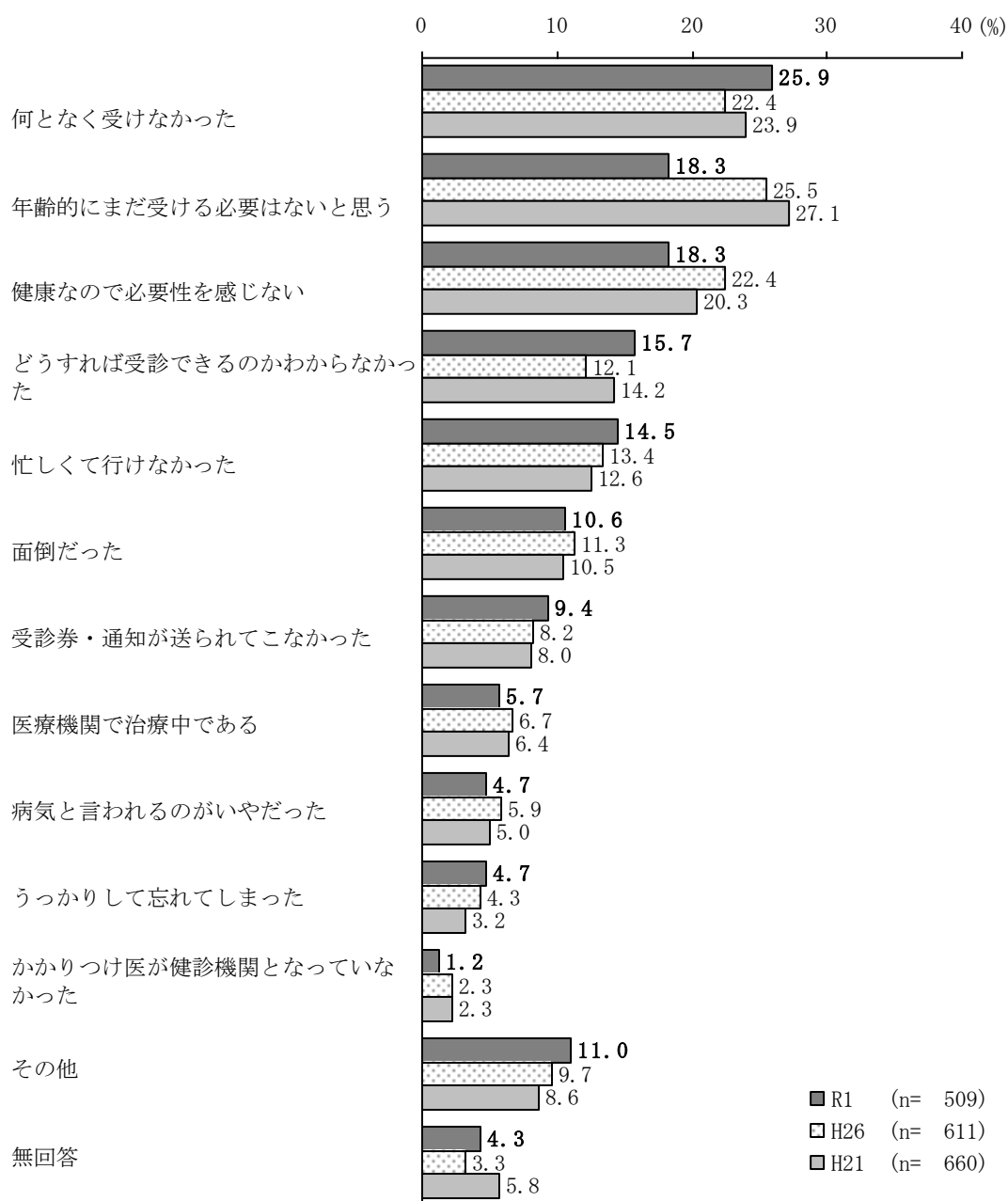


問32(1)で「受けた」と回答した人に検診の受診場所を聞いたところ、「目黒区が実施するがん検診」(46.7%)が最も高く、次いで「人間ドック等医療機関の有料健康診断」(25.5%)、「勤務先が実施するがん検診」(24.2%)であった(図5-20)。

問32(4) 問32(1)で「2」と答えた方にお尋ねします。

がん検診を受けなかった理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

図5-21 がん検診未受診理由



問32(1)で「受けなかった」と回答した人に受診しなかった理由を聞いたところ、「何となく受けなかった」(25.9%)が最も高く、次いで「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」(18.3%)、「健康なので必要性を感じない」(18.3%)が続いている(図5-21)。

性別で見ると、男性、女性ともに「何となく受けなかった」が高くなっている。また、男性では「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」の比率も高くなっている（図 5-22）。

年代別にみると、30 代以下では「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」の比率が他の年代に比べて高くなっている。また、40 代から 70 代にかけて「何となく受けなかった」の比率が高くなっている（図 5-23）。

性別・年代別にみると、男性では 60 代、女性では 30 代から 60 代において、「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている（図 5-24、図 5-25）。

加入健康保険別にみると、基数が少ないものを除くと、健康保険組合、協会けんぽ、共済組合に加入している人では、「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」の比率が高くなっている（図 5-26）。

図 5-22 がん検診未受診理由（性別）

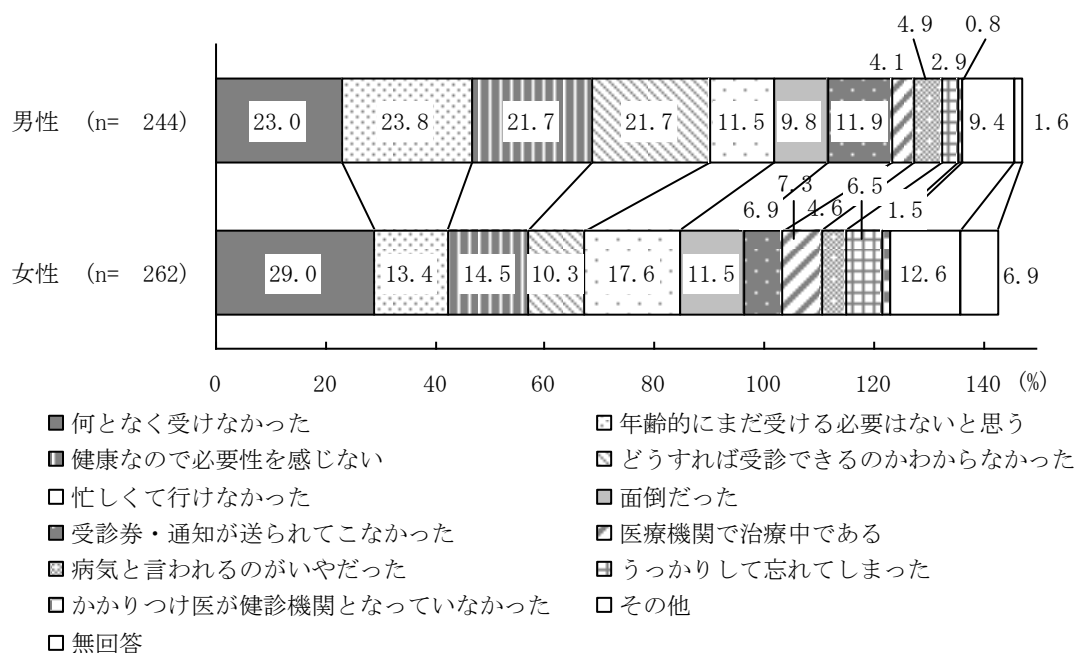


図 5-23 がん検診未受診理由（年代別）

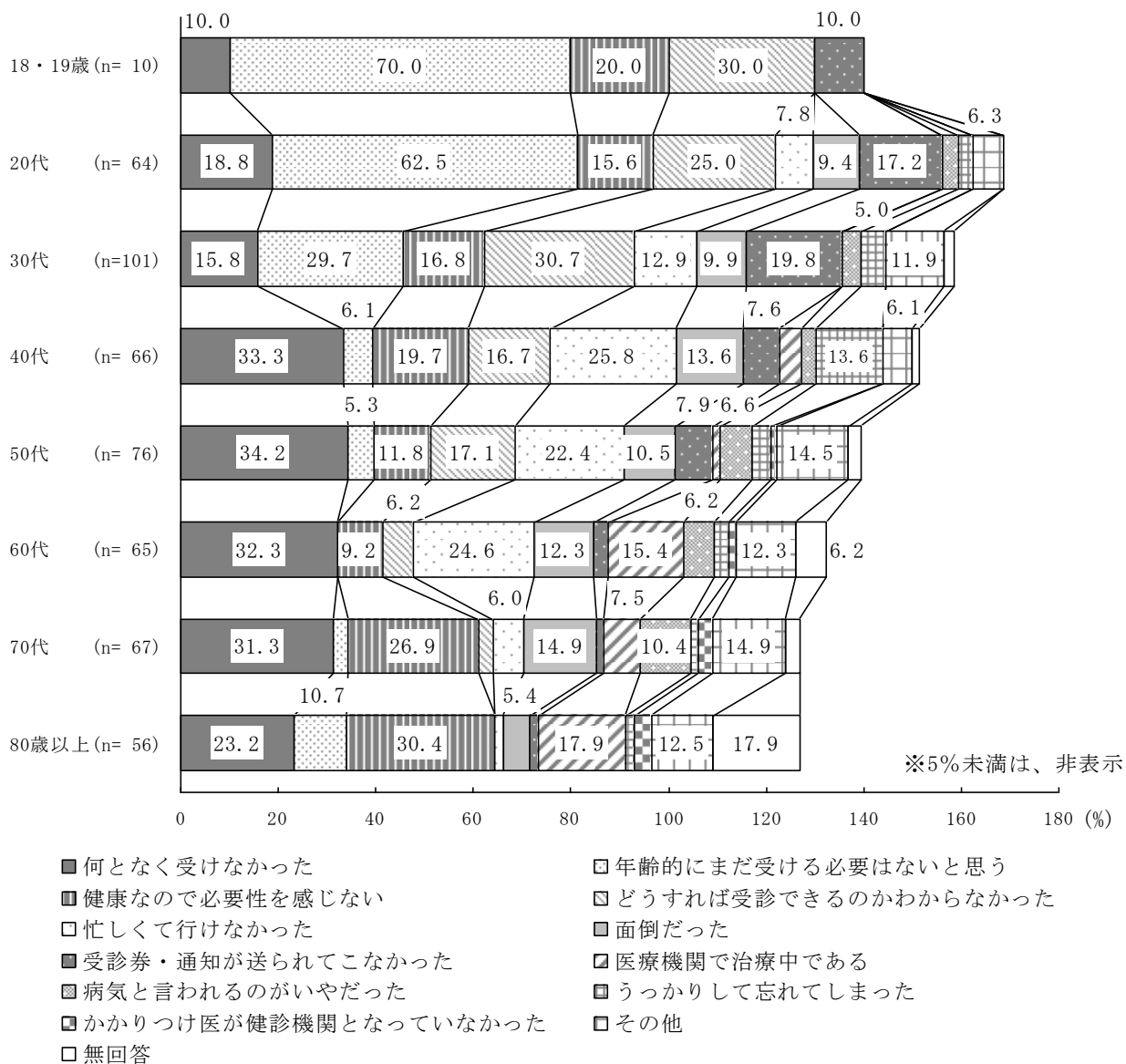


図 5-24 がん検診未受診理由（男性・年代別）

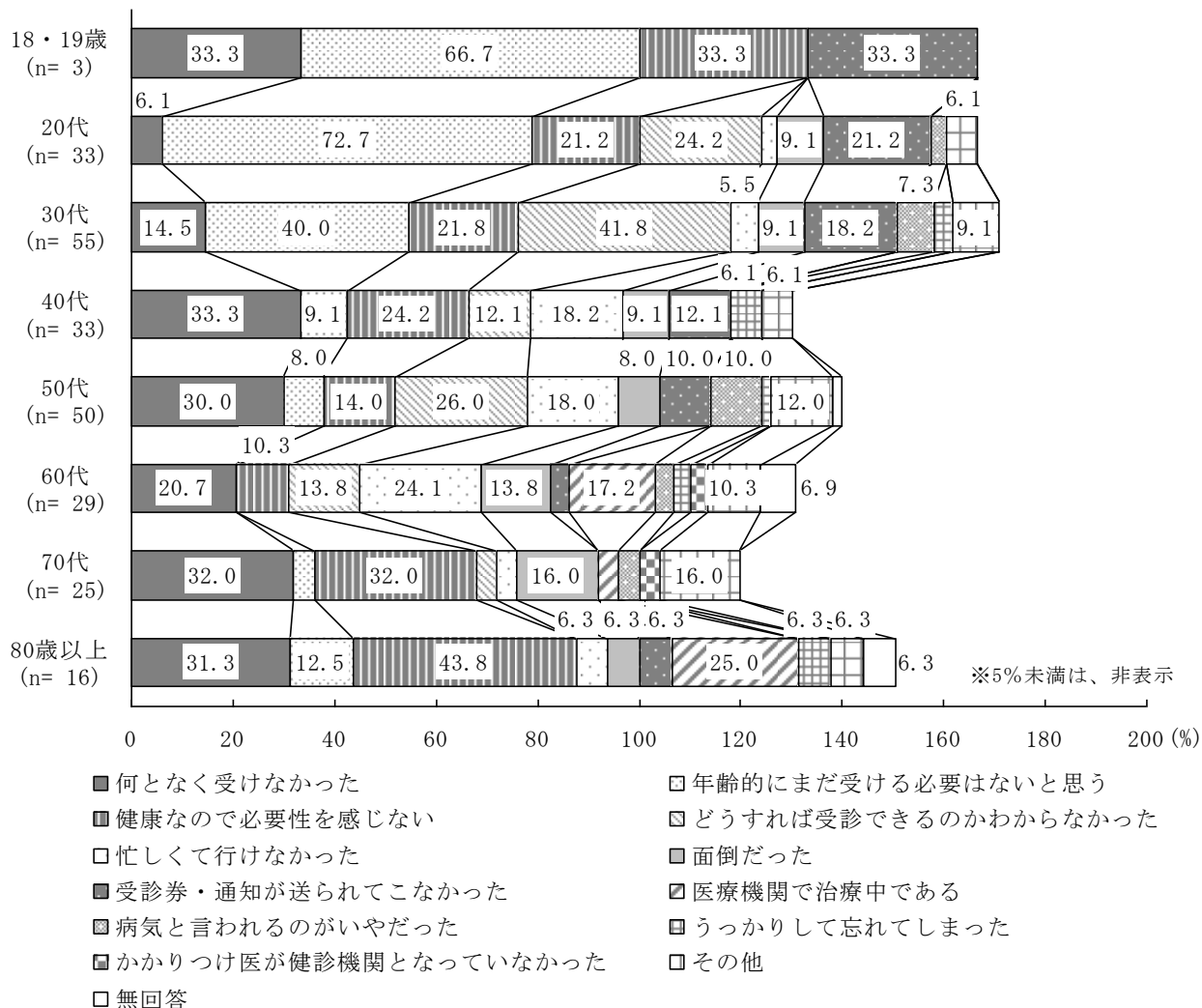


図 5-25 がん検診未受診理由（女性・年代別）

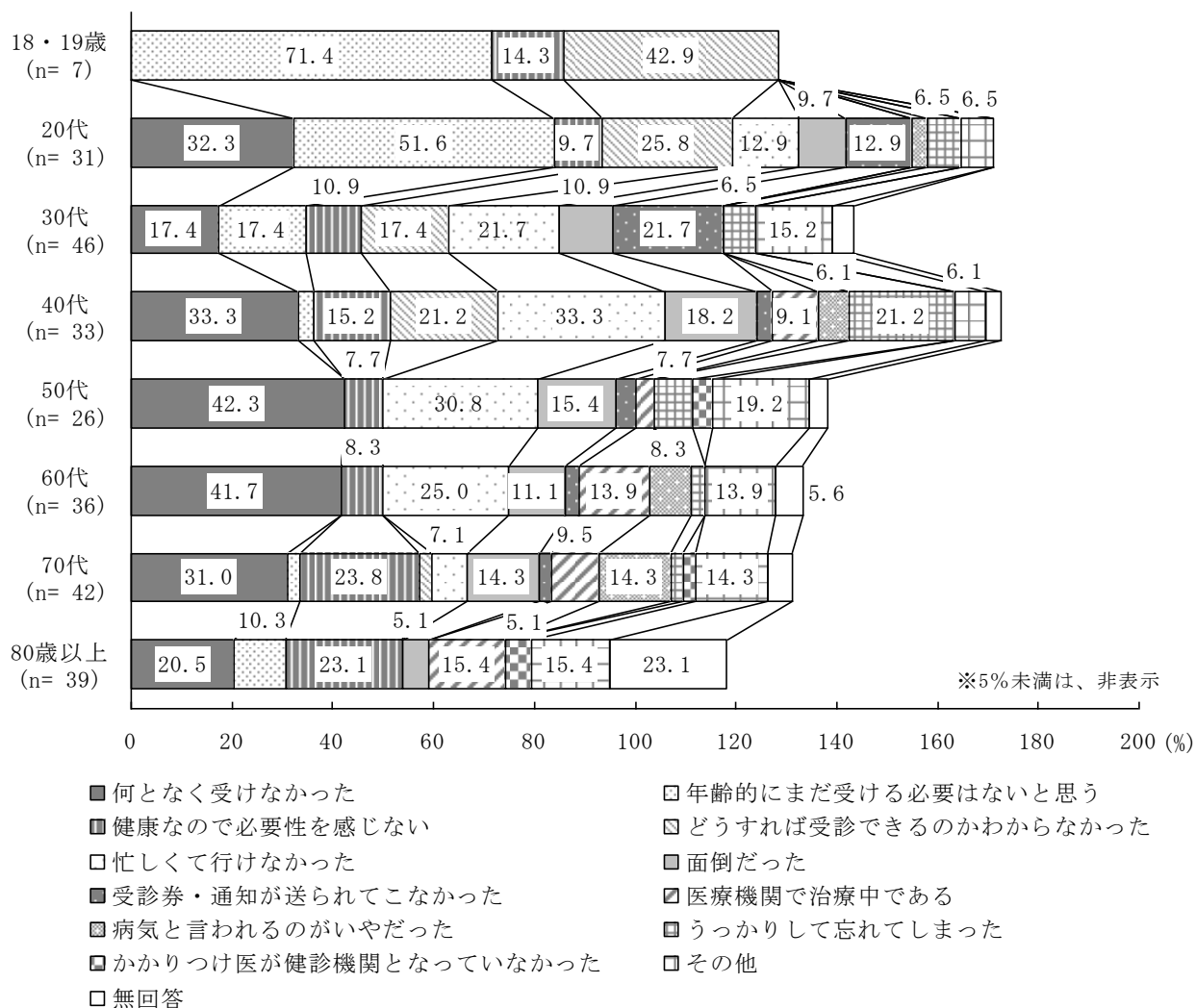
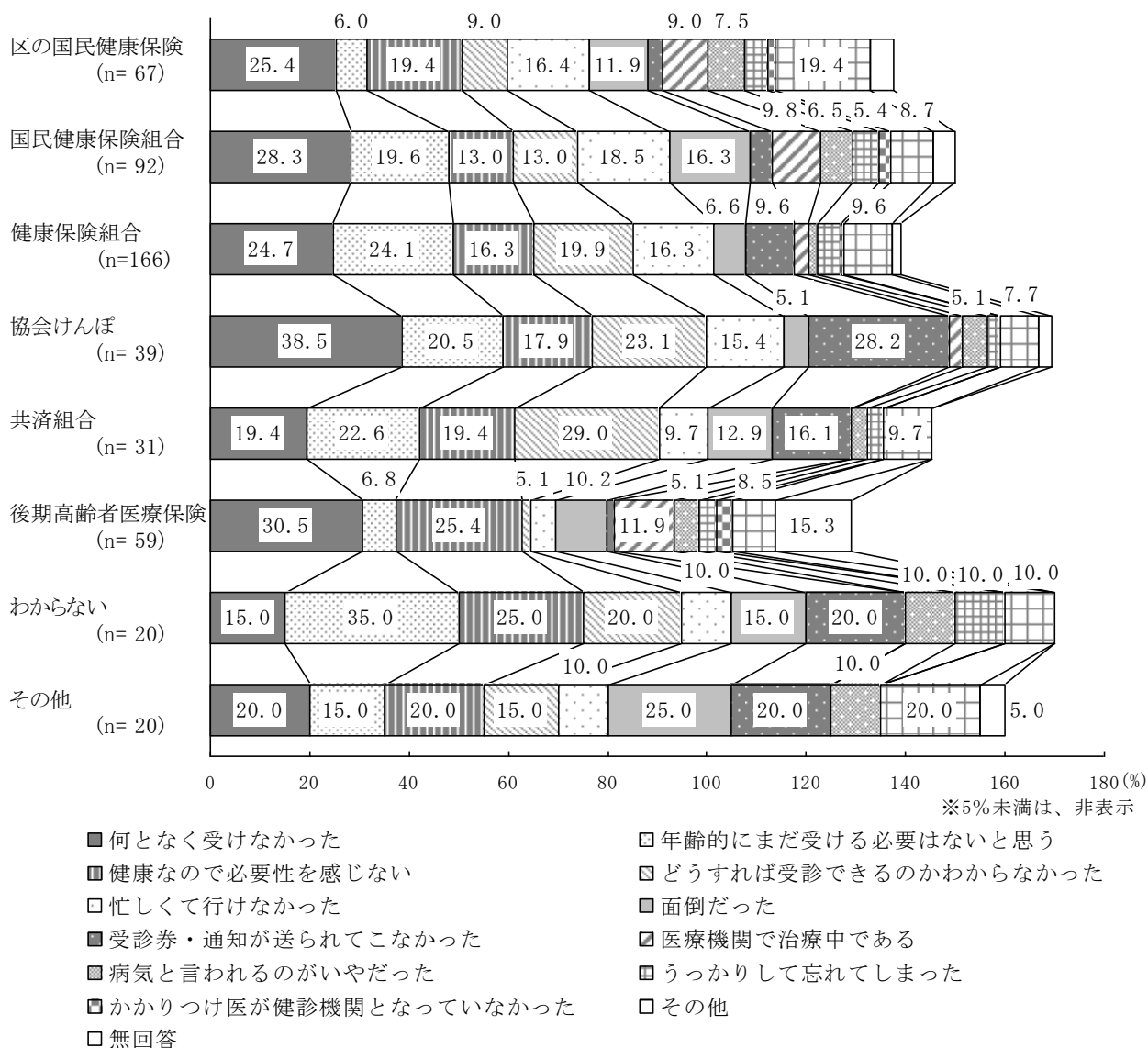


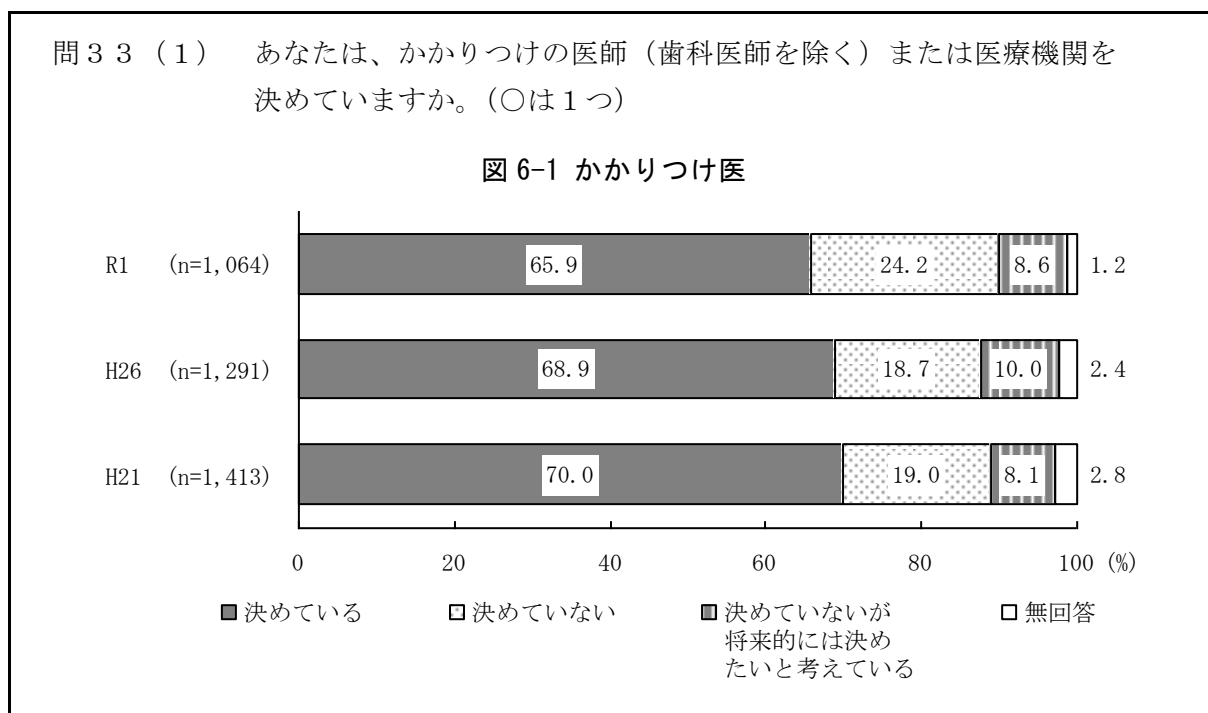
図 5-26 がん検診未受診理由（加入健康保険別）



6. かかりつけ医や医療サービスについて

(1) かかりつけ医

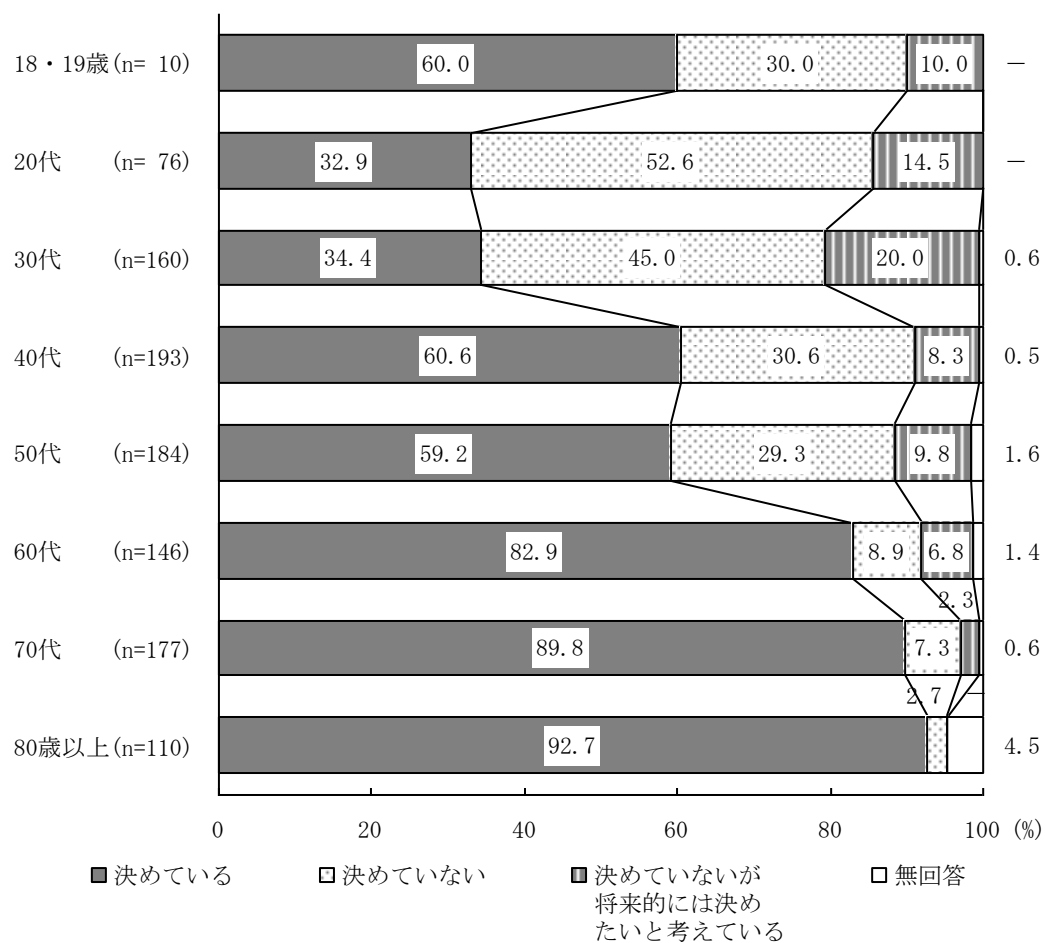
－ 6割以上の方が、かかりつけ医を決めている－



かかりつけの医師（歯科医師を除く）または医療機関を決めているか聞いたところ、「決めている」が65.9%、「決めていない」が24.2%、「決めていないが将来的には決めたいと考えている」が8.6%であった（図6-1）。

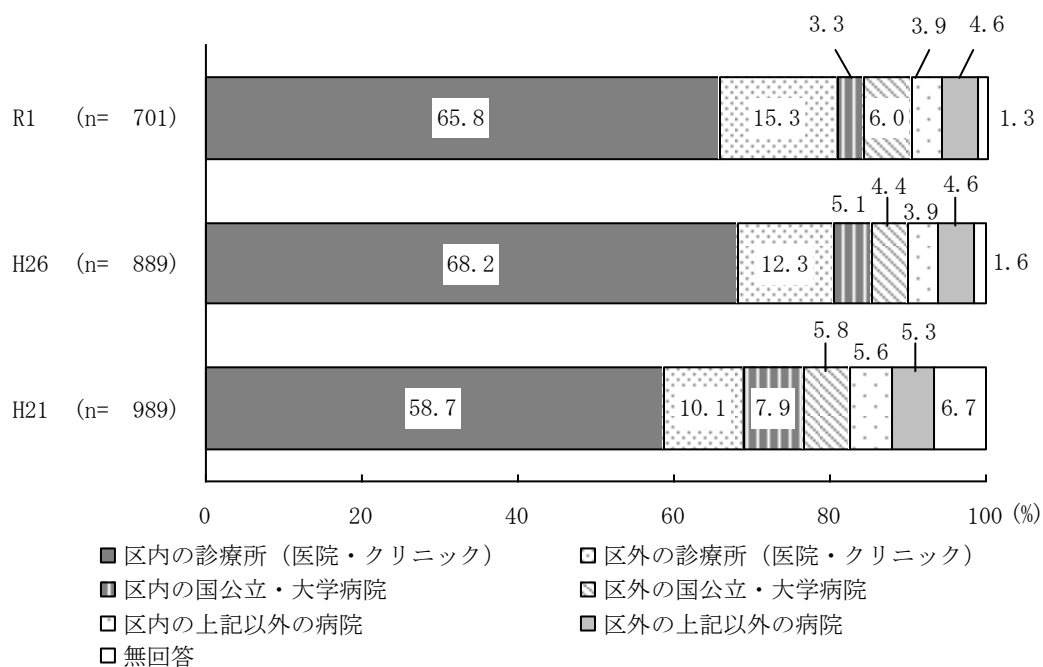
年代別にみると、40代と50代では「決めている」と回答した比率が6割前後であり、60代以上では8割以上と高くなっている（図6-2）。

図 6-2 かかりつけ医（年代別）



問33 (2) (1)で「1」と答えた方にお尋ねします。そのかかりつけ医は、次のうちどれですか。(○は1つ)

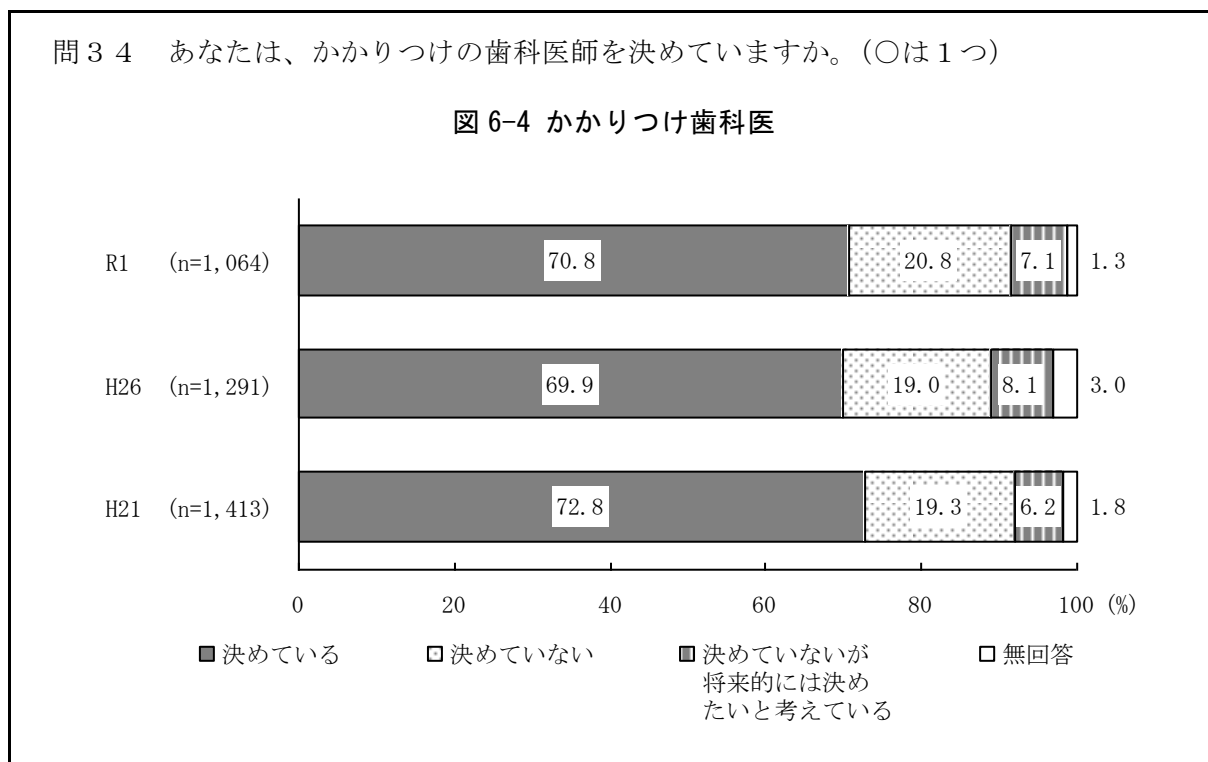
図 6-3 かかりつけ医の種類



問33 (1)で「決めている」と回答した人に、そのかかりつけ医について聞いたところ、「区内の診療所（医院・クリニック）」(65.8%)が最も高く、次いで「区外の診療所（医院・クリニック）」(15.3%)、「区外の国公立・大学病院」(6.0%)の順となり、6割以上の方が「区内の診療所」をかかりつけ医としている結果となった(図6-3)。

(2) かかりつけ歯科医

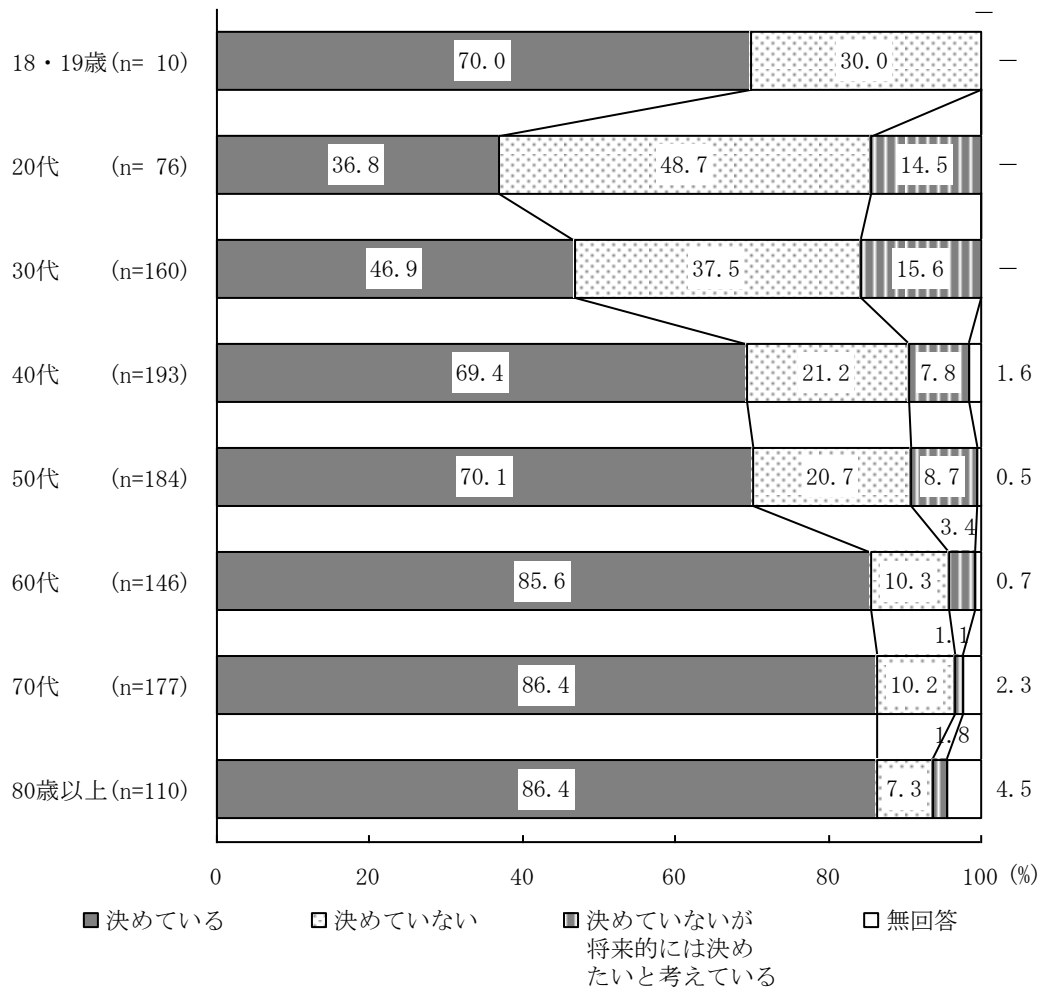
－ 7割の人が、かかりつけ歯科医を決めている－



かかりつけの歯科医師を決めているか聞いたところ、「決めている」が70.8%、「決めていない」が20.8%、「決めていないが将来的には決めたいと考えている」が7.1%であった(図6-4)。

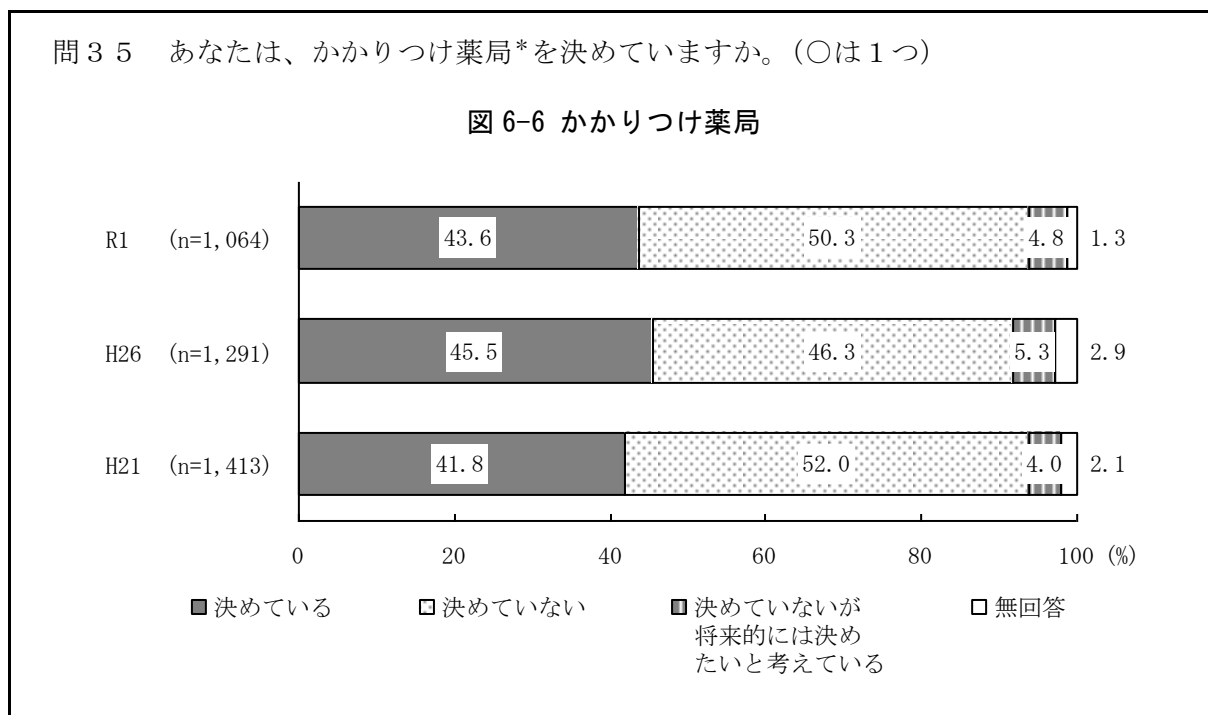
年代別にみると、40代と50代では「決めている」と回答した比率が7割前後であり、60代以上では8割以上と高くなっている(図6-5)。

図 6-5 かかりつけ歯科医（年代別）



(3) かかりつけ薬局

－ 4割以上の方が、かかりつけ薬局を決めている－

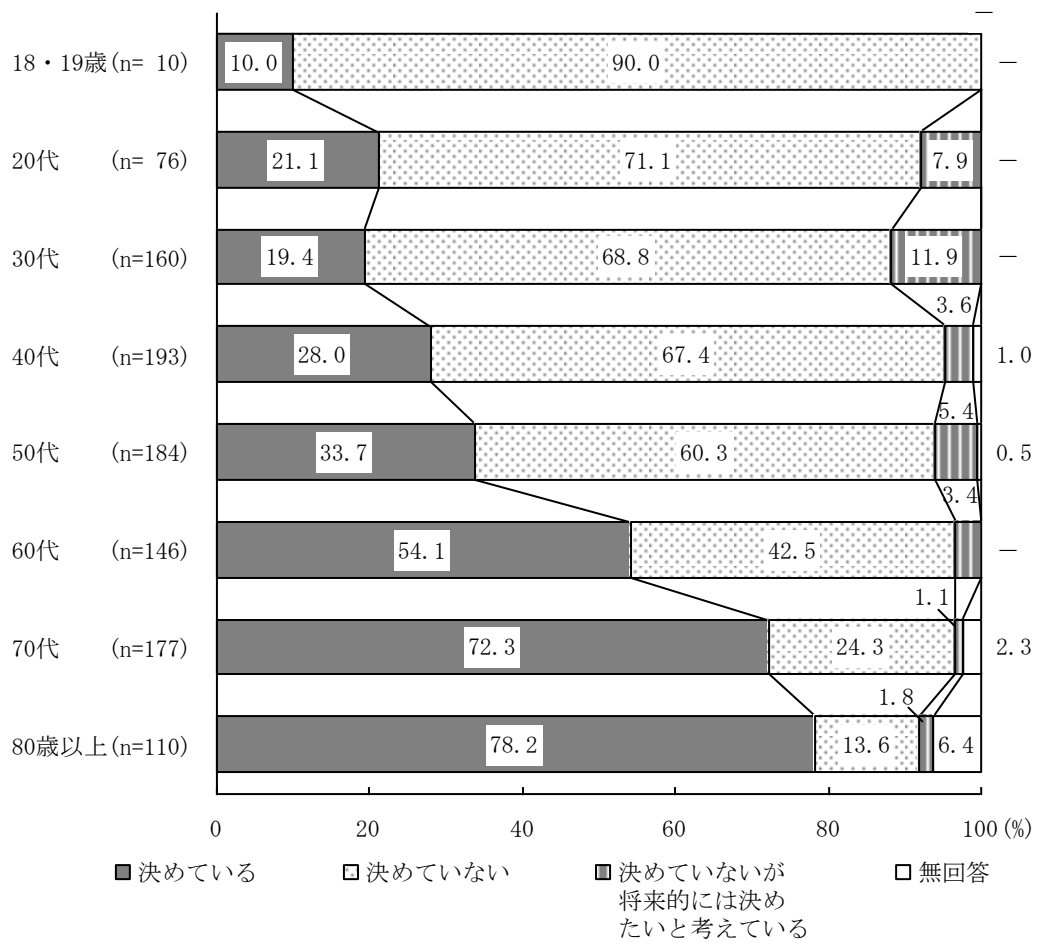


* 「かかりつけ薬局」とは、薬や健康について、信頼して相談できる調剤薬局のことをいいます。

かかりつけ薬局を決めているか聞いたところ、「決めている」が43.6%、「決めていない」が50.3%、「決めていないが将来的には決めたいと考えている」が4.8%であった(図6-6)。

年代別にみると、40代以上では、年代が上がるにつれて「決めている」が高くなっている(図6-7)。

図 6-7 かかりつけ薬局 (年代別)



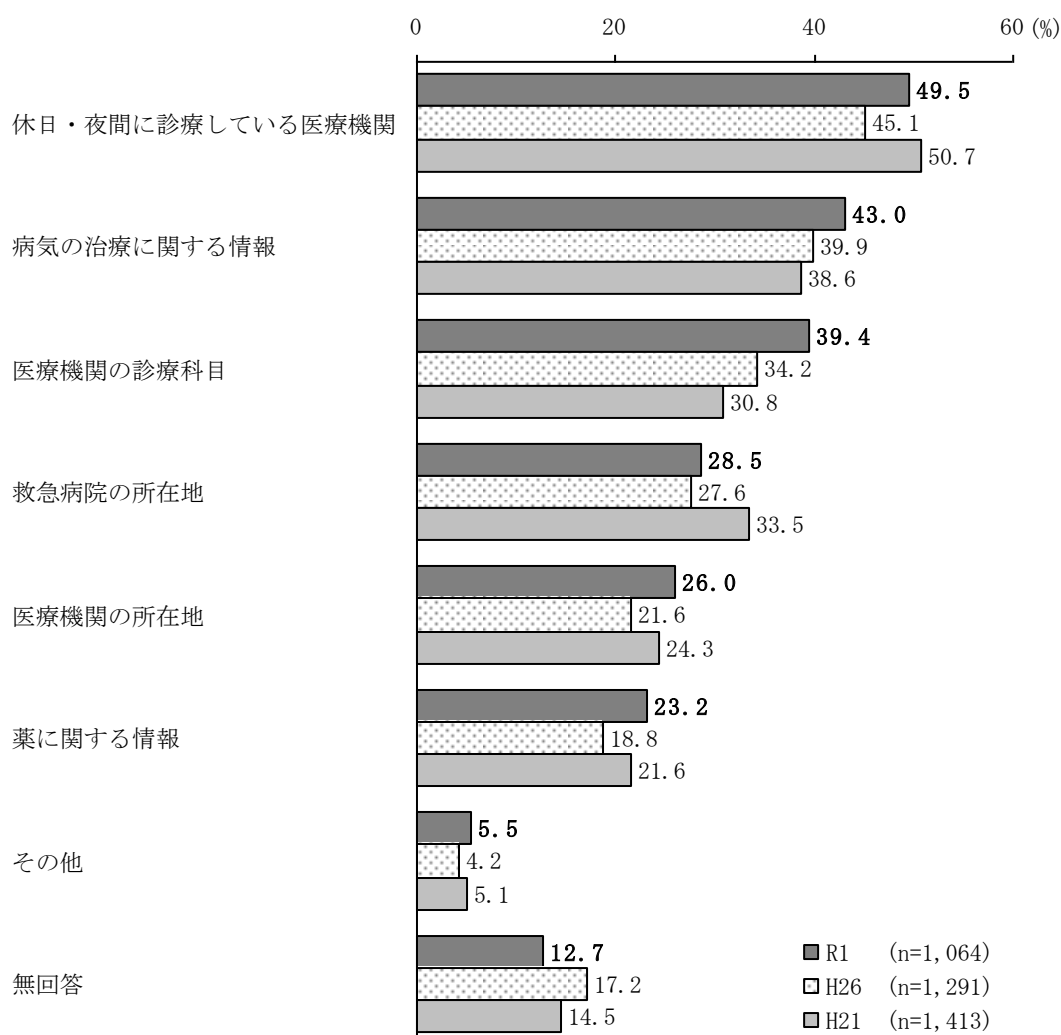
(4) 知りたい医療情報

－「休日・夜間に診療している医療機関」の情報を知りたいと回答した人が多い－

問36 医療に関する情報として、知りたいことは何ですか。

(当てはまるものすべてに○)

図 6-8 知りたい医療情報



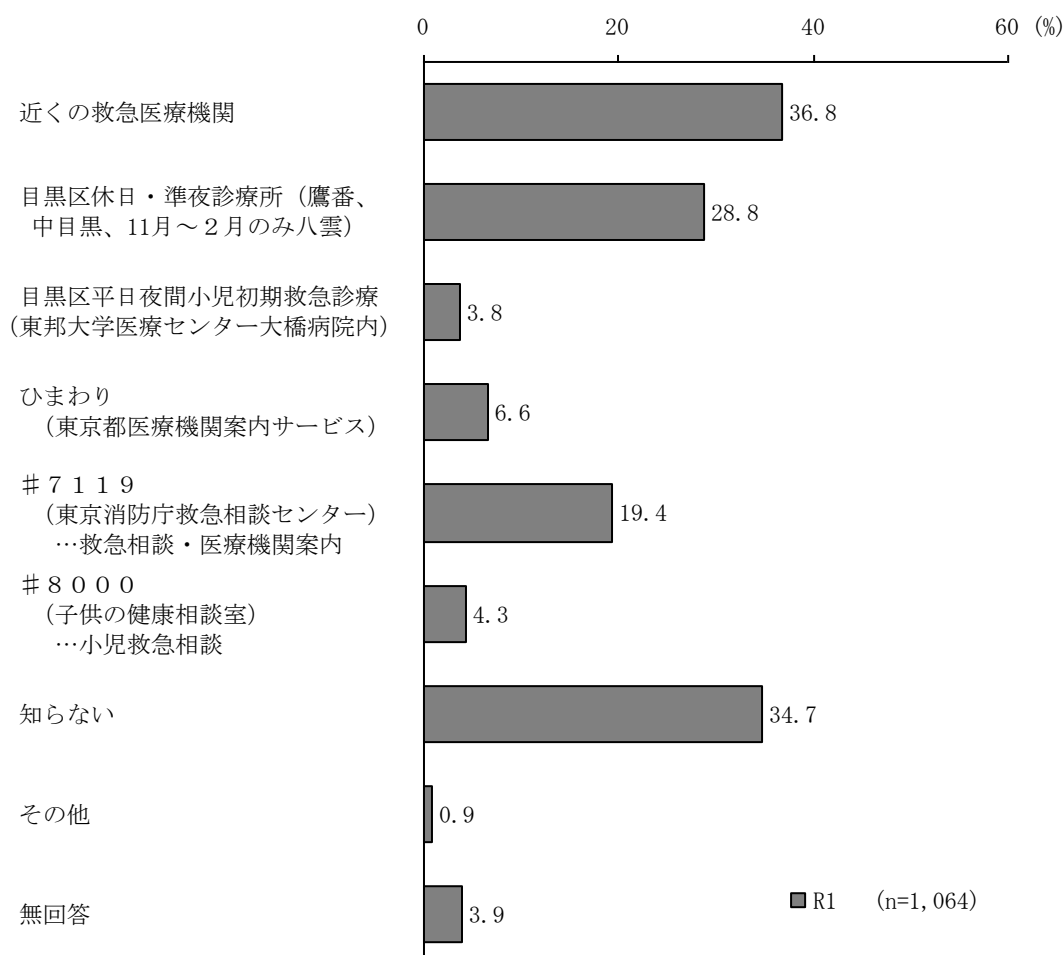
医療に関する情報として、知りたいことを聞いたところ、「休日・夜間に診療している医療機関」(49.5%)が最も高く、次いで「病気の治療に関する情報」(43.9%)、「医療機関の診療科目」(39.4%)、「救急病院の所在地」(28.5%)、「医療機関の所在地」(26.0%)の順であった(図6-8)。

(5) 知っている医療サービス

—休日や夜間に利用可能な医療サービスとして「近くの救急医療機関」と回答した人が多い—

問37 あなたは、休日や夜間に利用可能な医療サービスを知っていますか。
(当てはまるものすべてに○)

図6-9 知っている医療サービス

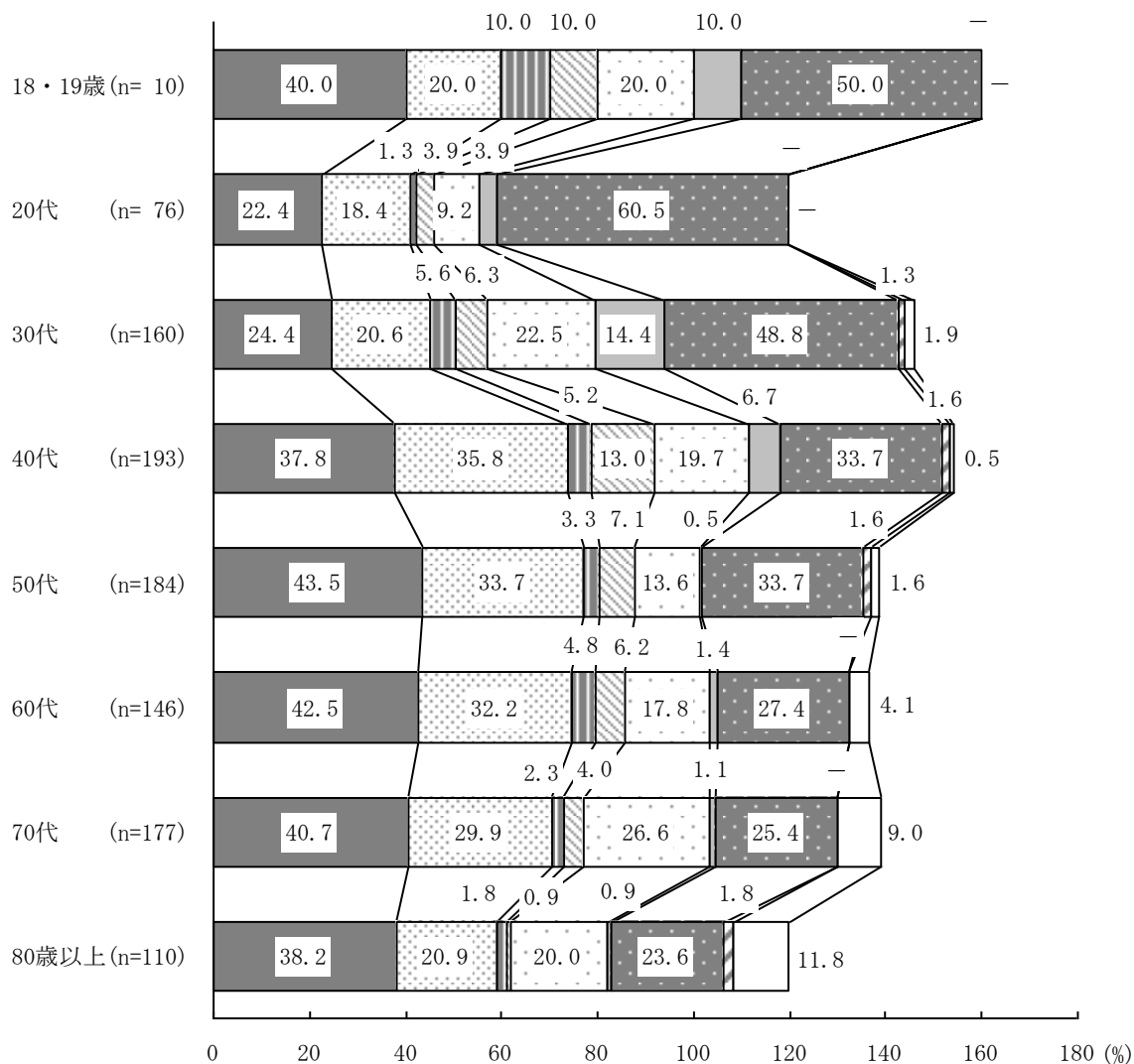


休日や夜間に利用可能な医療サービスを知っているか聞いたところ、「近くの救急医療機関」(36.8%)が最も高く、次いで「目黒区休日・準夜診療所(鷹番、中目黒、11月～2月のみ八雲)」(28.8%)、「#7119(東京消防庁救急相談センター)…救急相談・医療機関案内」(19.4%)の順であった。また、「知らない」と回答した人は34.7%となっている(図6-9)。

年代別にみると、50代から70代では「近くの救急医療機関」の比率が高くなっている。また、30代以下では「知らない」の比率が他の年代に比べて高い(図6-10)。

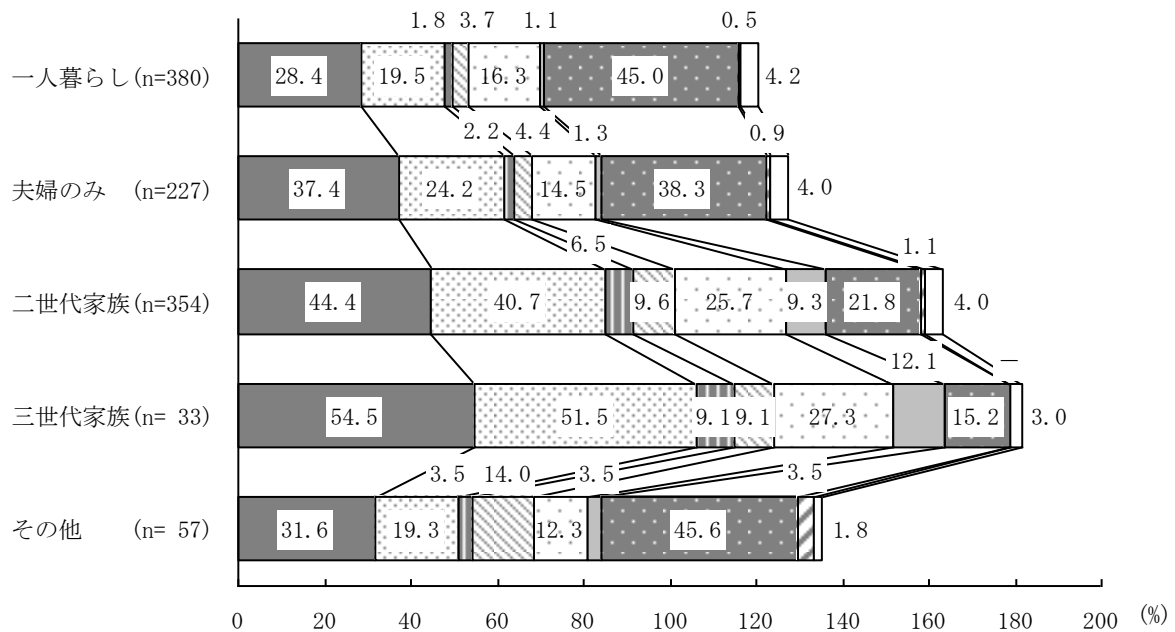
世帯別にみると、三世帯家族では「近くの救急医療機関」「目黒区休日・準夜診療所(鷹番、中目黒、11月～2月のみ八雲)」の比率が高くなっている。また、一人暮らしとその他の世帯では「知らない」の比率が高くなっている(図6-11)。

図 6-10 知っている医療サービス（年代別）



- 近くの救急医療機関
- 目黒区休日・準夜診療所（鷹番、中目黒、11月～2月のみ八雲）
- 目黒区平日夜間小児初期救急診療（東邦大学医療センター大橋病院内）
- ひまわり（東京都医療機関案内サービス）
- #7119（東京消防庁救急相談センター）…救急相談・医療機関案内
- #8000（子供の健康相談室）…小児救急相談
- 知らない
- その他
- 無回答

図 6-11 知っている医療サービス（世帯別）



- 近くの救急医療機関
- 目黒区休日・準夜診療所（鷹番、中目黒、11月～2月のみ八雲）
- 目黒区平日夜間小児初期救急診療（東邦大学医療センター大橋病院内）
- ひまわり（東京都医療機関案内サービス）
- #7119（東京消防庁救急相談センター）…救急相談・医療機関案内
- #8000（子供の健康相談室）…小児救急相談
- 知らない
- その他
- 無回答

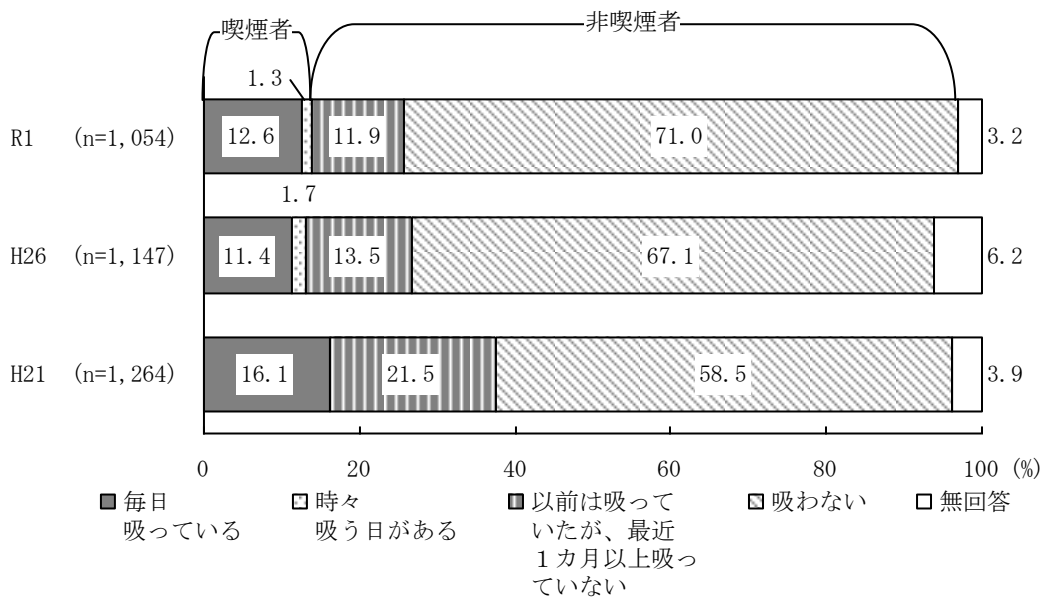
7. たばこについて

(1) 喫煙状況

－ 7割以上の方が、たばこを吸わない－

問38 (1) 20歳以上の方にお尋ねします。あなたはたばこ（加熱式たばこ*を含む）を吸いますか。（○は1つ） (10代の方は問39へ)

図7-1 喫煙状況



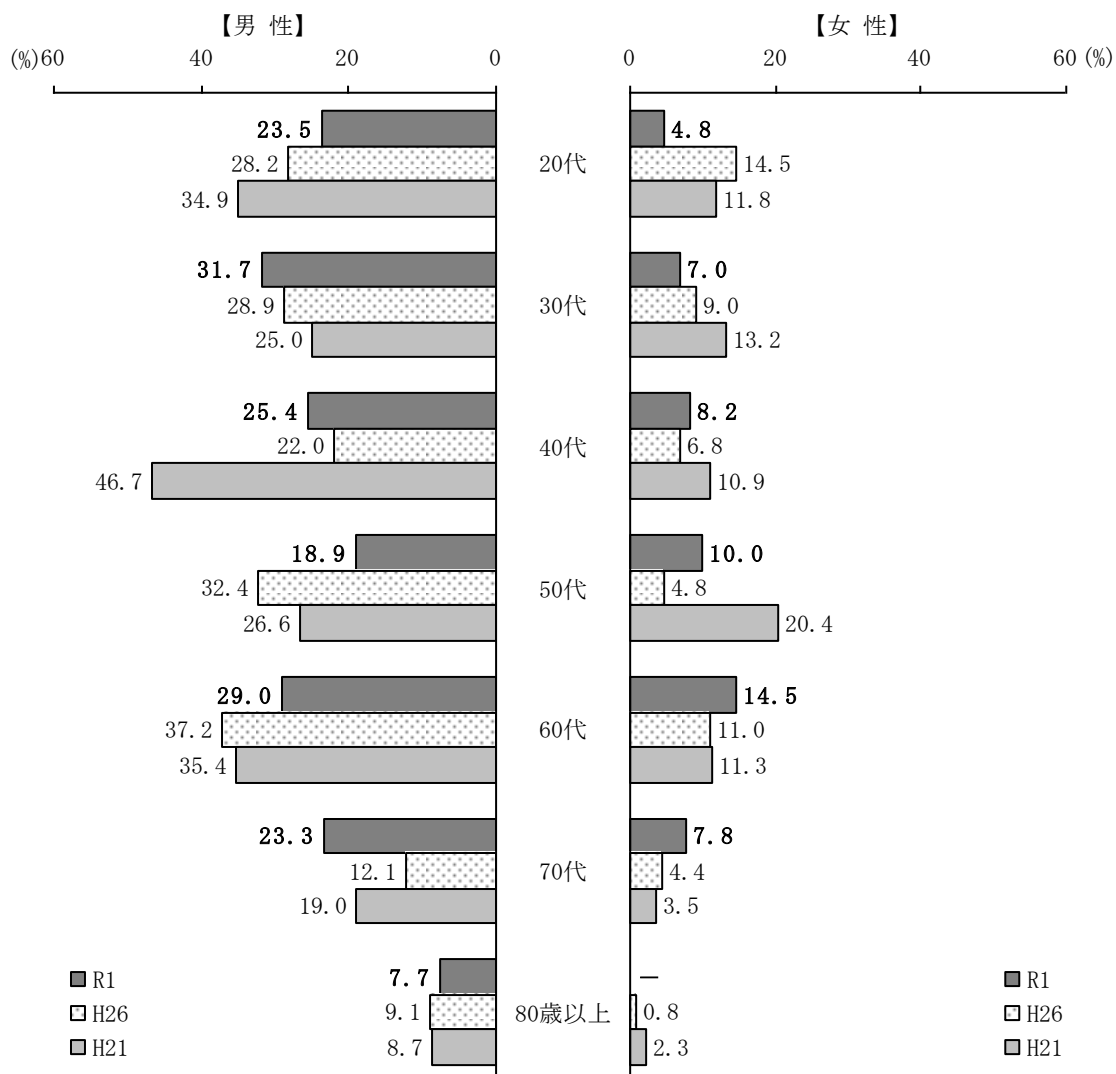
※H26 調査から、厚生労働省「国民健康・栄養調査」の質問項目に合わせ、「時々吸う日がある」を増設した。

*「加熱式たばこ」とは、たばこ葉やたばこ葉を用いた加工品を燃焼させず、専用機器を用いて電気で加熱することで煙を発生させるものをいいます。

たばこを吸うか聞いたところ、「毎日吸っている」が12.6%、「時々吸う日がある」が1.3%、「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」が11.9%、「吸わない」が71.0%であった（図7-1）。

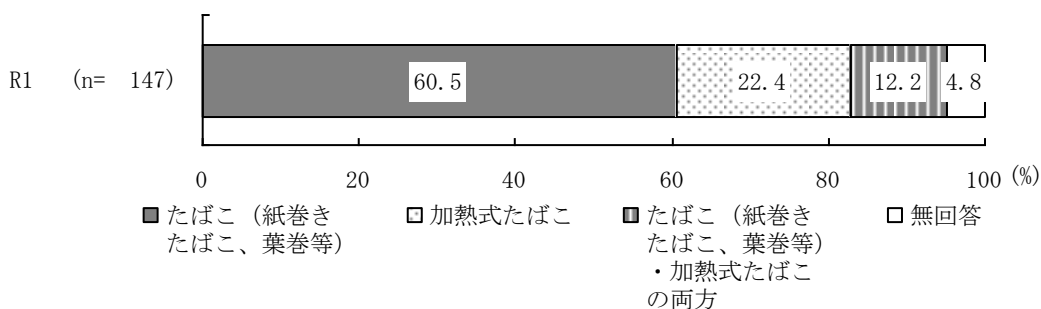
喫煙者の比率を性別・年代別にみると、全ての年代において、男性のほうが女性に比べて高い（図7-2）。

図 7-2 喫煙者の比率（性別・年代別）



問38(2) 問38(1)で「1」または「2」と答えた方にお尋ねします。
吸っているたばこは次のうちどれですか。(〇は1つ)

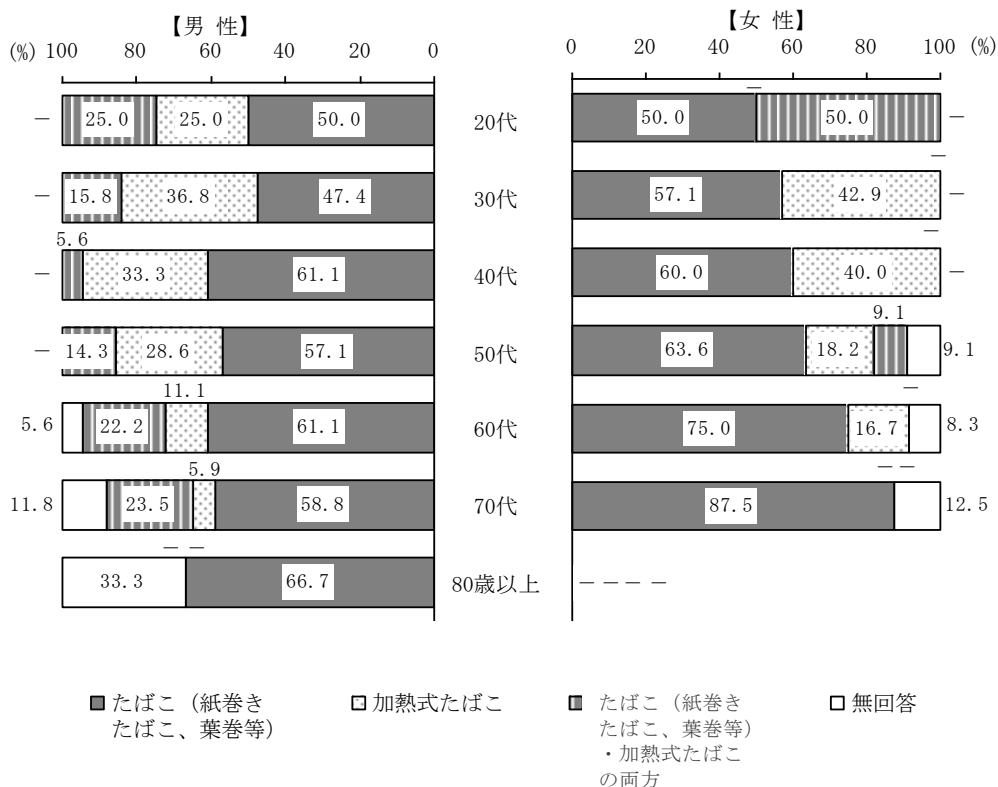
図7-3 吸っているたばこの種類



問38(1)で「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と回答した人に、吸っているたばこの種類を聞いたところ、「たばこ (紙巻きたばこ、葉巻等)」(60.5%)が最も高く、次いで「加熱式たばこ」(22.4%)、「たばこ (紙巻きたばこ、葉巻等)・加熱式たばこの両方」(12.2%)となっている (図7-3)。

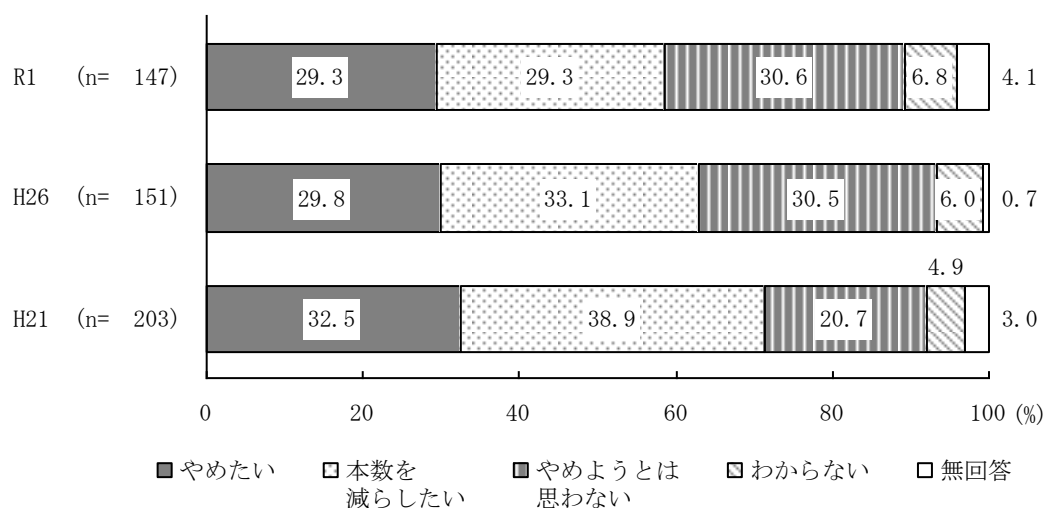
性別・年代別にみると、たばこを吸っている人は男性、女性いずれの年代においても「たばこ (紙巻きたばこ、葉巻等)」が多くなっている (図7-4)。

図7-4 吸っているたばこの種類 (性別・年代別)



問38(3) 問38(1)で「1」または「2」と答えた方にお尋ねします。
喫煙をやめたり、本数を減らしたいと思いますか。(○は1つ)

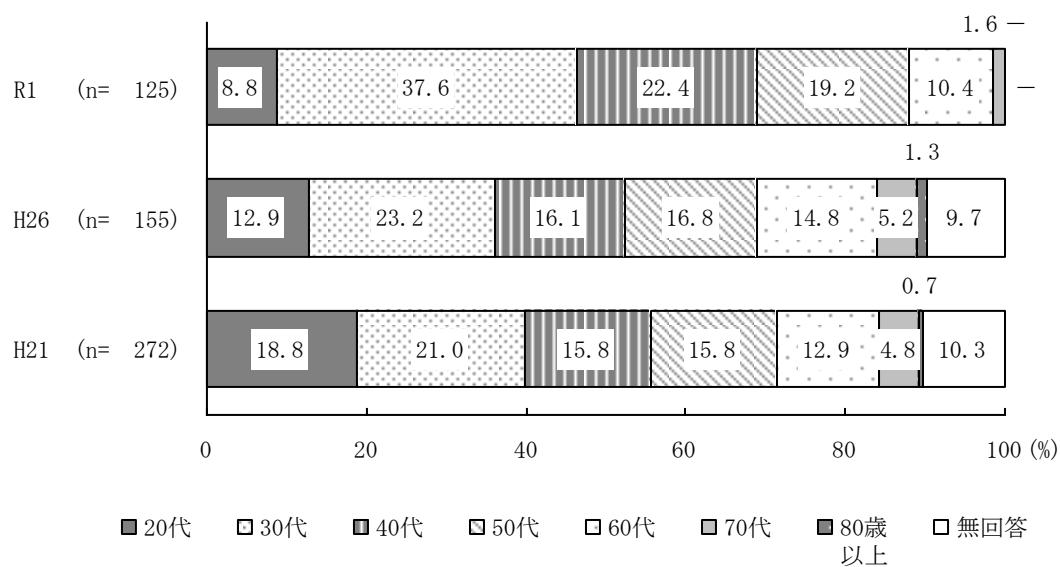
図7-5 禁煙・減煙意識



問38(1)で「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と回答した人に、喫煙をやめたり本数を減らしたいと思うか聞いたところ、「やめたい」が29.3%、「本数を減らしたい」が29.3%、「やめようとは思わない」が30.6%であった(図7-5)。

問38(4) 問38(1)で「3」と答えた方にお尋ねします。
何歳代でたばこをやめましたか。(○は1つ)

図7-6 たばこをやめた年齢

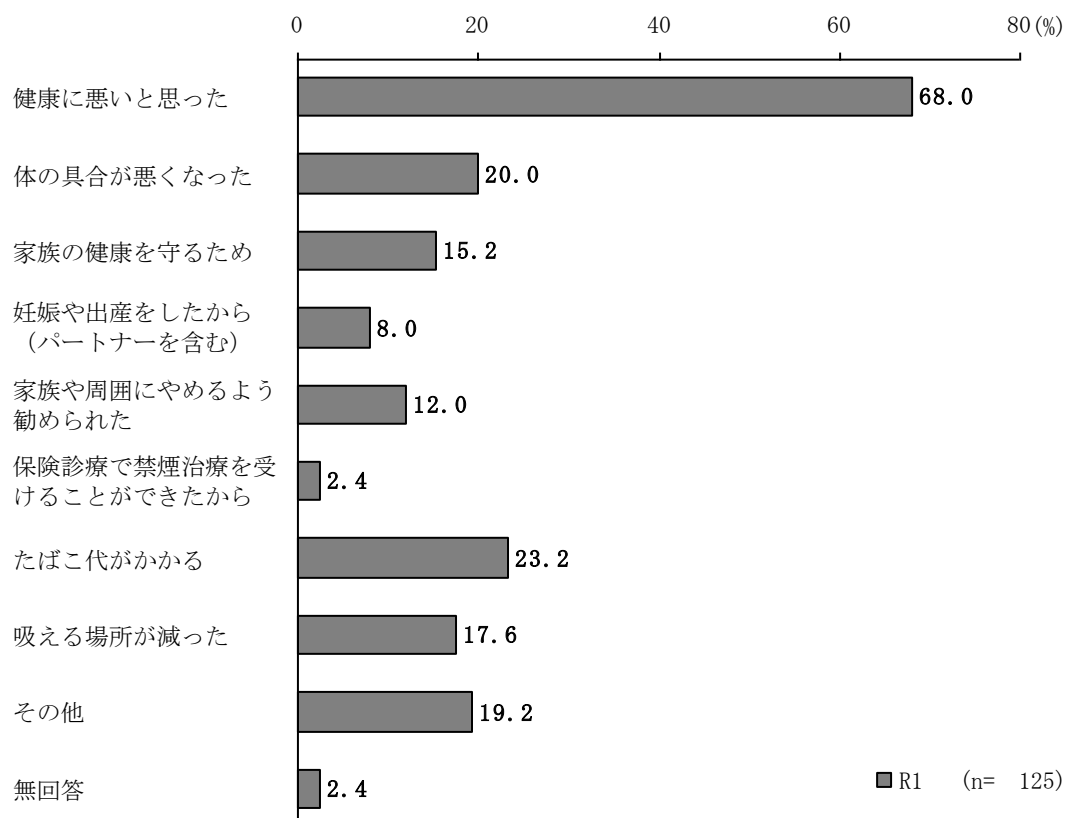


問38(1)で「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」と回答した人に、何歳代でたばこをやめたか聞いたところ、「20代」が8.8%、「30代」が37.6%、「40代」が22.4%、「50代」が19.2%、「60代」が10.4%、「70代」が1.6%であった(図7-6)。

問38 (5) 問38 (1) で「3」と答えた方にお尋ねします。

たばこをやめた理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

図 7-7 たばこをやめた理由



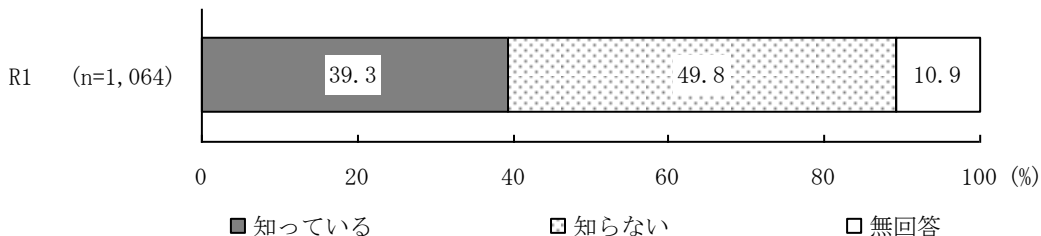
問 38 (1) で「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」と回答した人に、たばこをやめた理由を聞いたところ、「健康に悪いと思った」(68.0%)が最も高く、次いで「たばこ代がかかる」(23.2%)、「体の具合が悪くなった」(20.0%)、「吸える場所が減った」(17.6%)などとなっている(図7-7)。

(2) 保険診療による禁煙治療の認識

－ 4 割近くの人が、保険診療による禁煙治療を知っている－

問 3 9 条件を満たせば、保険診療で禁煙治療が受けられることを知っていますか。
(○は1つ)

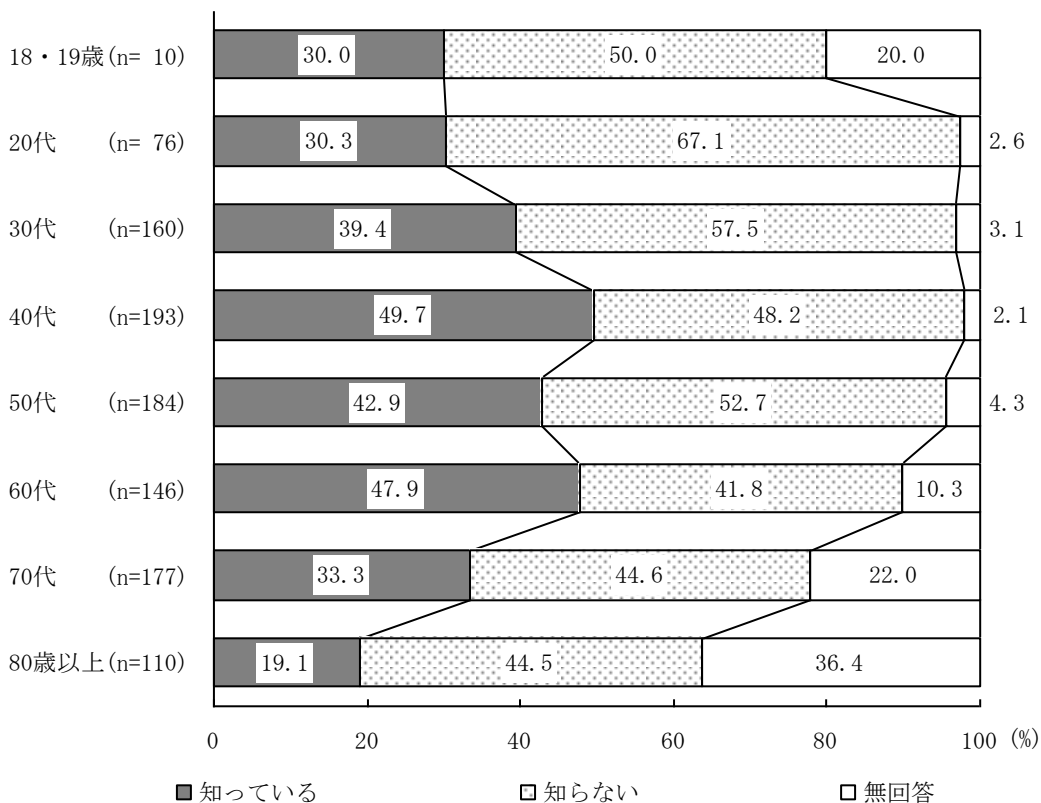
図 7-8 保険診療による禁煙治療の認識



条件を満たせば保険診療で禁煙治療が受けられることを知っているか聞いたところ、「知っている」が 39.3%、「知らない」が 49.8%であった (図 7-8)。

年代別にみると、40代から60代では「知っている」の比率が4割以上となっている (図 7-9)。

図 7-9 保険診療による禁煙治療の認識 (年代別)



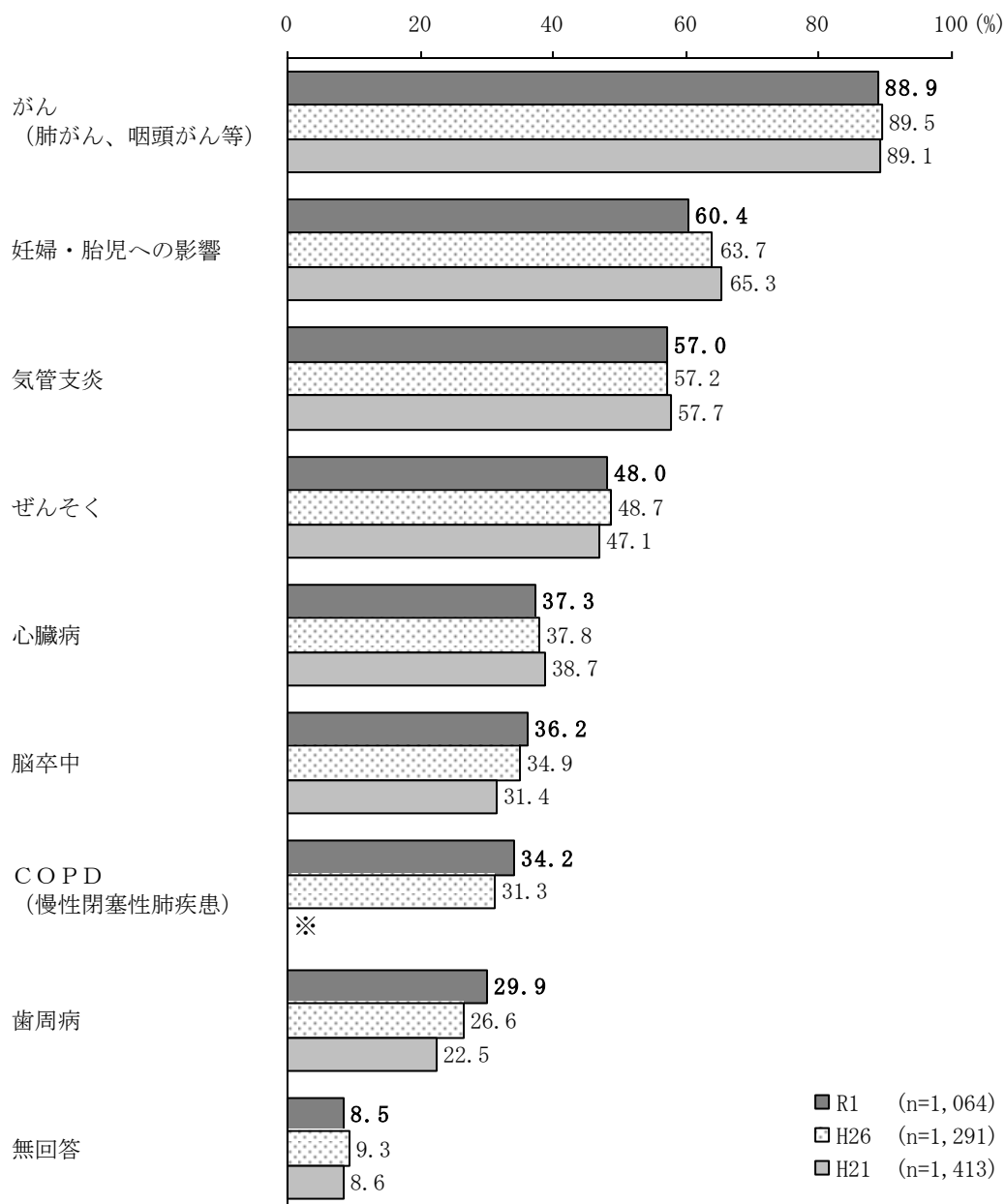
(3) 喫煙による健康影響の認識

—喫煙による健康影響について「がん」を認識している人が多い—

問40 喫煙による健康影響について、知っているものはどれですか。

(当てはまるものすべてに○)

図7-10 喫煙による健康影響の認識



※「COPD (慢性閉塞性肺疾患)」は、H21 調査では選択肢なし

喫煙による健康影響について知っているものを聞いたところ、「がん(肺がん、咽頭がん等)」(88.9%)が最も高く、次いで「妊婦・胎児への影響」(60.4%)、「気管支炎」(57.0%)となっている(図7-10)。

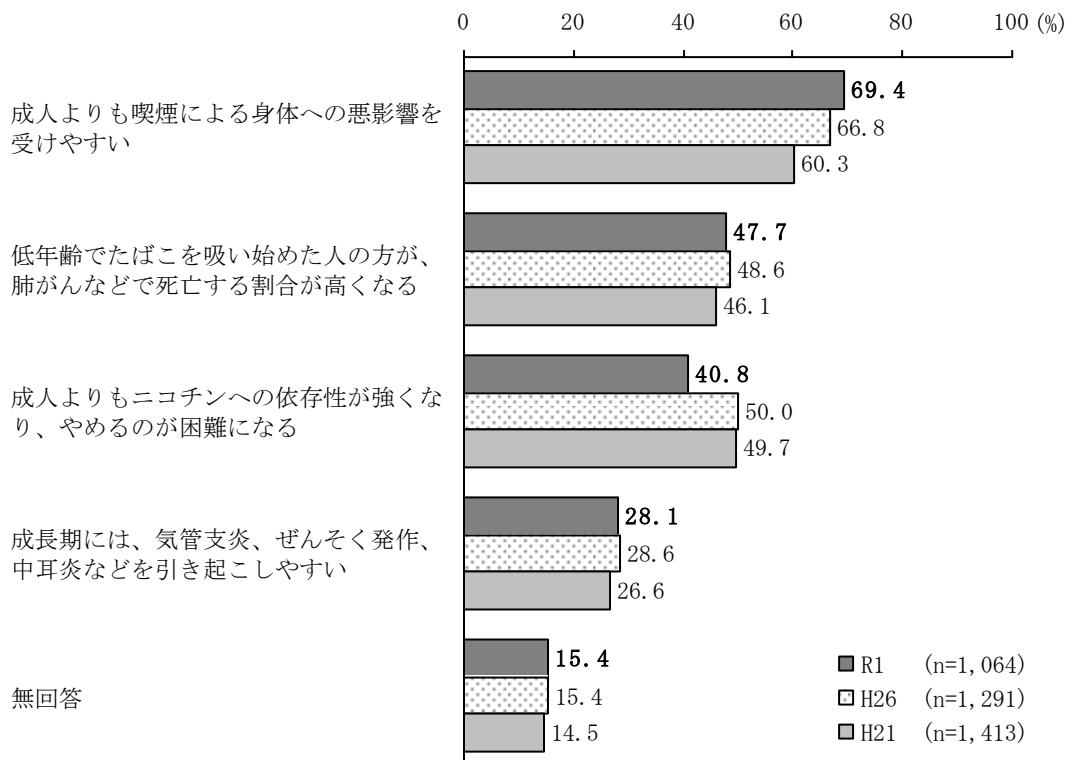
(4) 未成年者の喫煙による健康影響の認識

— 「成人よりも喫煙による身体への悪影響を受けやすい」と認識している人が多い—

問 4 1 未成年者の喫煙は健康への影響が大きいため、法律により禁止されていますが、
 具体的にどのような影響を受けるか知っているものはどれですか。

(当てはまるものすべてに○)

図 7-11 未成年者の喫煙による健康影響の認識



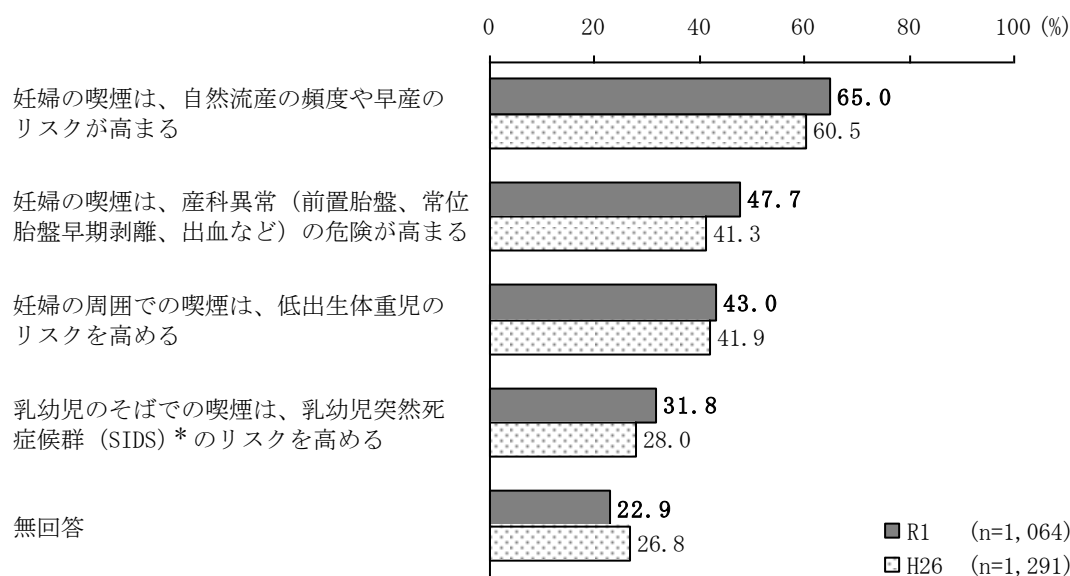
未成年者の喫煙による健康影響について知っているものを聞いたところ、「成人よりも喫煙による身体への悪影響を受けやすい」(69.4%)が最も高く、次いで「低年齢でたばこを吸い始めた人の方が、肺がんなどで死亡する割合が高くなる」(47.7%)、「成人よりもニコチンへの依存性が強くなり、やめるのが困難になる」(40.8%)の順となった(図7-11)。

(5) たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識

－「妊婦の喫煙は、自然流産の頻度や早産のリスクが高まる」と認識している人が多い－

問 4 2 妊婦自身の喫煙や、妊婦および乳幼児の受動喫煙の影響について具体的に知っているものはどれですか。(当てはまるものすべてに○)

図 7-12 たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識



*「乳幼児突然死症候群（SIDS）」とは、それまで元気だった乳幼児が睡眠中に何の前ぶれもなく亡くなる病気で、

妊婦自身の喫煙や、妊婦および乳幼児の受動喫煙の影響について知っているものを聞いたところ、「妊婦の喫煙は、自然流産の頻度や早産のリスクが高まる」（65.0%）が最も高く、次いで「妊婦の喫煙は、産科異常（前置胎盤、常位胎盤早期剥離、出血など）の危険が高まる」（47.7%）、「妊婦の周囲での喫煙は、低出生体重児のリスクを高める」（43.0%）、「乳幼児のそばでの喫煙は、乳幼児突然死症候群（SIDS）のリスクを高める」（31.8%）の結果となった（図 7-12）。

性別・年代別にみると、20代から40代の男性、50代以下の女性では、「妊婦の喫煙は、自然流産の頻度や早産のリスクが高まる」の比率が7割以上である（図 7-13、図 7-14）。

図 7-13 たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識（男性・年代別）

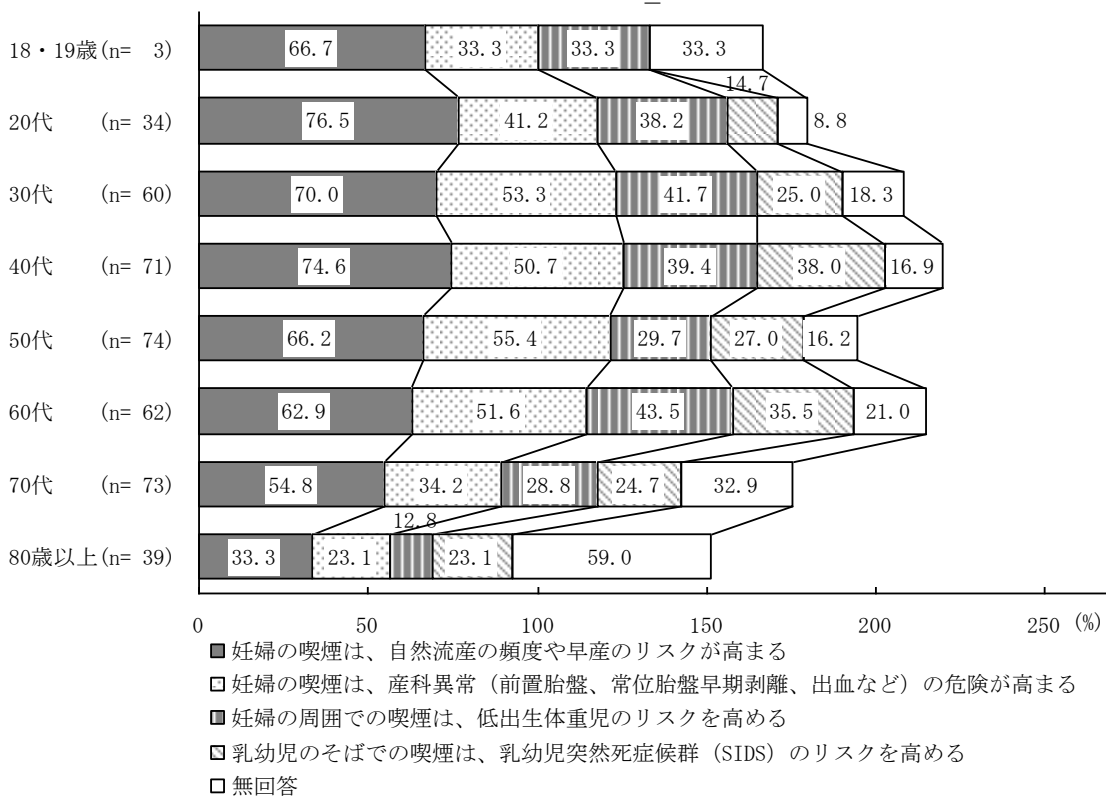
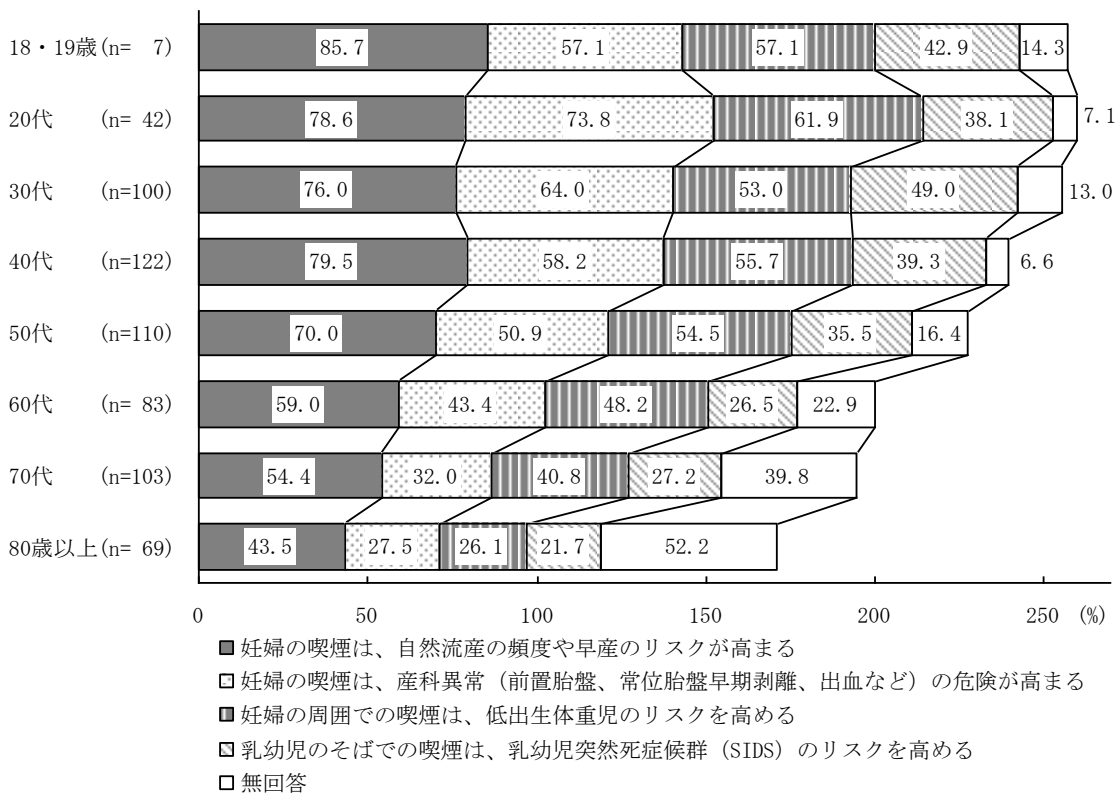


図 7-14 たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識（女性・年代別）

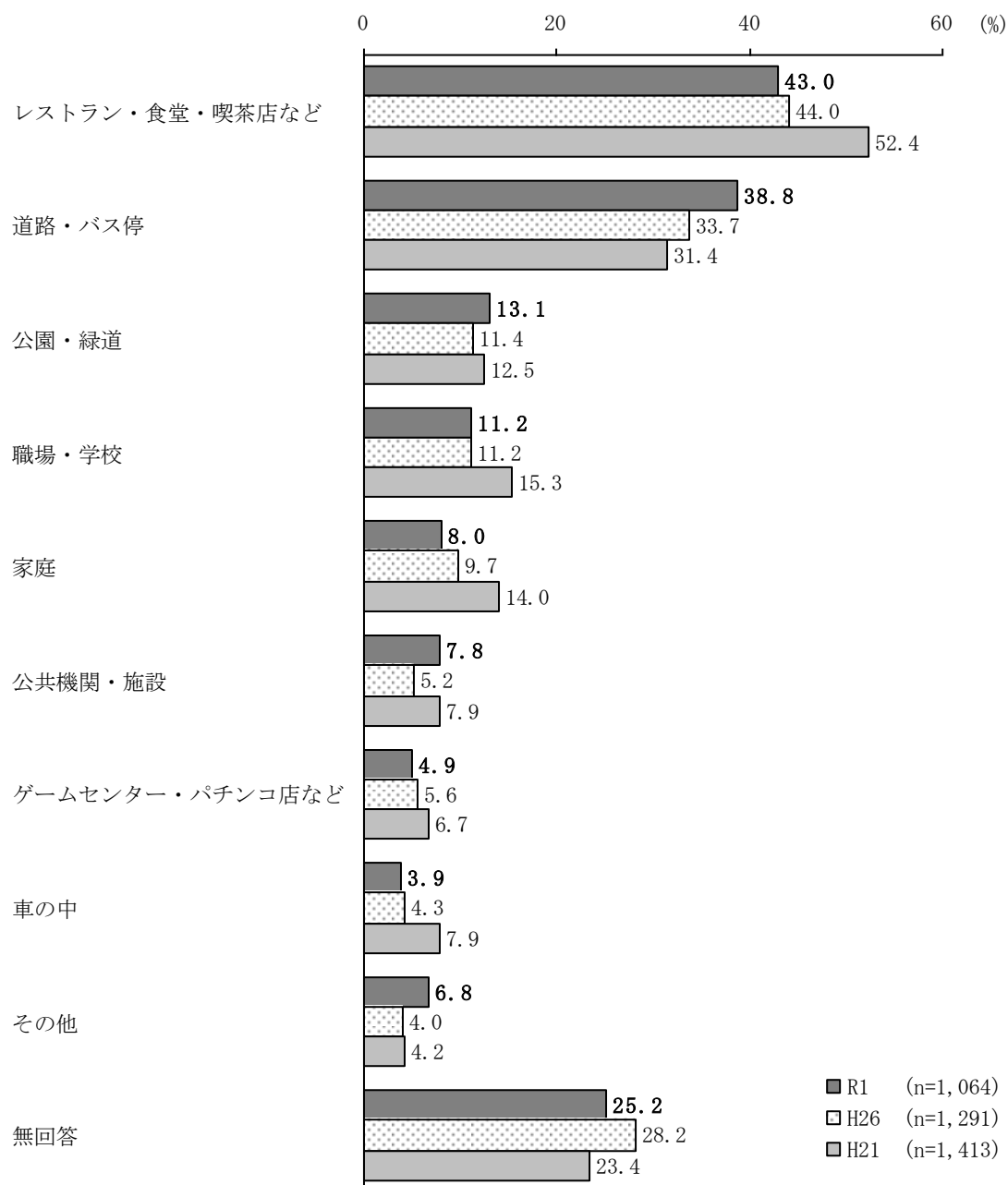


(6) 受動喫煙の機会

ーレストラン・食堂・喫茶店などで受動喫煙の機会があった人が多いー

問43 あなたはこの1カ月間に、次の場所で自分以外の人のたばこの煙を吸ったこと（受動喫煙といいます）がありましたか。（当てはまるものすべてに○）

図7-15 受動喫煙の機会



この1カ月間に受動喫煙の機会があったかを聞いたところ、「レストラン、食堂、喫茶店など」(43.0%)が最も高く、次いで「道路・バス停」(38.8%)、「公園・緑道」(13.1%)、「職場・学校」(11.2%)、「家庭」(8.0%)の順であった。「無回答」を除く74.8%が、いずれかの場所で受動喫煙の機会があった(図7-15)。

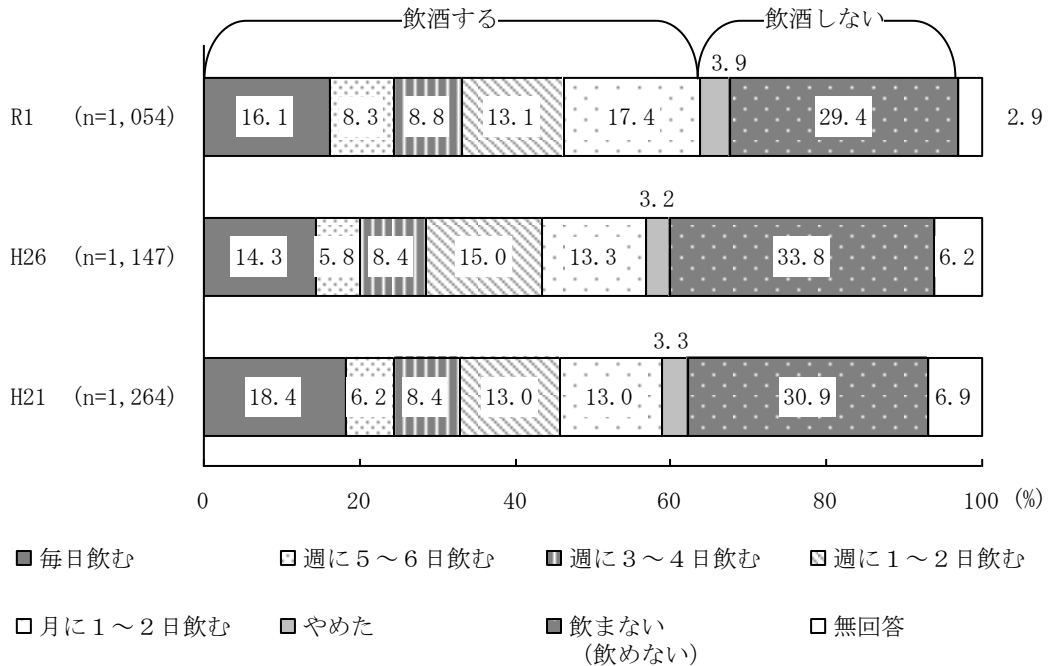
8. お酒について

(1) 飲酒頻度

一月に1日以上お酒を飲んでいる人は、6割程度となっている

問44 (1) 20歳以上の方にお尋ねします。あなたはお酒を飲みますか。
 (○は1つ) (10代の方は問45へ)

図8-1 飲酒頻度



飲酒の頻度を聞いたところ、「飲まない(飲めない)」(29.4%)が最も多く、次いで「月に1~2日飲む」(17.4%)、「毎日飲む」(16.1%)、「週に1~2日飲む」(13.1%)の順であった。月に1日以上飲酒する人は、63.8%で6割程度であった(図8-1)。

性別・年代別にみると、男性の20代では「月に1~2日飲む」の比率が高く、40代以上では「毎日飲む」の比率が高くなっている。女性は、年代が高くなるほど「飲まない(飲めない)」の比率が高くなる傾向がみられる(図8-2、図8-3)。

図 8-2 飲酒頻度（男性・年代別）

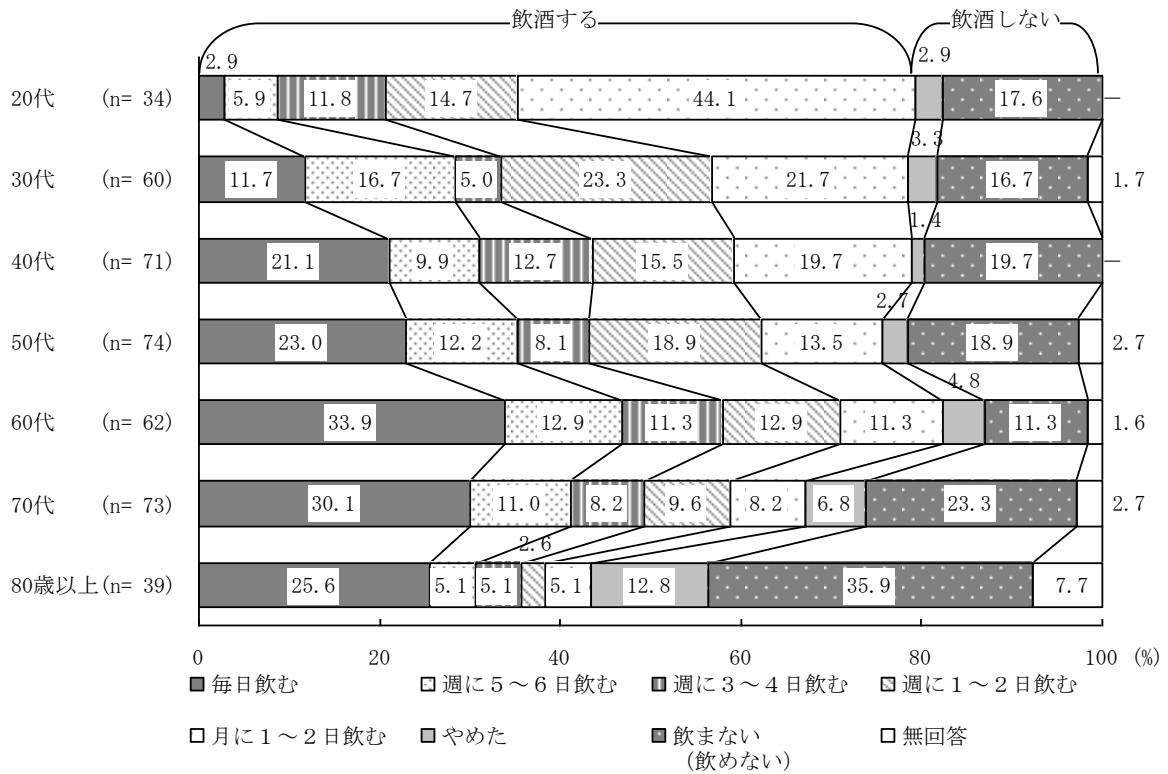
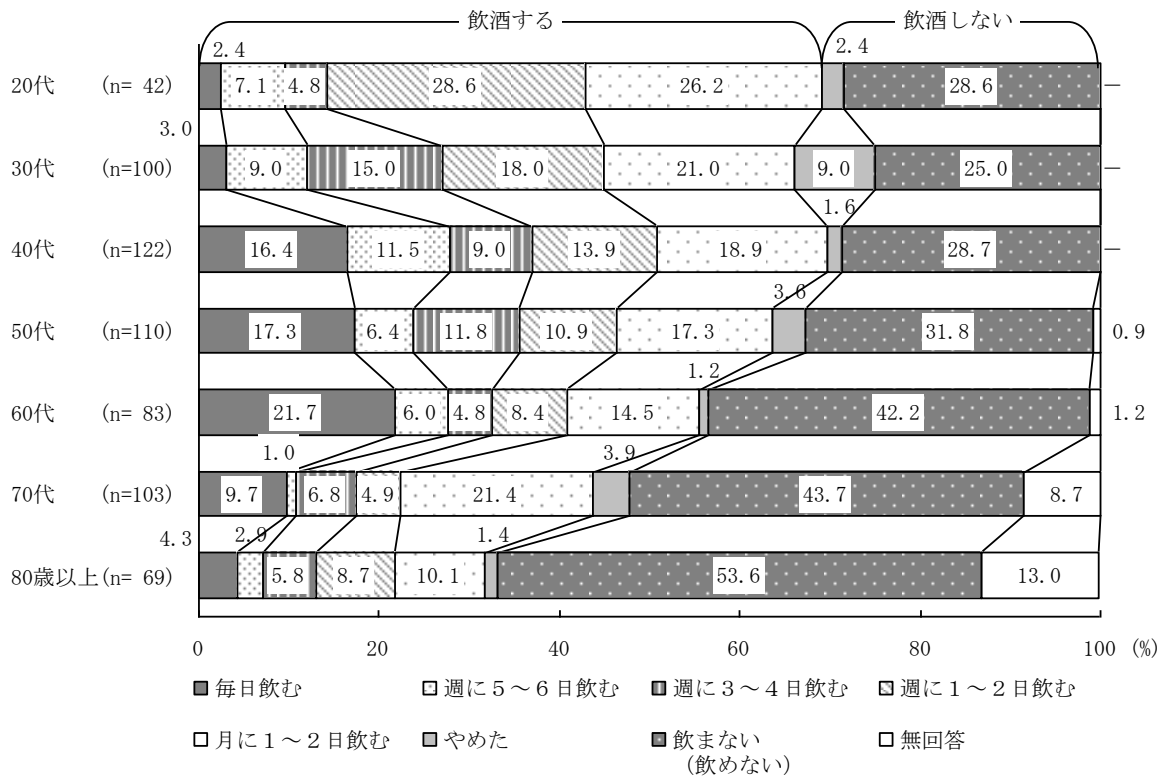
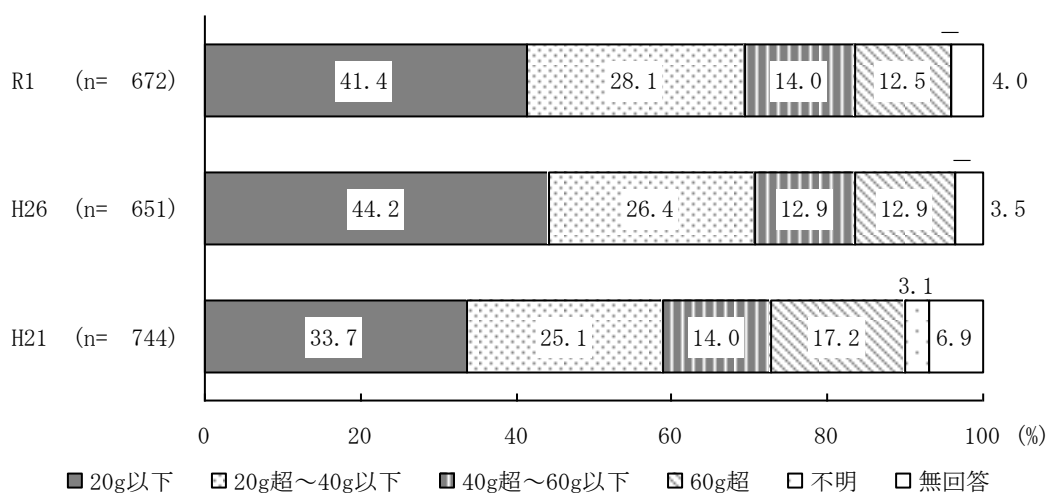


図 8-3 飲酒頻度（女性・年代別）



問44(2) 問44(1)で「1」～「5」と答えた方にお尋ねします。
 お酒を飲む日は、1日当たりどれくらいの量を飲みますか。
 1日に飲む量を数字で記入してください。1日に複数種類飲む方は、
 該当するものにそれぞれ記入してください。

図8-4 1日あたりの純アルコール摂取量



※ 記入いただいた種類ごとに純アルコール量を算出し、それを合算して1日の純アルコール摂取量とした。
 ※ 純アルコール摂取量の算出できないものは、「不明」として項目をまとめた。
 ※ 60gの目安：ビールの場合中瓶（500ml）3本

月に1回以上飲む人に1日に飲む量を記入してもらい、純アルコール量を算出した。その結果、純アルコール摂取量「20g以下」(41.4%)が最も高く、次いで「20g超～40g以下」(28.1%)、「40g超～60g以下」(14.0%)、「60g超」(12.5%)の順であった(図8-4)。

飲酒頻度と1日あたりの純アルコール摂取量の関係を見ると、「毎日飲む」と回答している人では「20g超～40g以下」(32.9%)の比率が高い。飲酒頻度が低くなると1日あたりの純アルコール摂取量も低くなる傾向がみられ、週に5～6日飲む人では「20g以下」(44.3%)が4割半ば、週に1～2日飲む人では「20g以下」(51.4%)が半数を占めている(図8-5)。

性別で見ると、女性のほうが男性に比べて「20g以下」の比率が高くなっているが、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人(男性で1日平均40g以上、女性で1日平均20g以上)の割合で見ると、女性のほうが高くなっている(図8-6)。

図 8-5 1日あたりの純アルコール摂取量（飲酒頻度別）

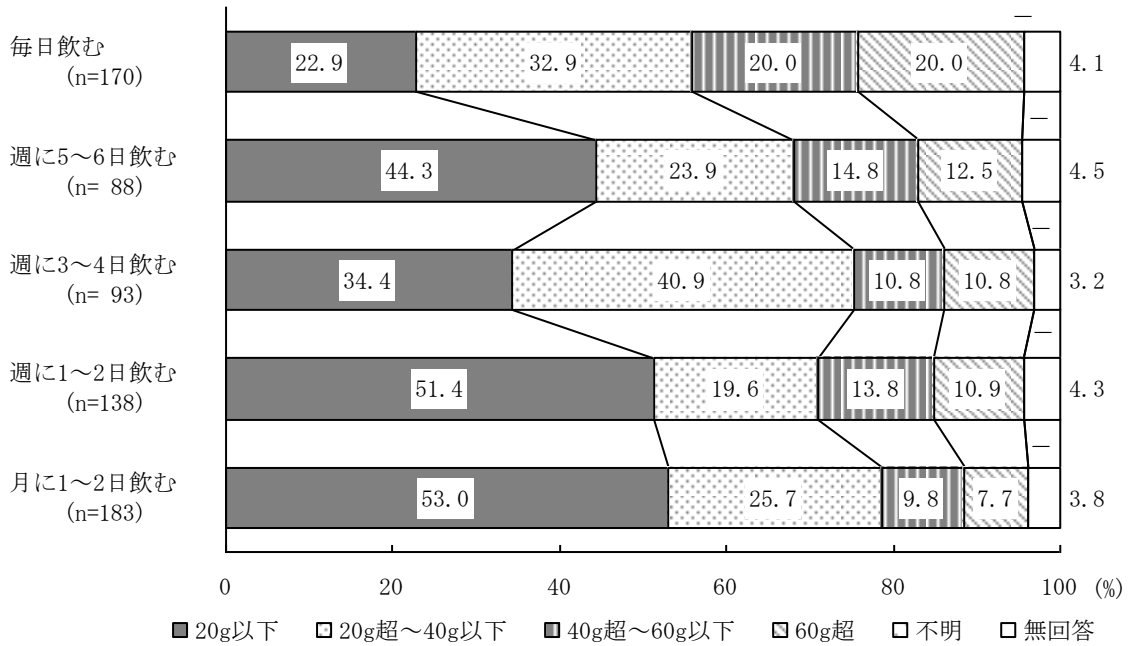
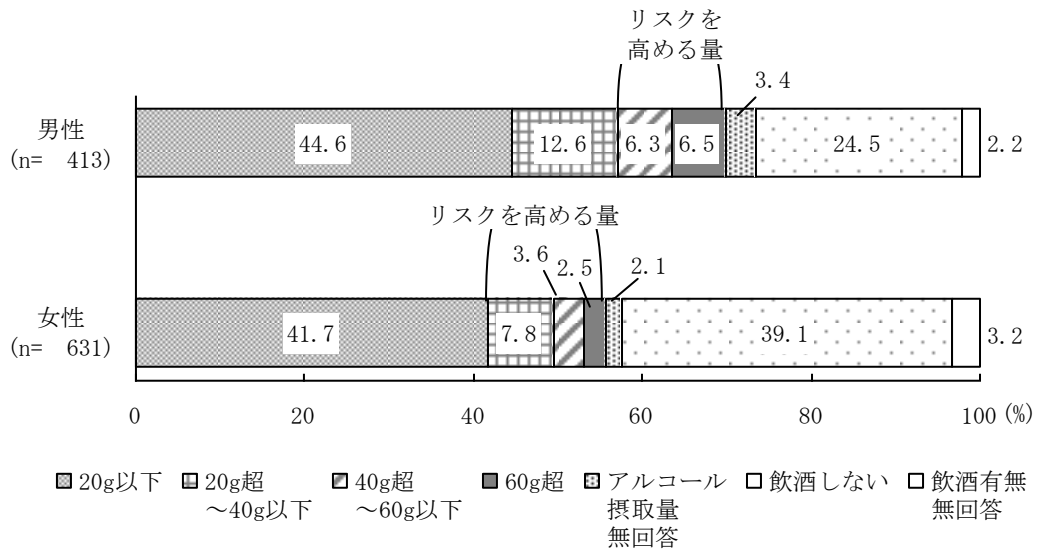


図 8-6 1日あたりの純アルコール摂取量（性別）

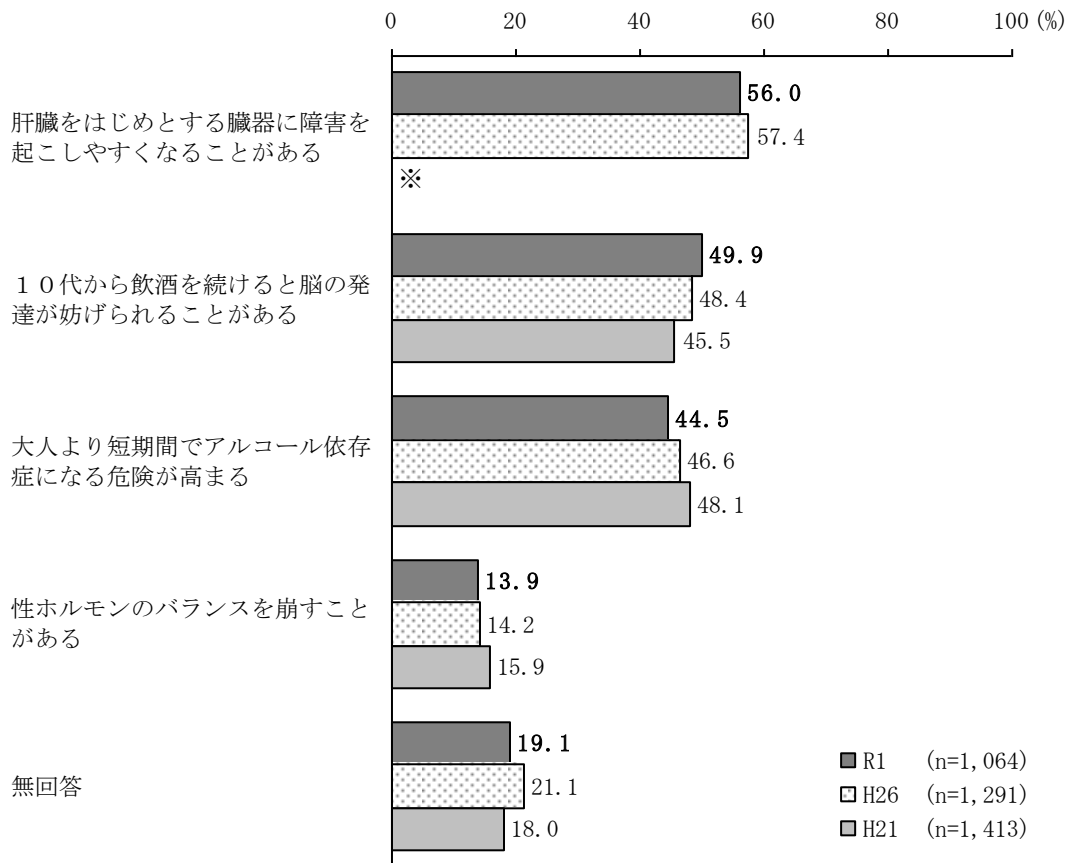


(2) 未成年者の飲酒による健康影響の認識

－「肝臓をはじめとする臓器に障害を起こしやすくなることもある」と認識している人が多い－

問 4 5 未成年者の飲酒は健康への影響が大きいため、法律により禁止されていますが、具体的にどのような影響を受けるか知っているものはどれですか。
(当てはまるものすべてに○)

図 8-7 未成年者の飲酒による健康影響の認識



※「肝臓をはじめとする臓器に障害を起こしやすくなることもある」は H21 調査では選択肢なし

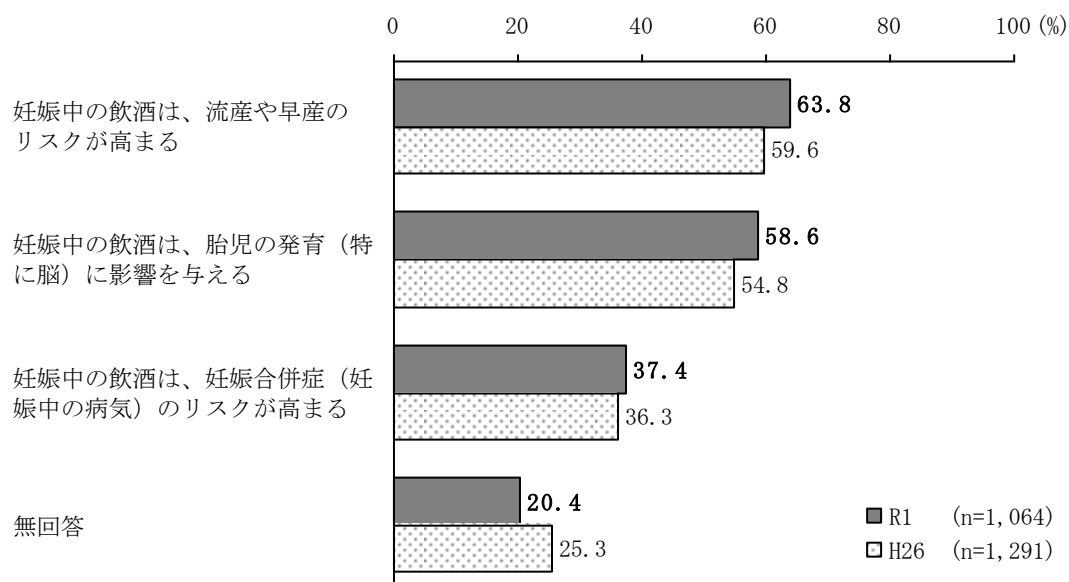
未成年者の飲酒による健康影響について知っているものを聞いたところ、「肝臓をはじめとする臓器に障害を起こしやすくなることもある」(56.0%) が最も高く、次いで「10代から飲酒を続けると脳の発達が妨げられることがある」(49.9%)、「大人より短期間でアルコール依存症になる危険が高まる」(44.5%) の順となった(図 8-7)。

(3) 妊娠中の飲酒による健康影響の認識

－「妊娠中の飲酒は、流産や早産のリスクが高まる」と認識している人が多い－

問 4 6 妊婦の飲酒が、どのような影響があるか具体的に知っているものはどれですか。
(当てはまるものすべてに○)

図 8-8 妊娠中の飲酒による健康影響の認識



妊婦の飲酒がどのような影響があるかを聞いたところ、「妊娠中の飲酒は、流産や早産のリスクが高まる」(63.8%)が最も高く、次いで「妊娠中の飲酒は、胎児の発育（特に脳）に影響を与える」(58.6%)、「妊娠中の飲酒は、妊娠合併症（妊娠中の病気）のリスクが高まる」(37.4%)の順となっている（図 8-8）。

性別・年代別にみると、いずれの項目においても、男性より女性のほうが認識が高い（図 8-9、図 8-10）。

図 8-9 妊娠中の飲酒による健康影響の認識（男性・年代別）

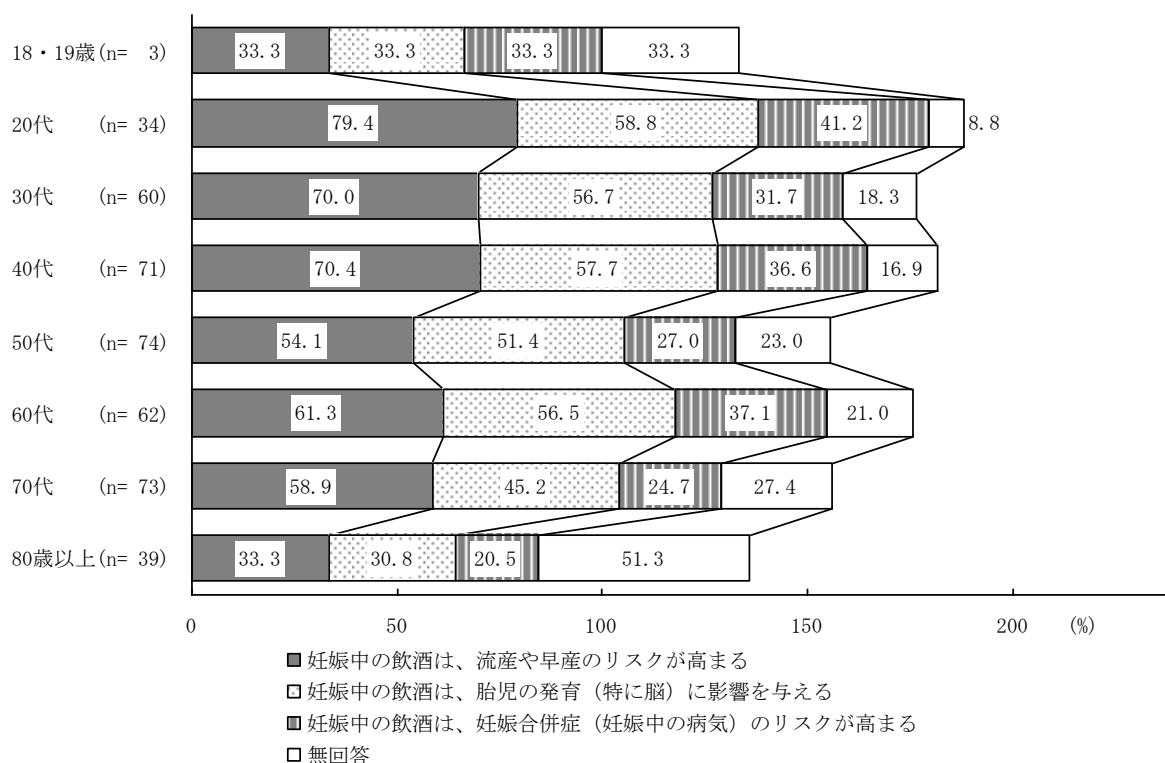
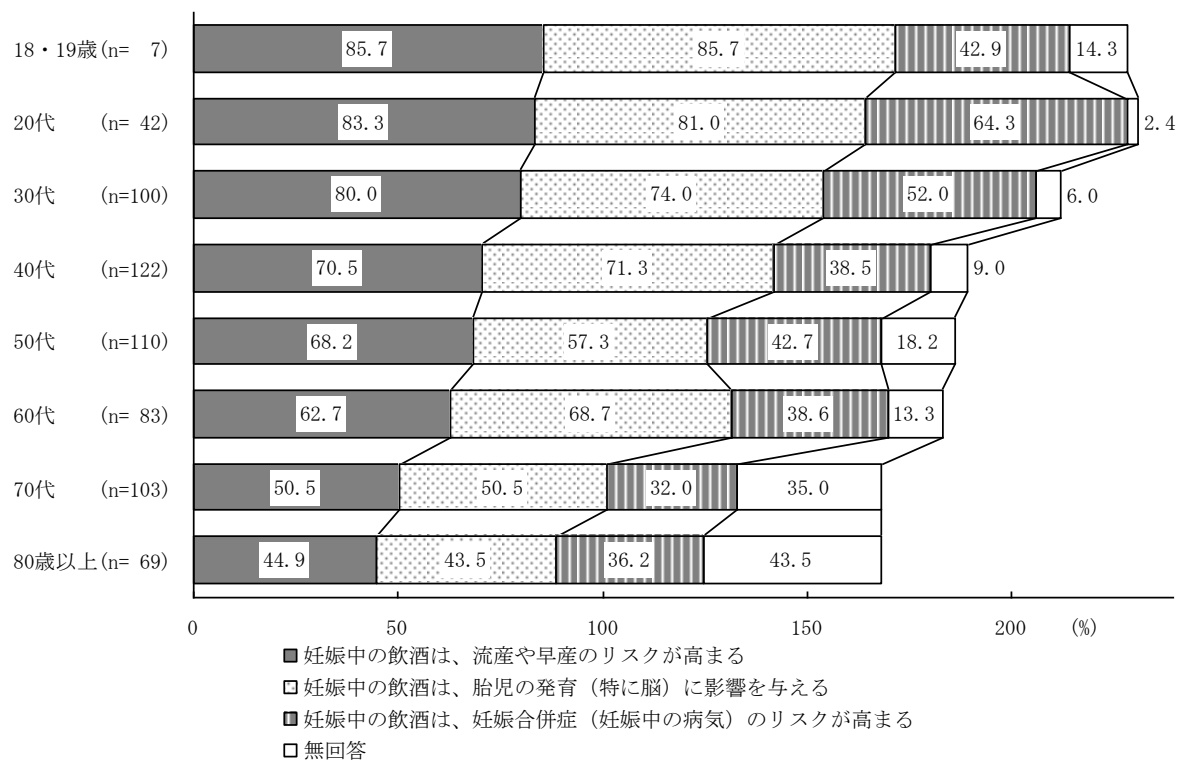


図 8-10 妊娠中の飲酒による健康影響の認識（女性・年代別）



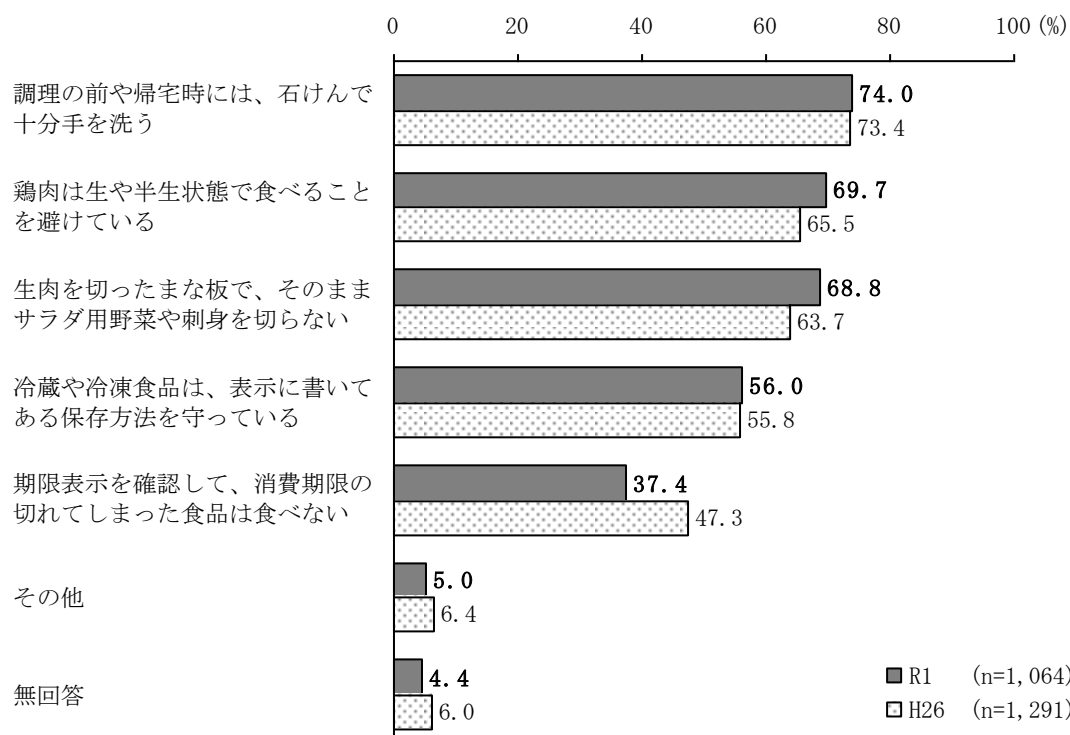
9. 食中毒の予防について

(1) 食中毒の予防で心がけていること

—調理の前や帰宅時には、石けんで十分手を洗っている人が多い—

問47 あなたは食中毒の予防について、どのようなことを心がけていますか。
(当てはまるものすべてに○)

図9-1 食中毒の予防で心がけていること



食中毒の予防について心がけていることを聞いたところ、「調理の前や帰宅時には、石けんで十分手を洗う」(74.0%)が最も高く、次いで「鶏肉は生や半生状態で食べることを避けている」(69.7%)、「生肉を切ったまま板で、そのままサラダ用野菜や刺身を切らない」(68.8%)、「冷蔵や冷凍食品は、表示に書いてある保存方法を守っている」(56.0%)、「期限表示を確認して、消費期限の切れてしまった食品は食べない」(37.4%)の順であった(図9-1)。

性別で見ると、「期限表示を確認して、消費期限の切れてしまった食品は食べない」を除いた他の項目では、女性のほうが男性に比べて比率が大幅に高くなっている(図9-2)。

年代別にみると、全ての項目について、年代による大きな差はみられない(図9-3)。

性別・年代別にみると、男性の40代では「調理の前や帰宅時には、石けんで十分手を洗う」の比率が7割以上である。女性の20代から60代では「鶏肉は生や半生状態で食べることを避けている」の比率が7割以上で高くなっている(図9-4、図9-5)。

図 9-2 食中毒の予防で心がけていること（性別）

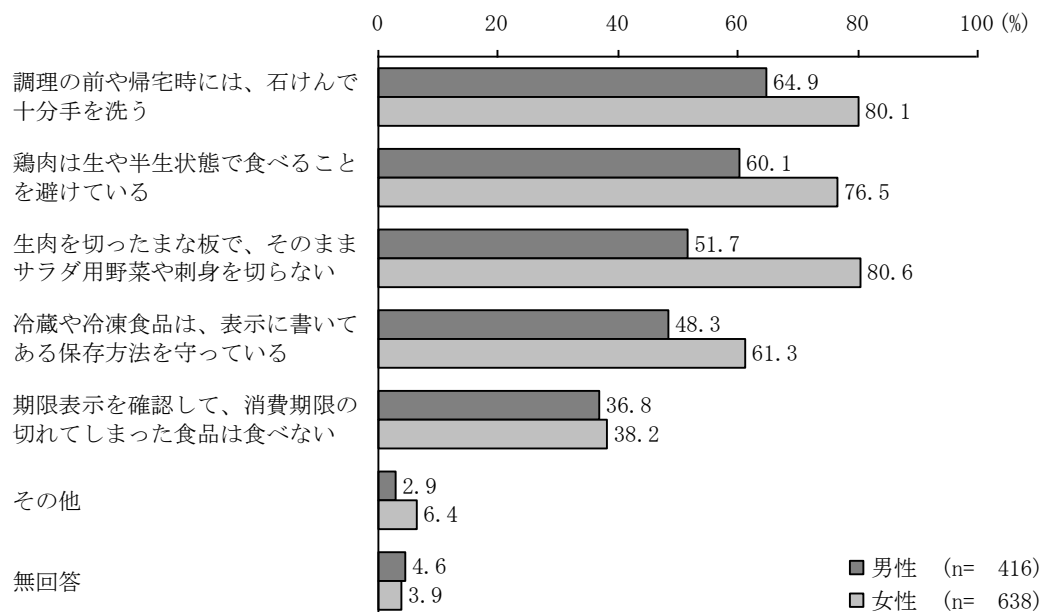


図 9-3 食中毒の予防で心がけていること（年代別）

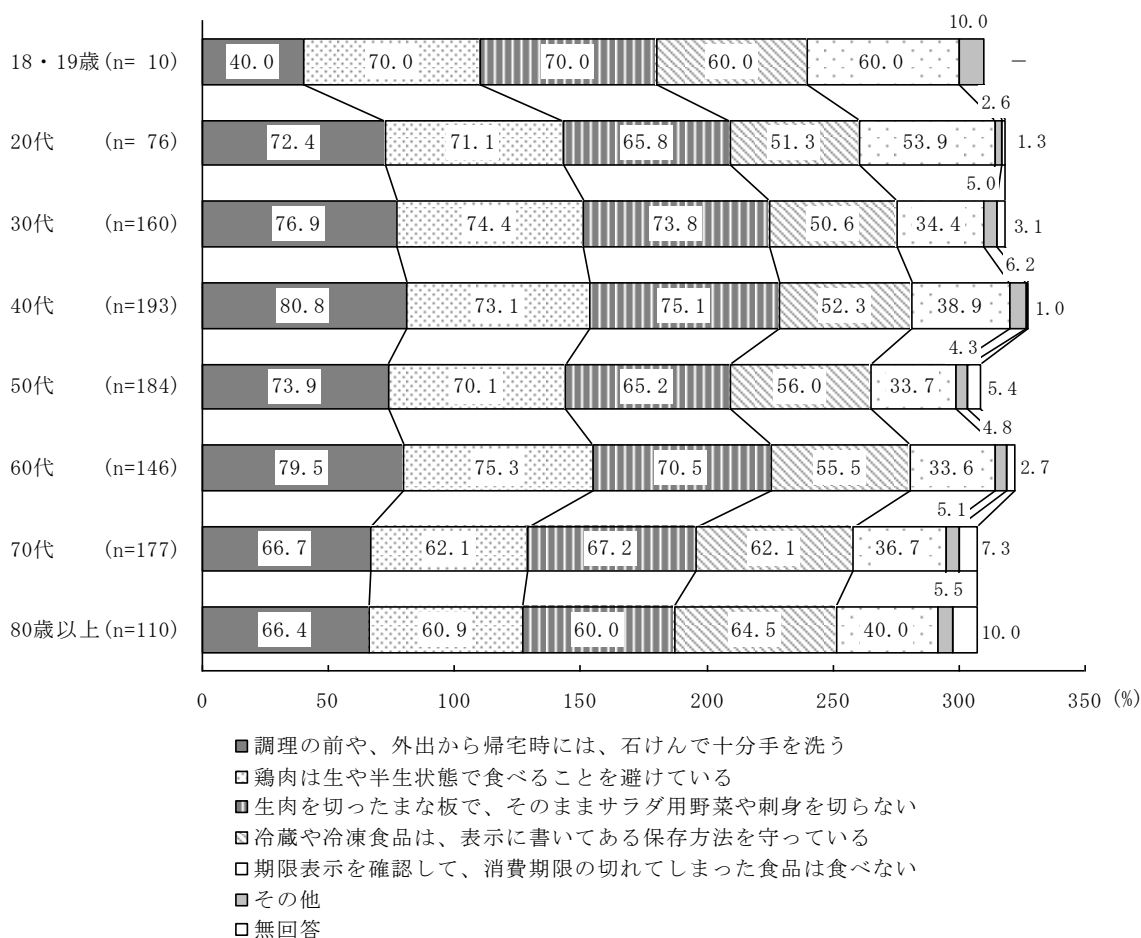


図 9-4 食中毒の予防で心がけていること（男性・年代別）

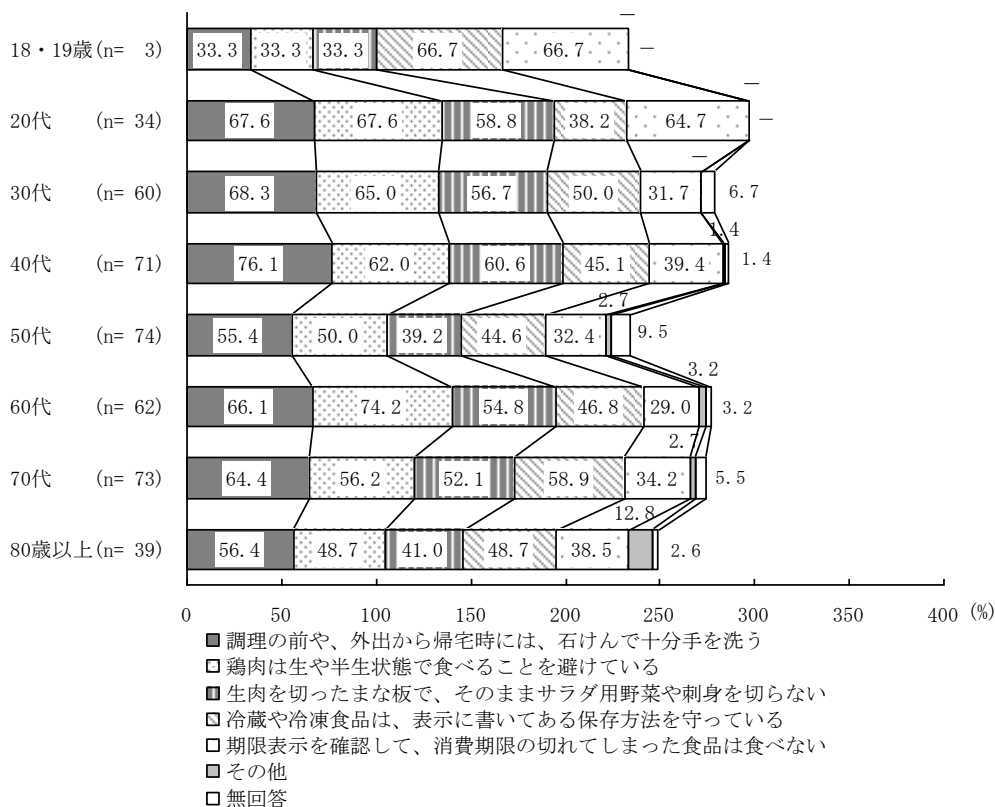
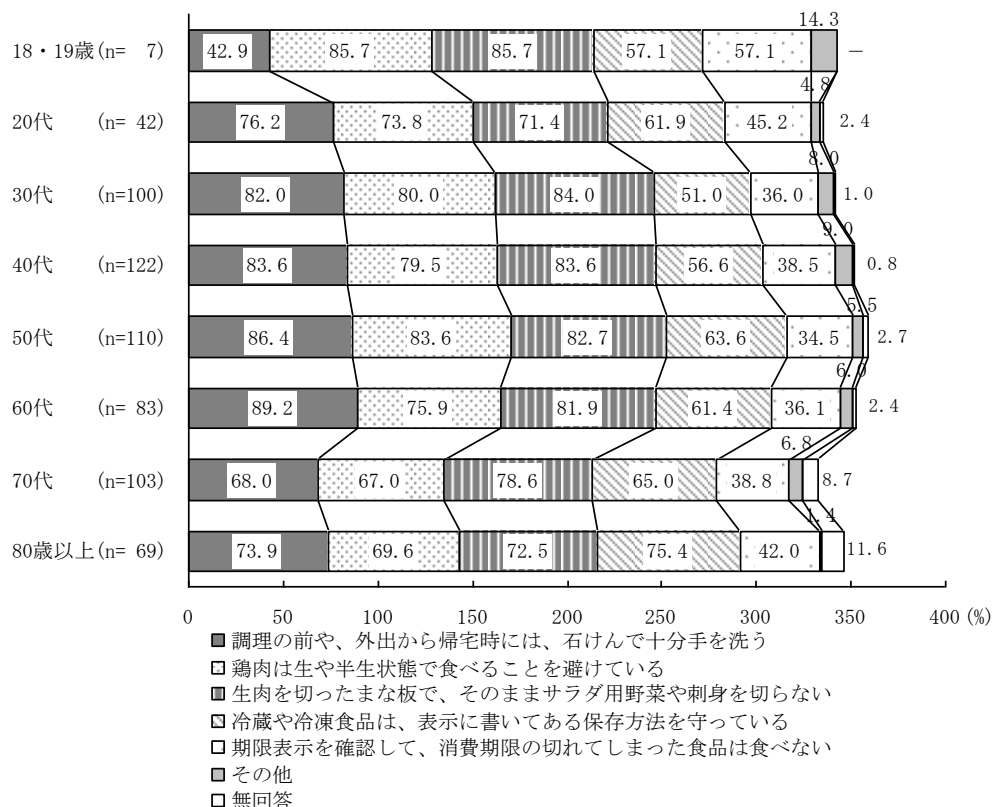


図 9-5 食中毒の予防で心がけていること（女性・年代別）



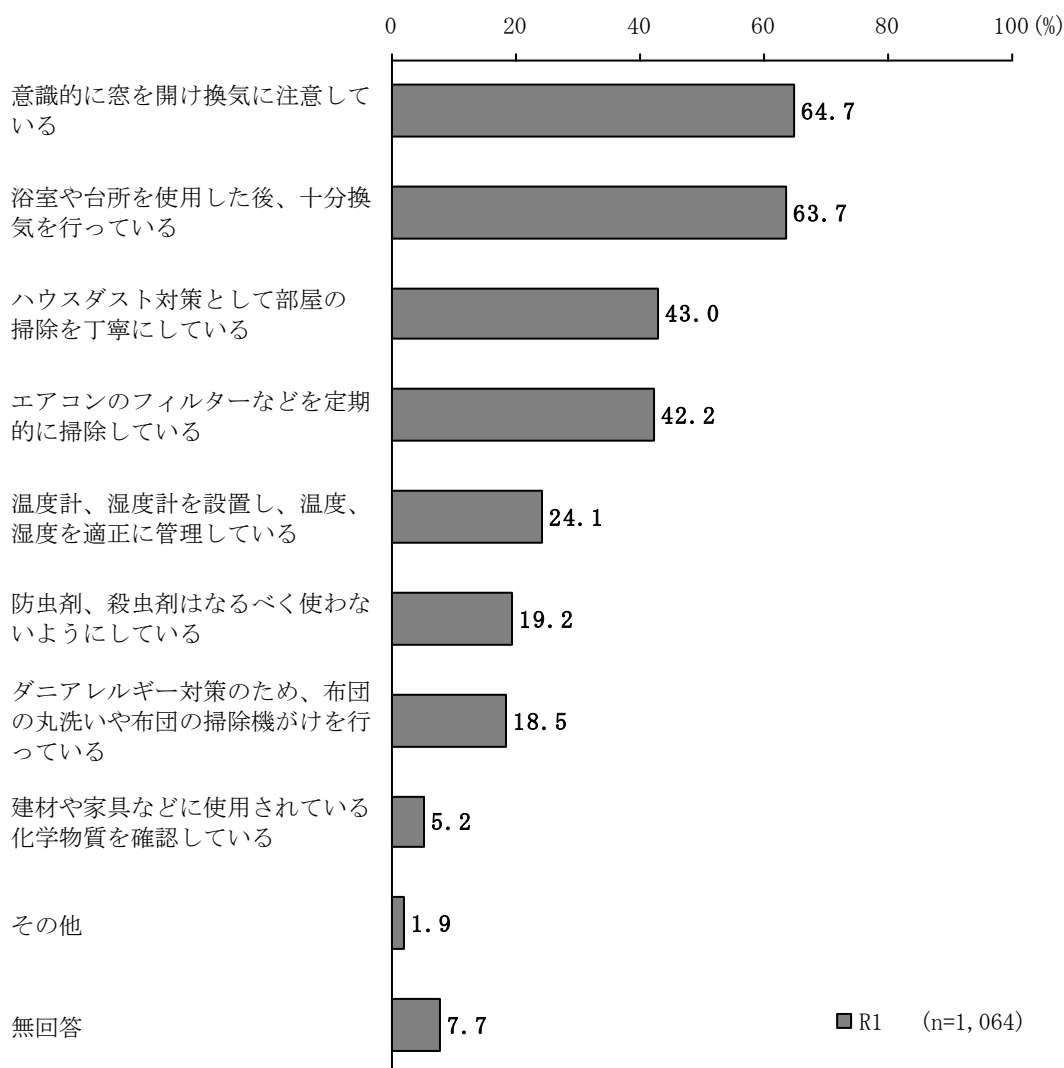
10. 住まいの環境について

(1) 健康的な住まいの環境を維持するために行っていること

—意識的に換気を行っている人が多い—

問48 健康的な住まいの環境を維持するために、意識して行っていることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

図10-1 健康的な住まいの環境を維持するために行っていること



健康的な住まいの環境を維持するために意識して行っていることを聞いたところ、「意識的に窓を開け換気に注意している」(64.7%)が最も高く、次いで「浴室や台所を使用した後、十分換気を行っている」(63.7%)、「ハウスダスト対策として部屋の掃除を丁寧に行っている」(43.0%)、「エアコンのフィルターなどを定期的に掃除している」(42.2%)の順となった(図10-1)。

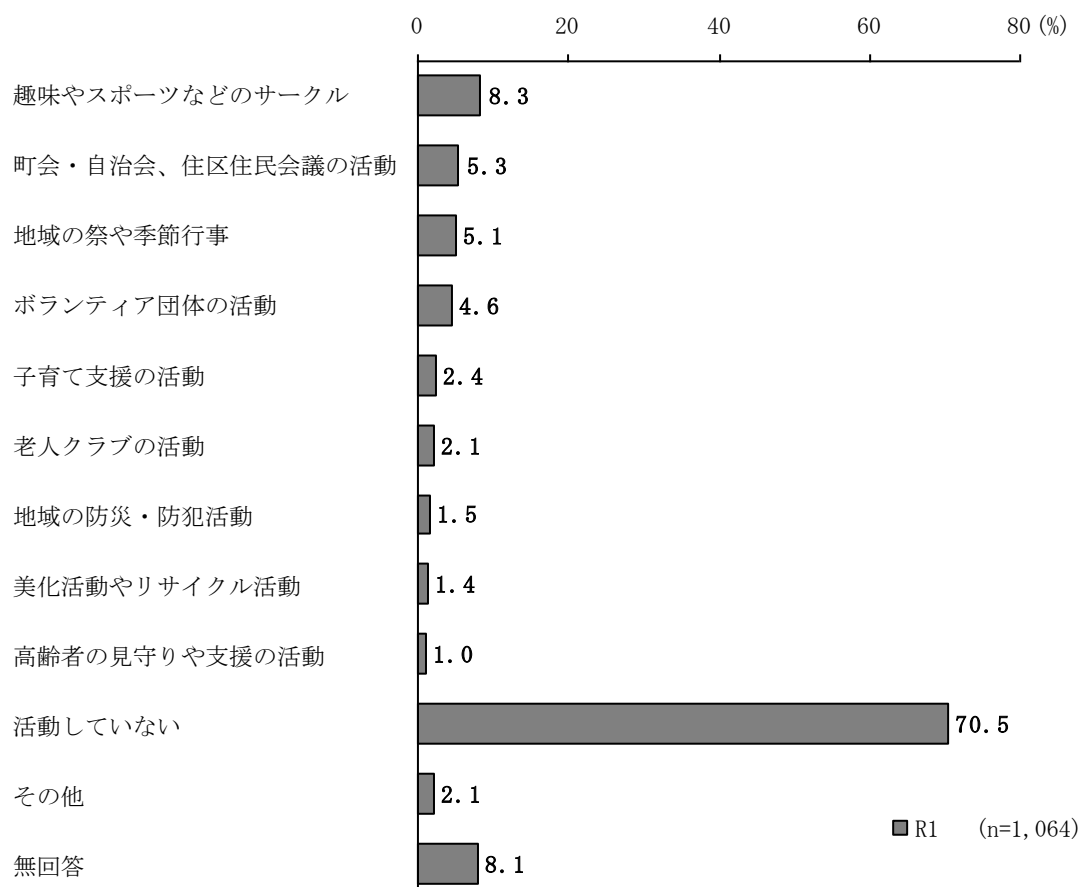
1 1. 地域活動への参加や区への要望について

(1) 地域活動への参加状況

－現在、地域活動を行っていない人が多い－

問 4 9 あなたは、現在、どのような地域活動を行っていますか。
(当てはまるものすべてに○)

図 11-1 地域活動への参加状況



現在行っている地域活動について聞いたところ、「活動していない」(70.5%)が最も高く、以下「趣味やスポーツなどのサークル」(8.3%)、「町会・自治会、住区住民会議の活動」(5.3%)、「地域の祭や季節行事」(5.1%)などとなっている(図 11-1)。

性別で見ると、男性では女性に比べて「町会・自治会、住区住民会議の活動」の比率が高く、女性は男性に比べて「趣味やスポーツなどのサークル」の比率が高くなっている(図 11-2)。

年代別にみると、20代から40代では「活動していない」の比率が8割以上となっている(図 11-3)。

世代別にみると、「地域の祭や季節行事」「子育ての支援活動」を除いた各活動の比率は70歳以上の人のほうが60代以下に比べて高くなっている(図 11-4)。

図 11-2 地域活動への参加状況（性別）

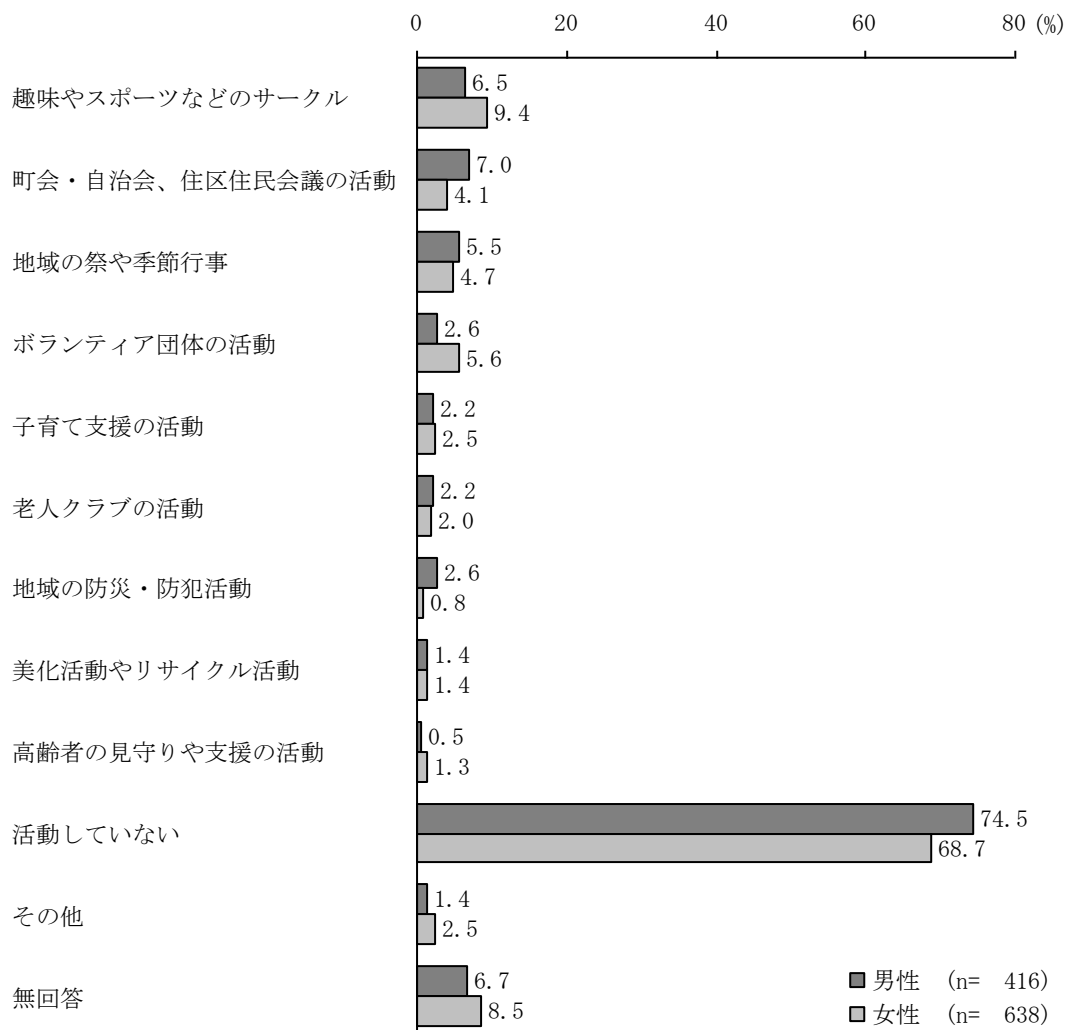
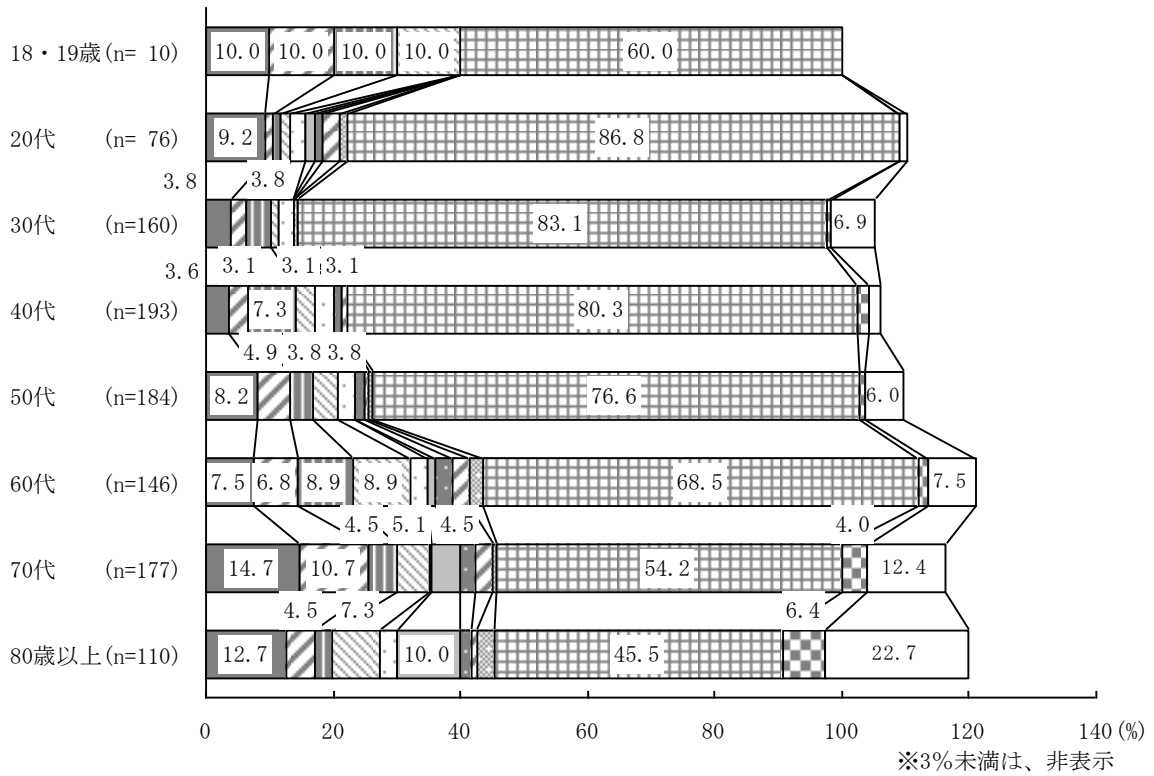
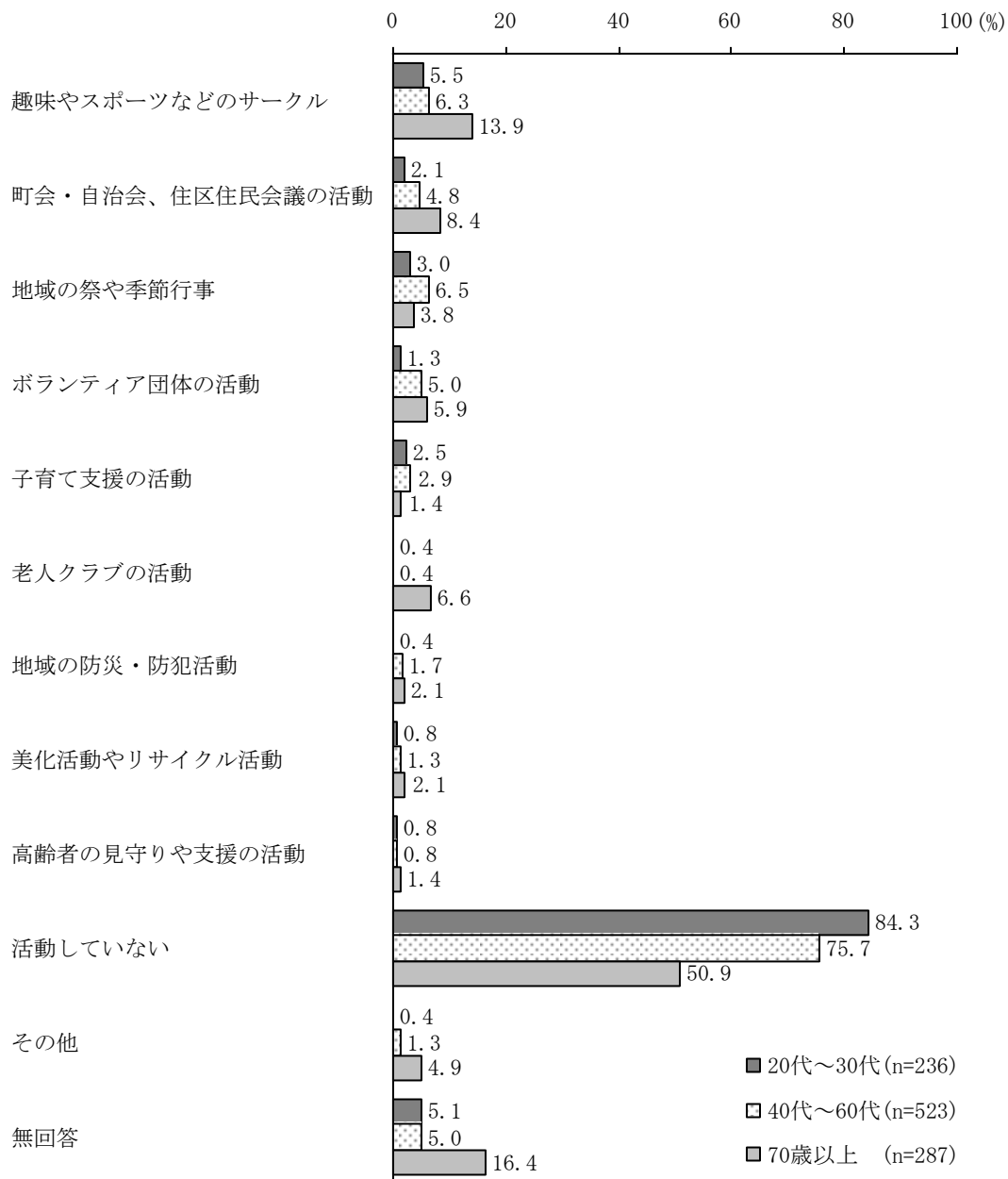


図 11-3 地域活動への参加状況（年代別）



- 趣味やスポーツなどのサークル
- 地域の祭や季節行事
- 子育て支援の活動
- 地域の防災・防犯活動
- 高齢者の見守りや支援の活動
- その他
- 町会・自治会、住区住民会議の活動
- ボランティア団体の活動
- 老人クラブの活動
- 美化活動やリサイクル活動
- 活動していない
- 無回答

図 11-4 地域活動への参加状況（世代別）



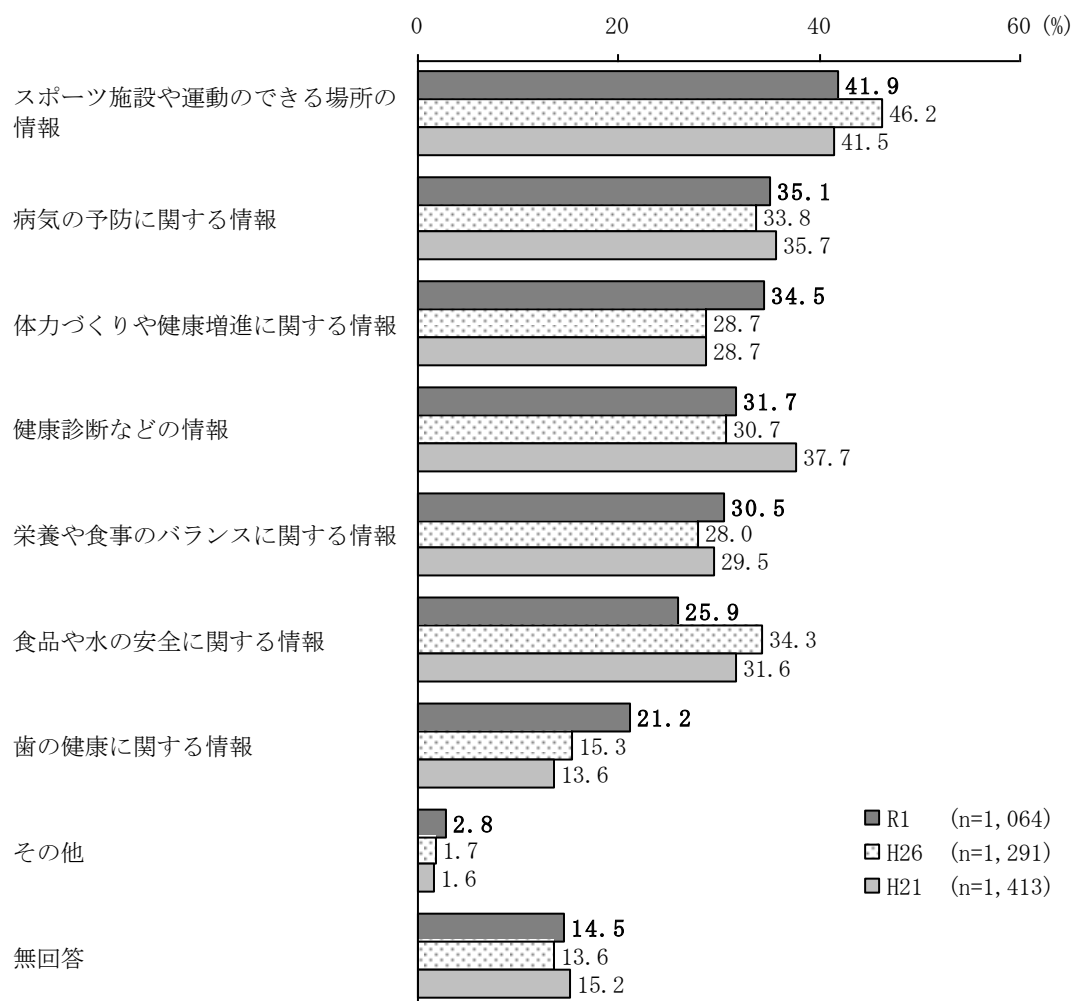
(2) 入手したい情報

－「スポーツ施設や運動のできる場所の情報」への要望が多い－

問50 健康に関する情報として、知りたいことは何ですか。

(当てはまるものすべてに○)

図 11-5 入手したい情報



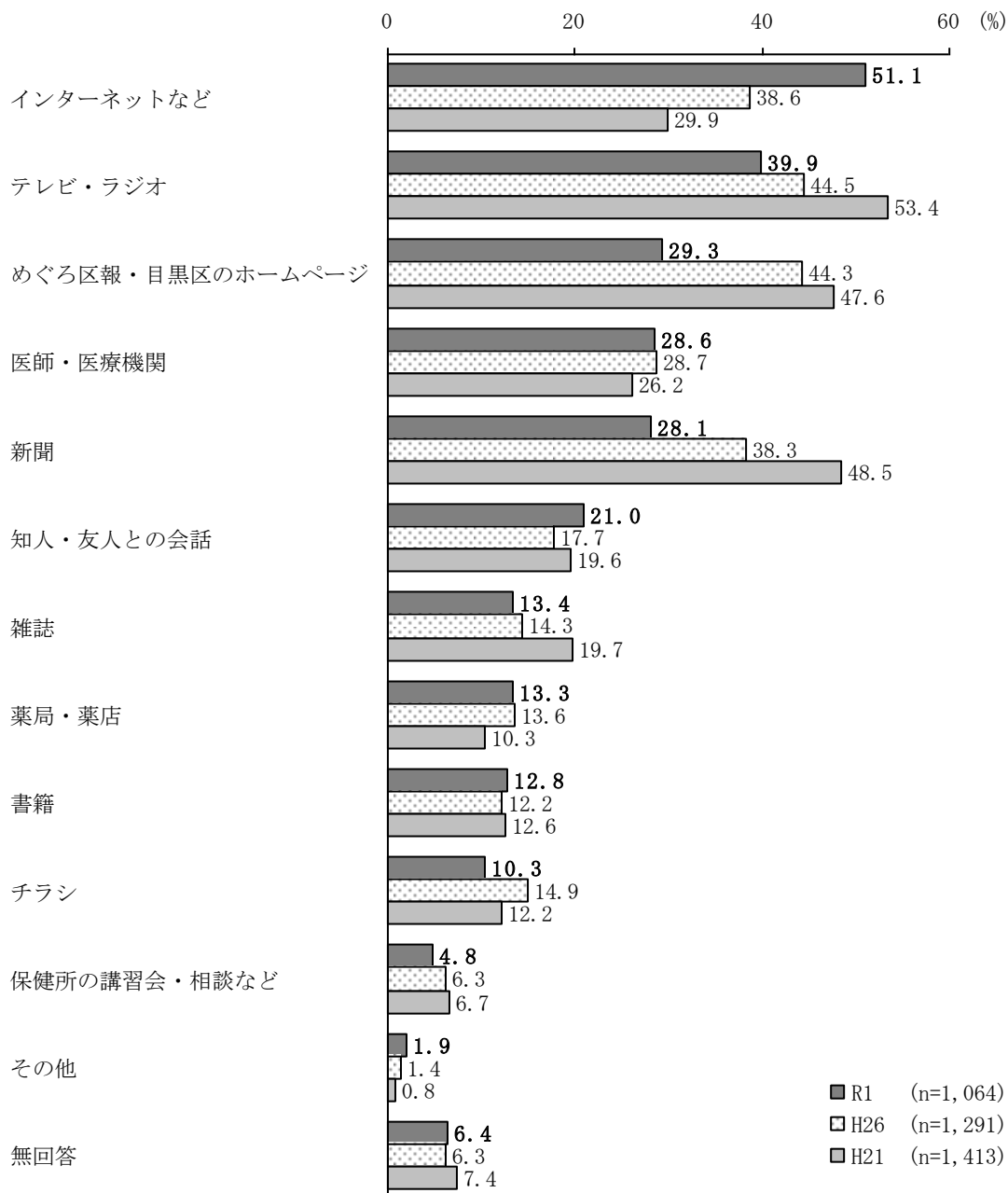
健康に関する情報で知りたいことを聞いたところ、「スポーツ施設や運動のできる場所の情報」(41.9%)が最も高く、次いで「病気の予防に関する情報」(35.1%)、「体力づくりや健康増進に関する情報」(34.5%)、「健康診断などの情報」(31.7%)、「栄養や食事のバランスに関する情報」(30.5%)の順となった(図 11-5)。

(3) 入手先として期待するもの

—インターネットを情報の入手先として期待している人が多い—

問 5 1 今後、健康に関する情報の入手先として期待するものは何（どこ）ですか。
（当てはまるものすべてに○）

図 11-6 入手先として期待するもの



今後、健康に関する情報の入手先として期待するものを聞いたところ、「インターネットなど」(51.1%) が最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(39.9%)、「めぐろ区報・目黒区のホームページ」(29.3%)、「医師・医療機関」(28.6%)、「新聞」(28.1%) の順となった(図 11-6)。

性別で見ると、男性では「インターネットなど」(55.8%)、「新聞」(29.8%)の比率が女性に比べて高くなっている。女性では「テレビ・ラジオ」(43.6%)、「めぐろ区報・目黒区のホームページ」(31.3%)の比率が男性に比べて高くなっている(図 11-7)。

年代別にみると、20代から50代では「インターネットなど」の比率が高くなっている(図 11-8)。

性別・年代別にみると、男性、女性ともに60代以上では「新聞」の比率が高くなっている(図 11-9、図 11-10)。

図 11-7 入手先として期待するもの(性別)

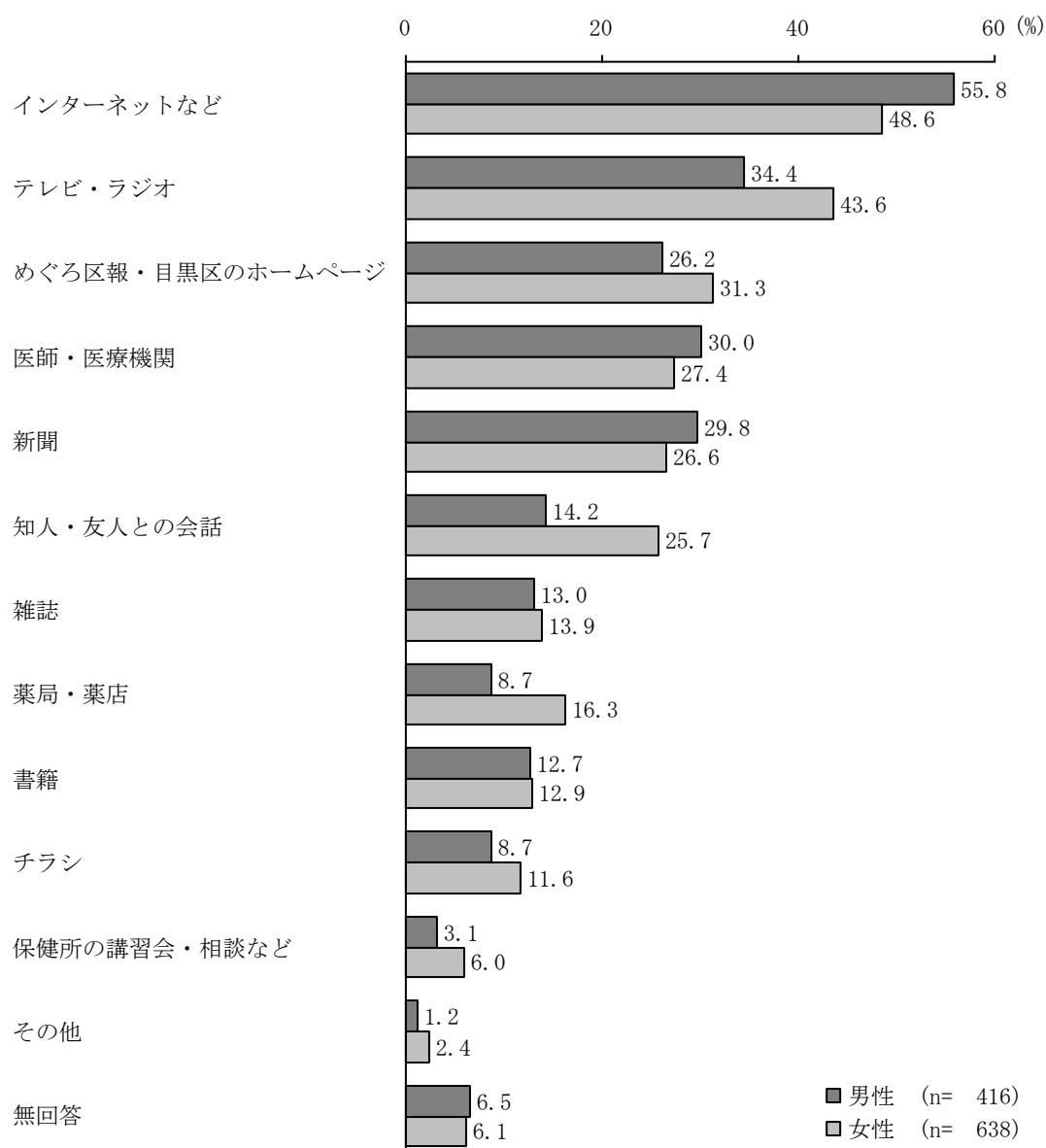


図 11-8 入手先として期待するもの（年代別）

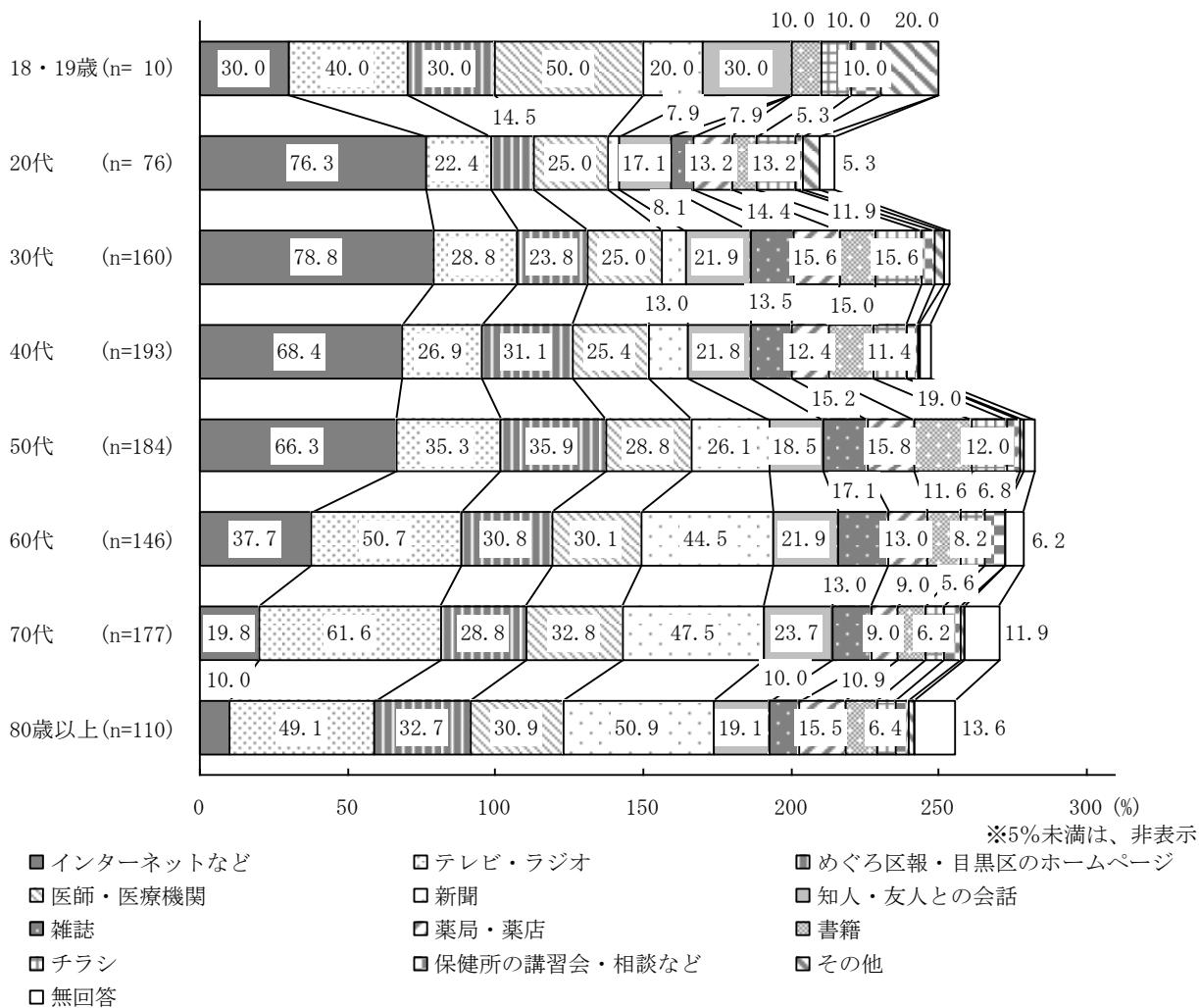


図 11-9 入手先として期待するもの（男性・年代別）

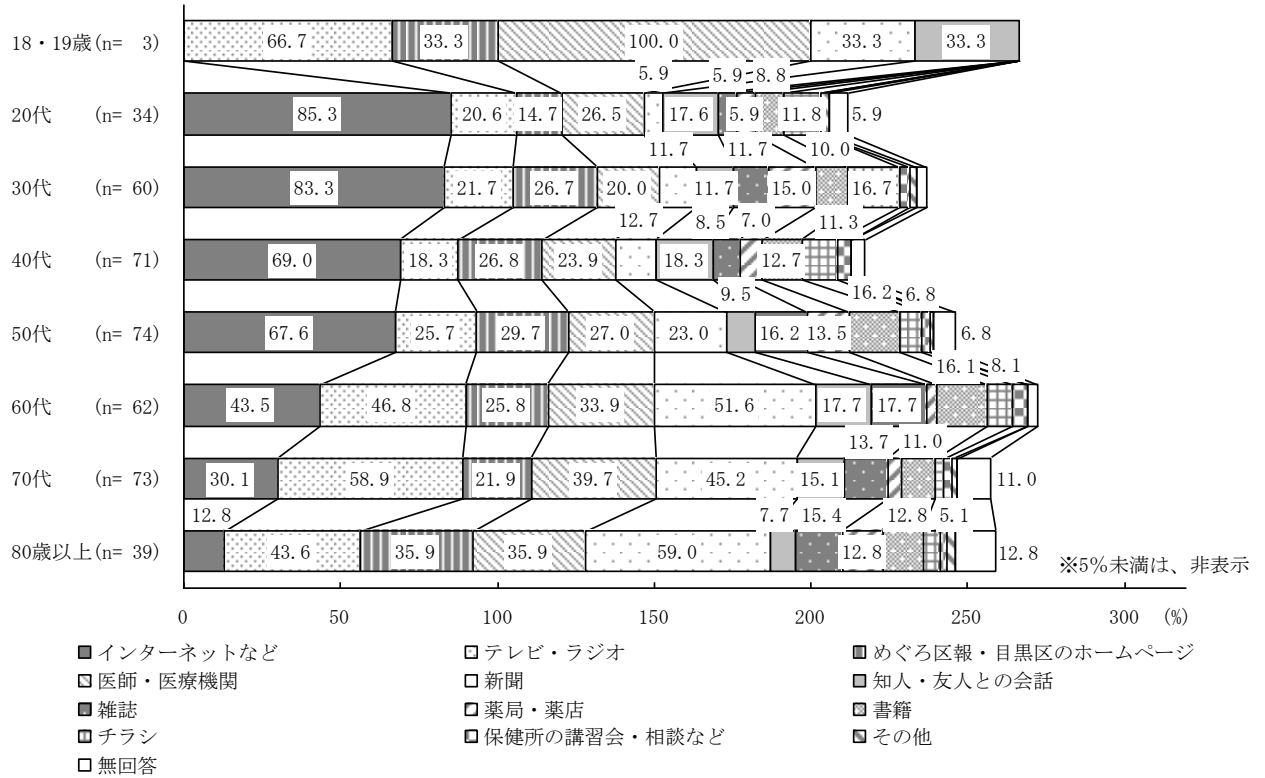
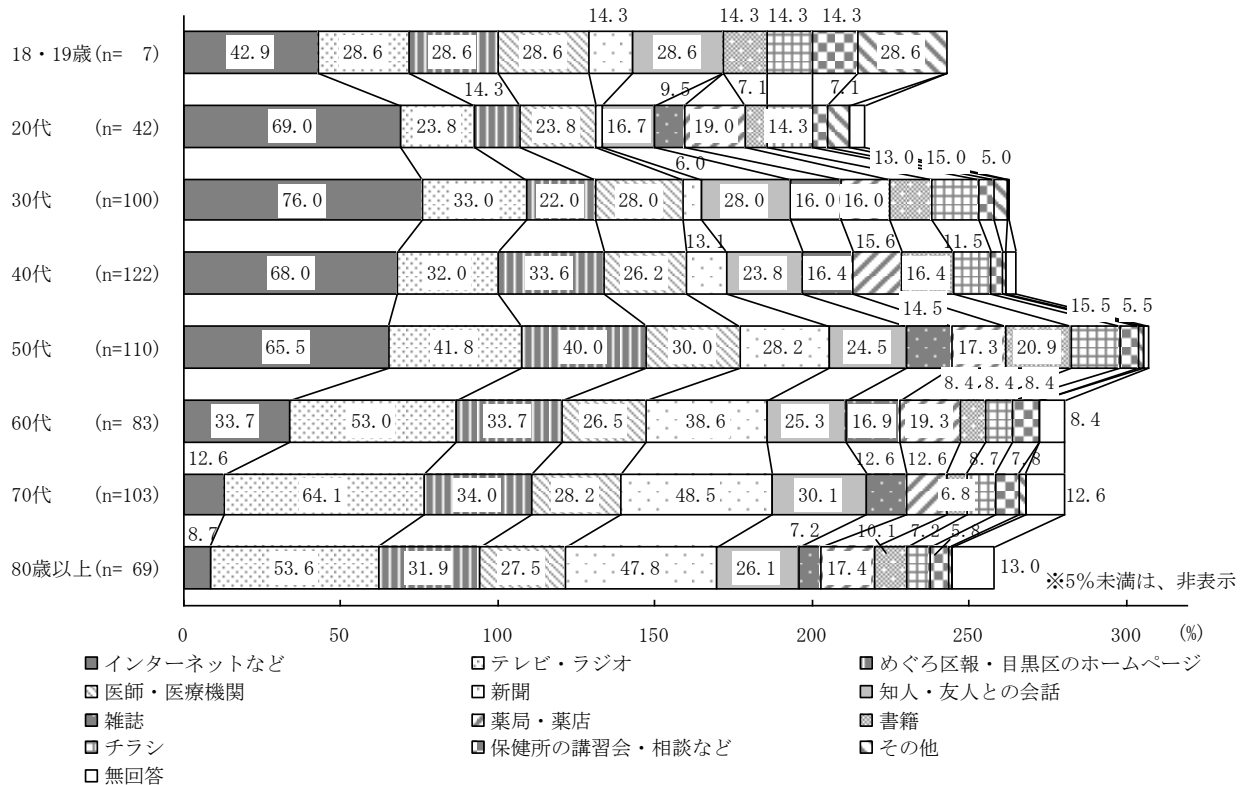


図 11-10 入手先として期待するもの（女性・年代別）

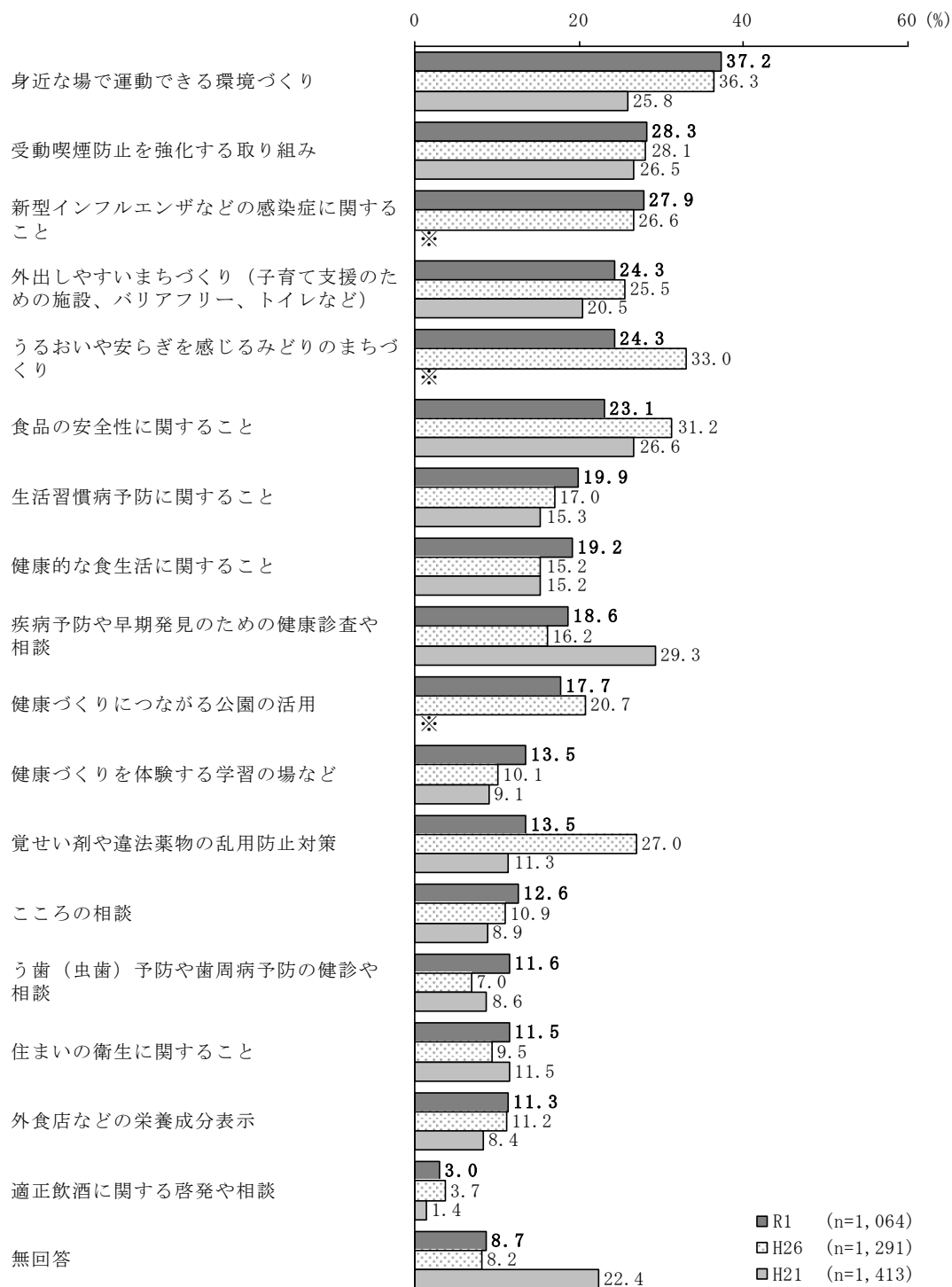


(4) 健康づくり施策の要望

－「身近な場で運動できる環境づくり」への要望が多い－

問5 2 健康に生活するために、今後目黒区で特に力を入れてほしいものは何ですか。
(○は5つ以内)

図 11-11 健康づくり施策の要望



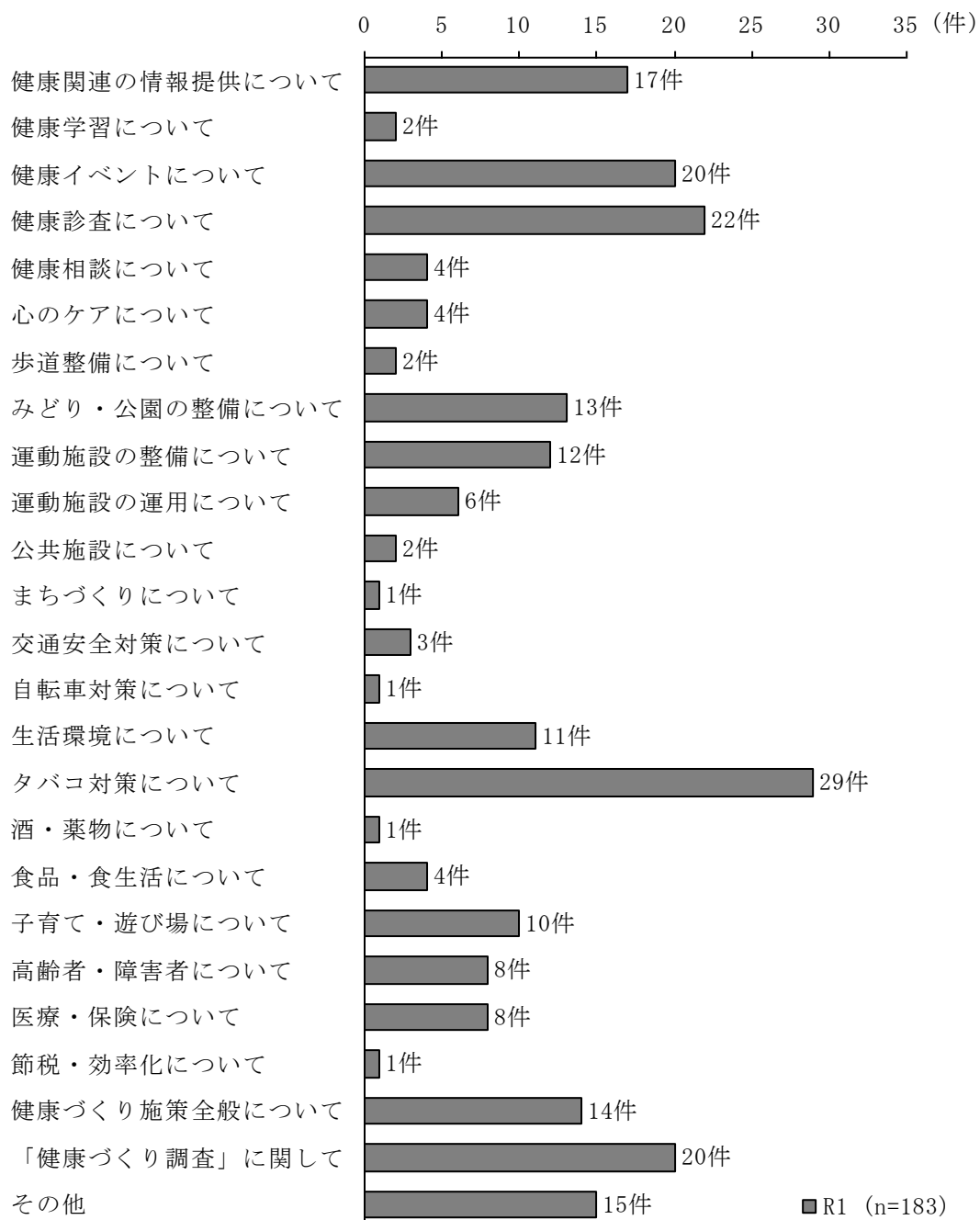
※「新型インフルエンザなどの感染症に関すること」、「うるおいや安らぎを感じるみどりのまちづくり」、「健康づくりにつながる公園の活用」は、H21 調査では選択肢なし

健康に生活するために、今後目黒区で特に力を入れてほしいものを聞いたところ、「身近な場で運動できる環境づくり」(37.2%)が最も高く、次いで「受動喫煙防止を強化する取り組み」(28.3%)、「新型インフルエンザなどの感染症に関すること」(27.9%)、「外出しやすいまちづくり(子育て支援のための施設、バリアフリー、トイレなど)」(24.3%)、「うるおいや安らぎを感じるみどりのまちづくり」(24.3%)、「食品の安全性に関すること」(23.1%)の順となった(図11-11)。

(5) 自由意見の分類

問 5 3 その他、健康づくりに関する施策について、ご意見ご要望などございましたら、自由にご記入ください。

図 11-12 自由意見の分類



自由意見については、183名（17.2%）が記入している。多岐にわたる内容もあるため、複数回答扱いとして分類したところ、「タバコ対策について」（29件）が最も多く、次いで「健康診査について」（22件）、「健康イベントについて」（20件）、「健康づくり調査に関して」（20件）の順となっている（図 11-12）。

